

甲府市内遺跡II

— 平成6年度試掘調査報告書 —

2005

甲府市教育委員会

序

甲府市は中世の武田氏館を中心とした城下町と、近世の甲府城を中心とした城下町とが連結したことをもとに発展した都市です。そのため中世から近世にかけての文化財も多く残されております。また市街地には中近世の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）も多く発見されております。一方郊外には、古墳時代から平安時代にかけての集落跡も多数展開していたことがこれまでの調査により確認されております。

埋蔵文化財も一般の文化財と同様に保護・保存されていくことが最良の方策であります。が、発掘というメスが入れられなければその性格・内容等が不明であるため活用しづらいものです。反面、発掘自身が埋蔵文化財を解体・破壊しつつ行われる作業であり、やり直しや再検証することが不可能となるような諸刃の剣の性格を有するため、試掘・確認調査は最小限の範囲で慎重に行う必要があります。

各種開発行為が計画される中には埋蔵文化財包蔵地も含まれています。その開発行為が埋蔵文化財に対してどのような影響を与えるかを判断するため、試掘・確認調査を実施しております。

今回の報告書は、平成6年度中に実施した調査を本書に掲載いたしました。一つひとつは必要最小限にとどめたため、必ずしも大きな成果が上げられたものではありません。しかし、その調査成果を蓄積することにより、甲府市の歴史・文化を解明することにつながるものと考えております。

試掘調査を実施するにあたりまして、事業者・土地所有者の方々には文化財保護法の主旨をご理解いただき、並々ならぬご協力を賜りまして深く感謝いたします。本書が歴史研究の発展の一助となり、また市民の皆様が郷土史を探求する支えとしてご活用いただけましたら、誠に幸いです。

平成17年3月

甲府市教育委員会

教育長 角田智重

例　　言

1. 本書は、平成6年度に実施した甲府市内における各種開発行為に伴う試掘調査の報告書である。
2. 本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
3. 調査は、信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・兒玉好美（元教育委員会文化財主事）が担当した。
4. 本書の執筆は信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・鈴木由香が、編集は中込功（文化芸術課長）を編集責任者とし、平塚洋一・鈴木由香が行った。
5. 本書の挿図は、栗田かず子・鈴木由香が作成した。
6. 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
7. 発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。

8. 調査参加者

秋山幹夫	浅川道恵	浅川本雪	雨宮英郎	池谷富士子	一瀬祥子
伊藤博	大竹祐輝	岡悦子	小沢菊太郎	梶原薰	金井いく代
岸本美苗	倉田勝子	栗田宏一	小宮通子	三枝袈裟男	坂本しのぶ
佐藤真佐美	佐田金子	寿盛正雄	高谷澄矢	武井美知子	戸沢千代子
中村操	根岸利昭	花曲敬子	平沢則子	深沢久子	保坂邦雄
室賀義幸	望月利子	山崎悦子	山崎さかゑ	山村正之	吉原恒夫
吉原裕子	渡辺百合子				(敬称略)

凡　　例

1. 遺構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。
2. 遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。
3. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図中に表示したスケールのとおりである。
4. 調査区位置図には、甲府市都市計画図（1/2500）を使用した。
5. 遺物観察表中の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997 後期）に基づいて記載した。
6. 図中のスクリーントーン指示は、個々の図面上に表示している。

目 次

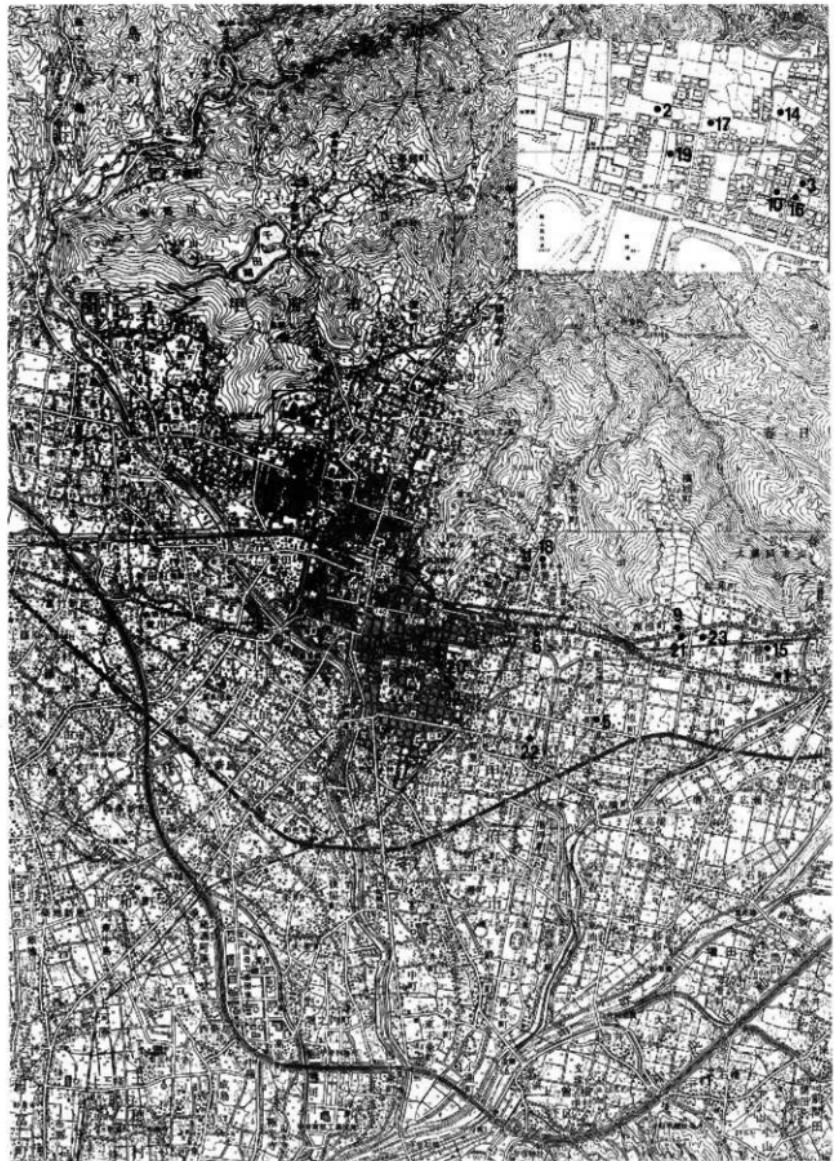
序	
例	言
凡	例
目	次

市内遺跡試掘調査

調査位置図	1
調査一覧表	2
周辺の遺跡分布図	3 ~ 10
1 桜井畠遺跡	11
2 緑が丘二丁目遺跡（第1次）	15
3 緑が丘二丁目遺跡（第2次）	16
4 朝氣遺跡（第9次）	18
5 塚腰遺跡	19
6 本郷C遺跡	21
7 緑が丘一丁目遺跡（第3次）	22
8 金塚西遺跡	25
9 大坪遺跡（第5次）	29
10 緑が丘二丁目遺跡（第3次）	34
11 宮の脇A遺跡	36
12 朝氣遺跡（第10次）	37
13 前田遺跡	38
14 緑が丘二丁目遺跡（第4次）	39
15 北田遺跡	42
16 緑が丘二丁目遺跡（第5次）	43
17 緑が丘二丁目遺跡（第6次）	45
18 加藤光泰の墓	47
19 緑が丘二丁目遺跡（第7次）	51
20 朝氣遺跡（第11次）	56
21 大坪遺跡（第6次）	57
22 油田遺跡	57
23 大坪遺跡（第7次）	58
24 緑が丘一丁目遺跡（第4次）	66

写真図版

図版 1 桜井畑遺跡	67
図版 2 緑が丘二丁目遺跡（第2次）、塚腰遺跡	68
図版 3 本郷C遺跡、緑が丘一丁目遺跡（第3次）	69
図版 4 金塚西遺跡	70
図版 5 大坪遺跡（第5次）(1)	71
図版 6 大坪遺跡（第5次）(2)	72
図版 7 大坪遺跡（第5次）(3)、緑が丘二丁目遺跡（第3次）、前田遺跡	73
図版 8 緑が丘二丁目遺跡（第4次）、緑が丘二丁目遺跡（第5次）	74
図版 9 緑が丘二丁目遺跡（第6次）	75
図版10 加藤光泰の墓(1)	76
図版11 加藤光泰の墓(2)、緑が丘二丁目遺跡（第7次）(1)	77
図版12 緑が丘二丁目遺跡（第7次）(2)	78
図版13 緑が丘二丁目遺跡（第7次）(3)、大坪遺跡（第7次）(1)	79
図版14 大坪遺跡（第7次）(2)	80



●番号は調査一覧表と対応

0 2000m

図1 調査位置図

平成6年度 市内遺跡調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺構	遺物
1	桜井烟燐跡	川田町495-2	個人住宅建設	26m ²	5/23~6/15	土坑、溝跡	甕、壺、高杯、手握ね上器、灰陶陶器
2	縁が丘二丁目遺跡（第1次）	和山町等の前2431-1	宅地造成	6m ²	6/23	なし	土師器小片
3	縁が丘二丁目遺跡（第2次）	縁が丘二丁目791-2地	集合住宅建設	25.2m ²	6/24~30	なし	縄文土器、土師器要、Ⅲ、かわらけ
4	炳気遺跡（第9次）	炳氣三丁目18	個人住宅建設	12m ²	7/5~8	なし	土師器小片
5	塙原遺跡	国工町899	市道建設	325m ²	8/25~9/28	なし	甕、台付甕、高杯、鍋、石斧
6	木都C遺跡	善光寺一丁目1909-1	集合住宅建設	12m ²	9/6~9	なし	甕、碗または皿、火鉢
7	縁が丘二丁目遺跡（第3次）	縁が丘二丁目135-5	個人住宅建設	16m ²	9/28~10/12	土坑、溝跡	台付甕、环、高杯
8	金原西遺跡	千塚三丁目2237他	公園建設	48m ²	9/13~10/14	なし	甕、台付甕、环、須恵器、骨盤
9	大坪遺跡（第5次）	櫻樹町608	集合住宅建設	16m ²	9/30~10/12	溝跡	甕、台付甕、环、蓋、錢貨
10	縁が丘二丁目遺跡（第3次）	縁が丘二丁目893-1地	個人住宅建設	8m ²	10/18~24	土坑墓	甕、台付甕、高杯
11	宮の脇A遺跡	善光寺二丁目739-1	物置・單層建設	4m ²	10/19	なし	なし
12	炳気遺跡（第10次）	炳氣三丁目71-1~4地	宅地造成	12m ²	11/1~7	なし	なし
13	前田遺跡	池田二丁目285-1他	個人住宅建設	8m ²	11/7~10	なし	甕、蓋、砾石
14	縁が丘二丁目遺跡（第4次）	和田町709他	宅地造成	20m ²	11/8~15	なし	甕、甕、台付甕、碗、縫物陶器
15	北田遺跡	川田町字鬼田114-3、9	個人住宅建設	8m ²	11/11~14	なし	なし
16	縁が丘二丁目遺跡（第5次）	縁が丘二丁目897-1~3	宅地造成	12m ²	11/16~25	なし	深鉢、甕、須恵器
17	縁が丘二丁目遺跡（第6次）	和田町字木口728-1	集合住宅建設	16m ²	11/21~12/8	なし	环、高杯、縫物・灰陶陶器、須恵器
18	加藤光糸の墓	善光寺三丁目36-1	暮城整備	4m ²	11/21~12/9	なし	かわらけ、陶器、柒付、錢貨
19	縁が丘二丁目遺跡（第7次）	縁が丘二丁目2393-1他	宅地造成	180m ²	12/6~1/10	焼土	甕、台付甕、环、縫物陶器
20	炳気遺跡（第11次）	炳氣三丁目81	個人住宅建設	4m ²	12/12~16	なし	甕、环
21	大坪遺跡（第6次）	櫻樹町字方右手305	個人住宅建設	2.76m ²	12/19~21	なし	土師器小片
22	油田遺跡	蓬沢一丁目123-1	個人住宅建設	90m ²	2/8	なし	なし
23	大坪遺跡（第7次）	桜井町角田600他	埋藏文化財確認	300m ²	3/13~27	多穴住居跡、溝跡	縄文土器・壺、台付甕、高杯・壺・丸底鉢
24	縁が丘二丁目遺跡（第4次）	縁が丘二丁目35-3、4	集合住宅建設	4m ²	3/22~31	なし	土師器小片

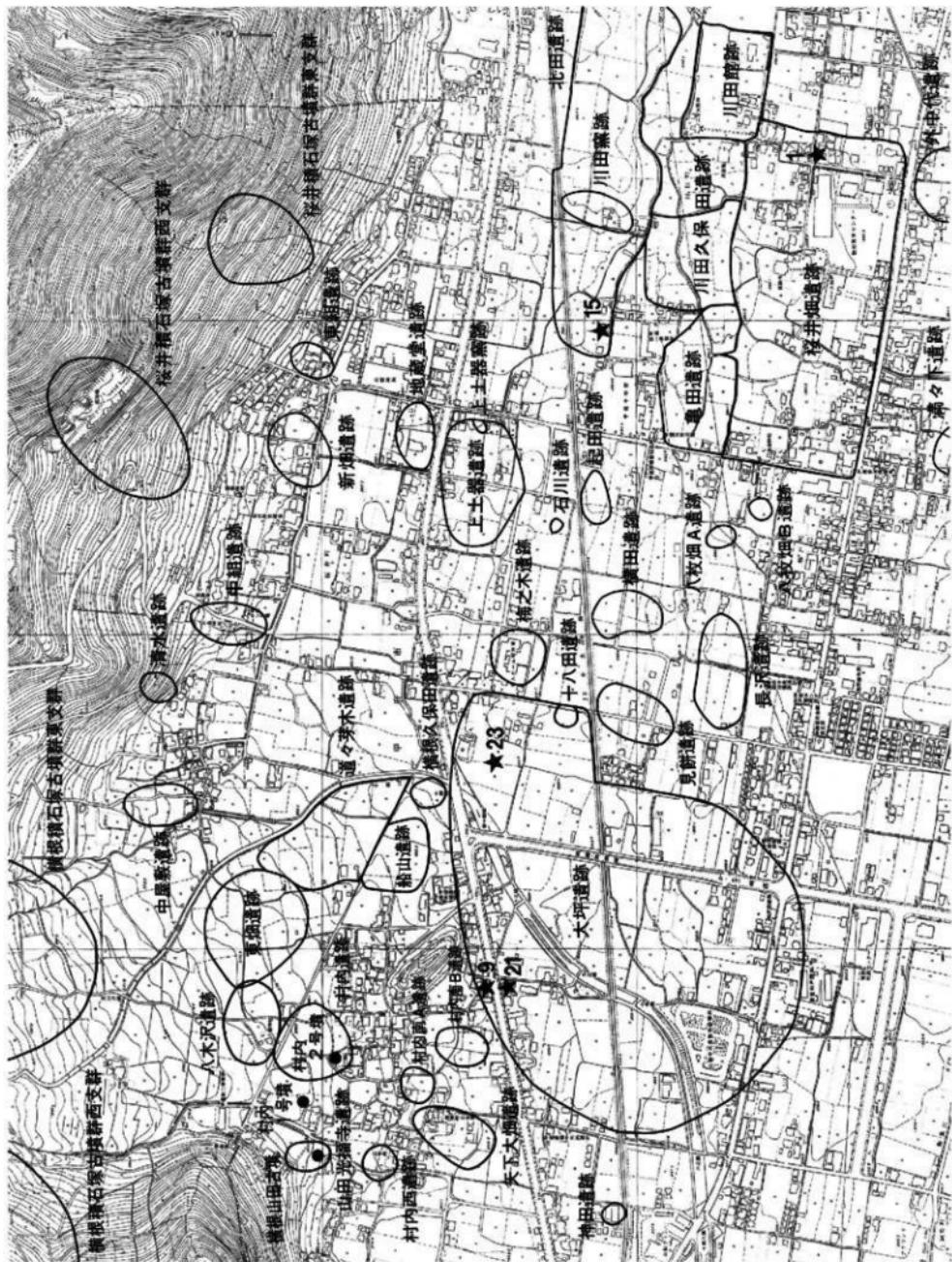


図2 周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

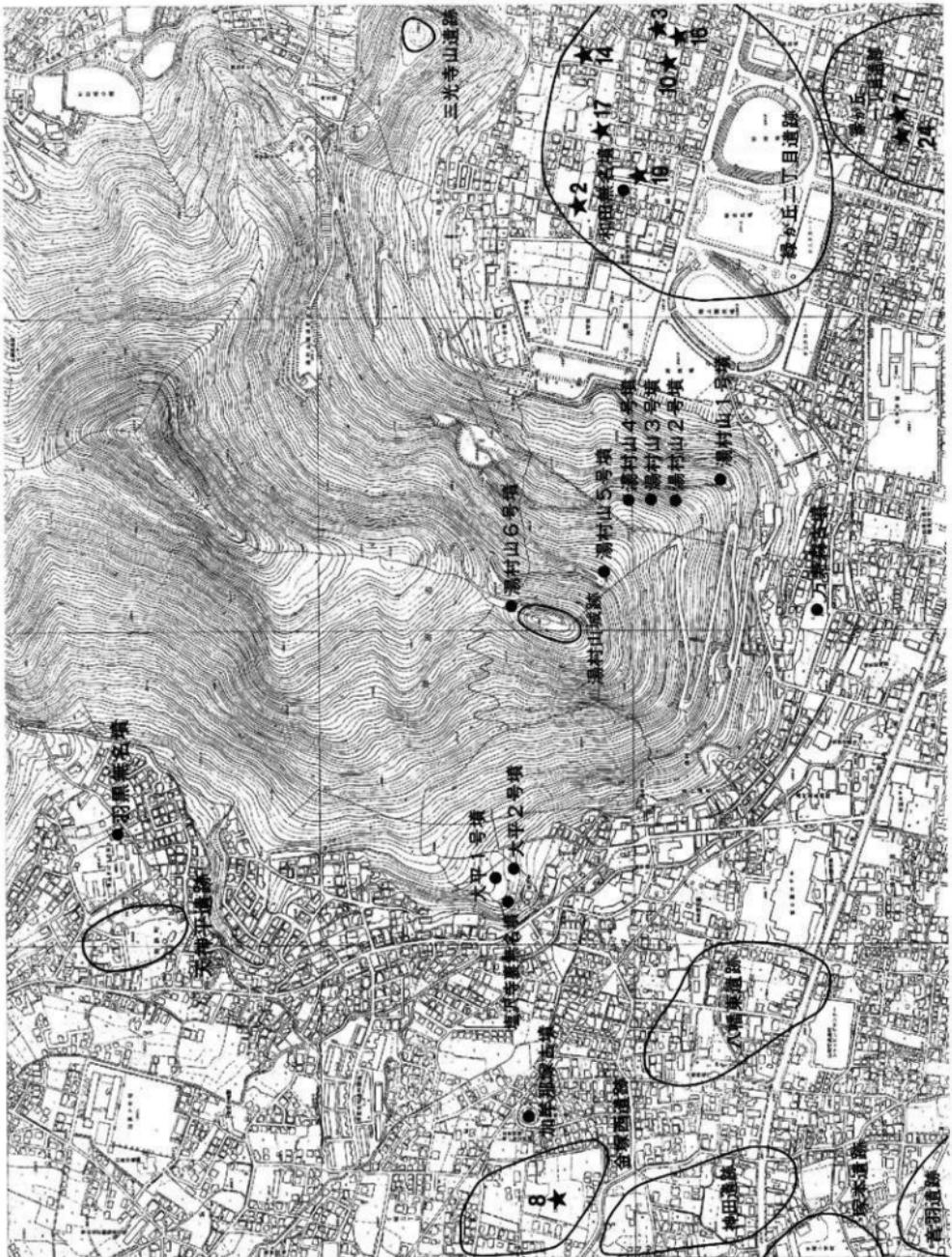


図3 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)

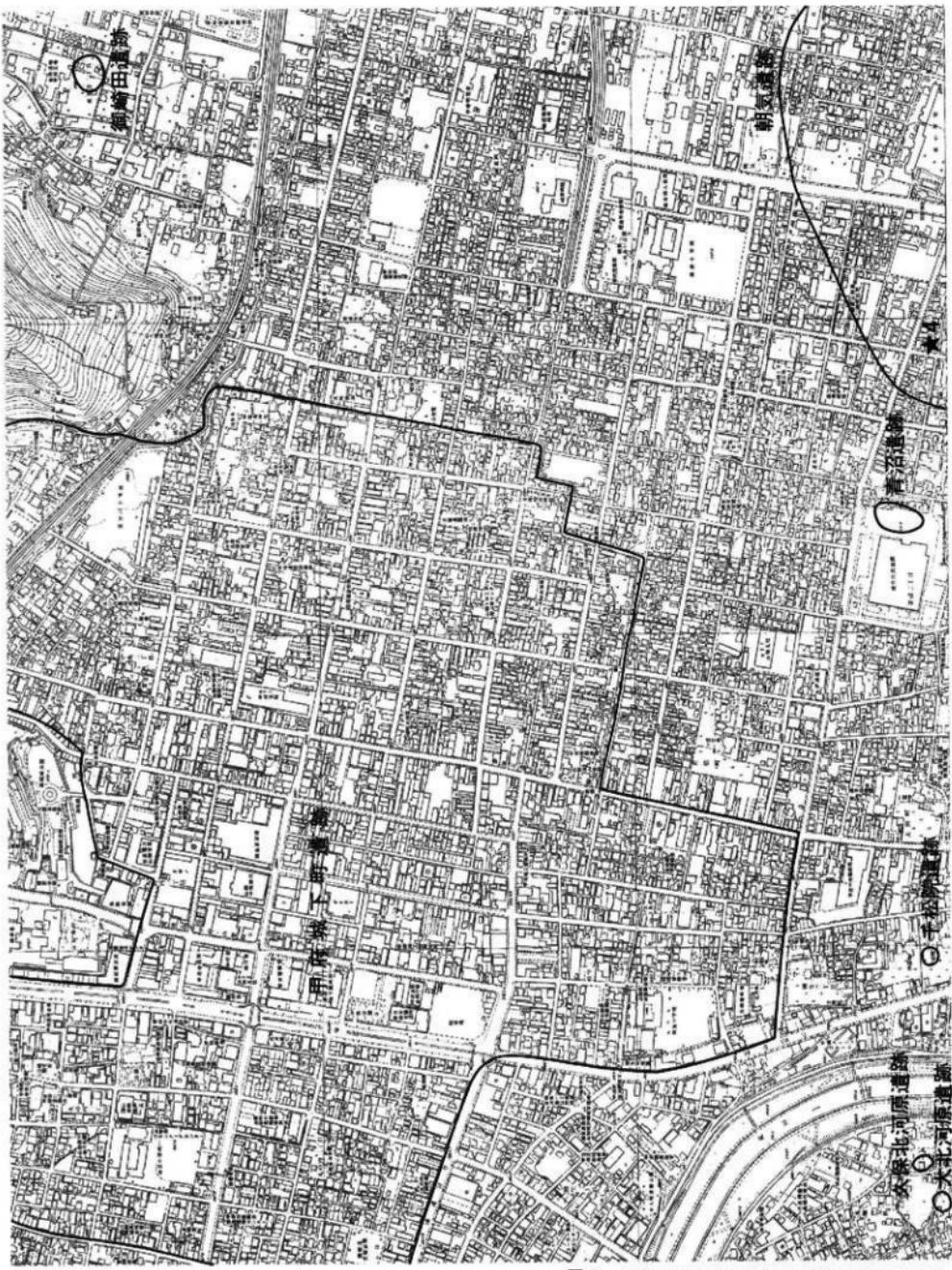


図4 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)

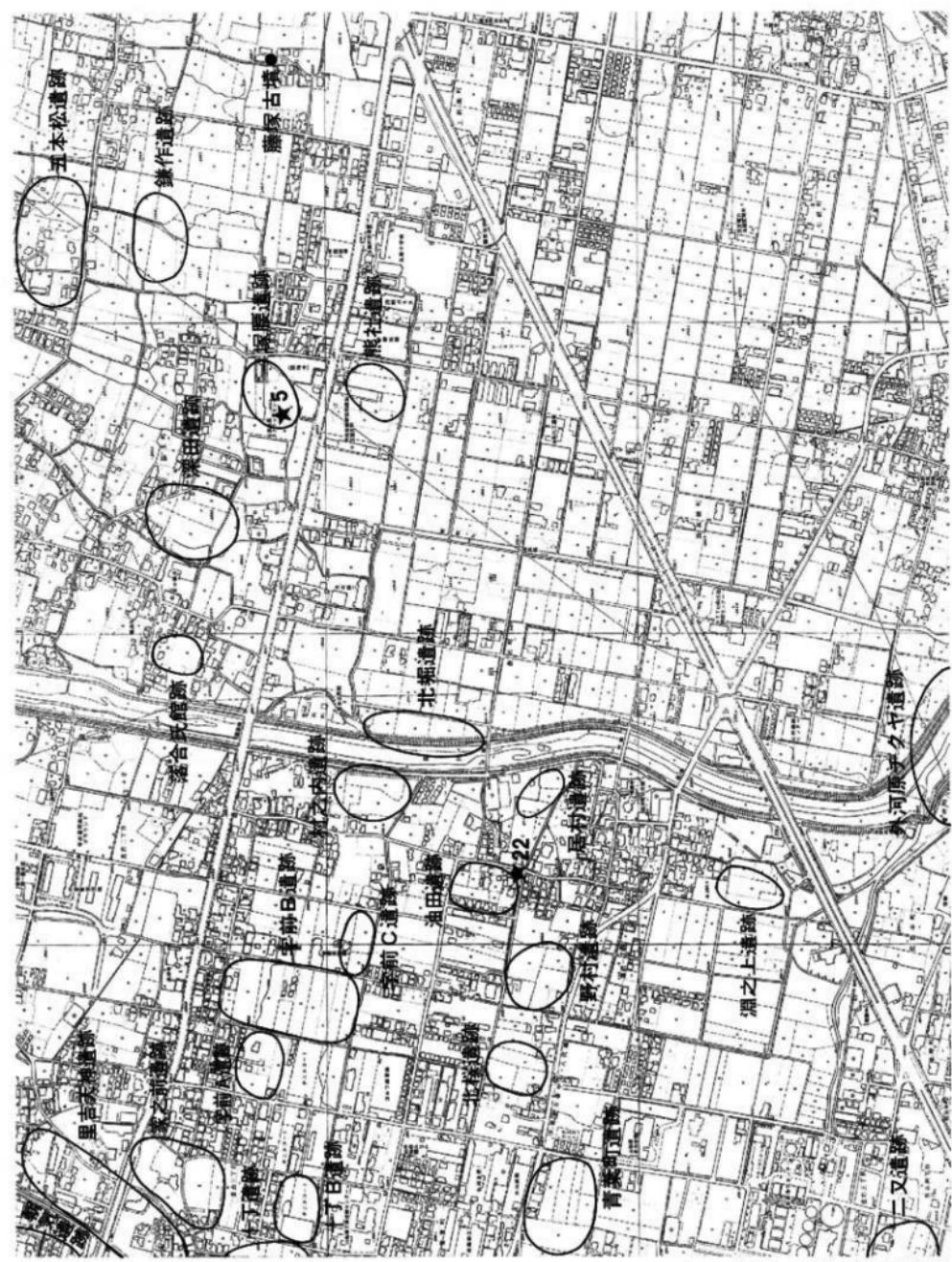


図5 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)



図 6 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)



図 7 周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

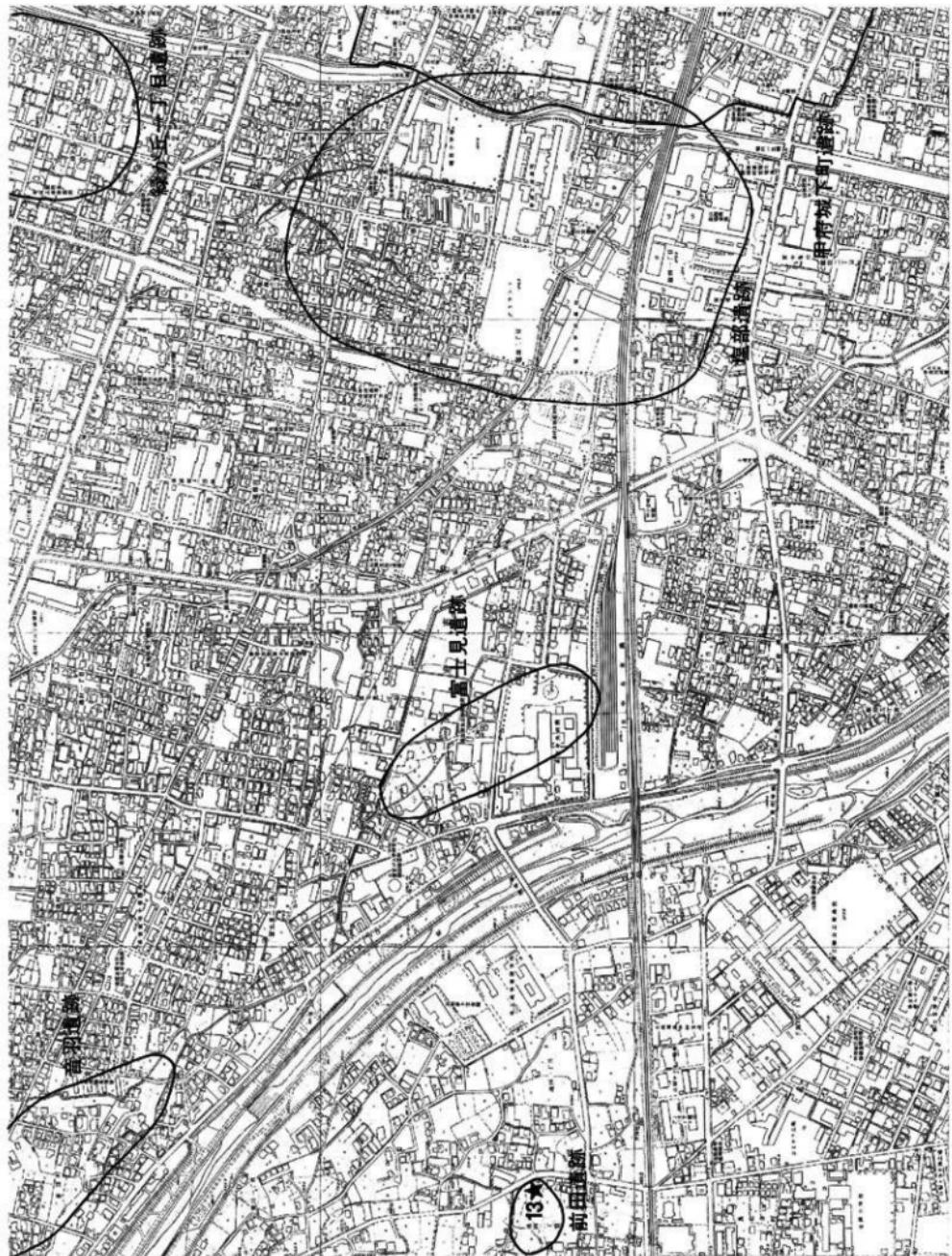


図8 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)

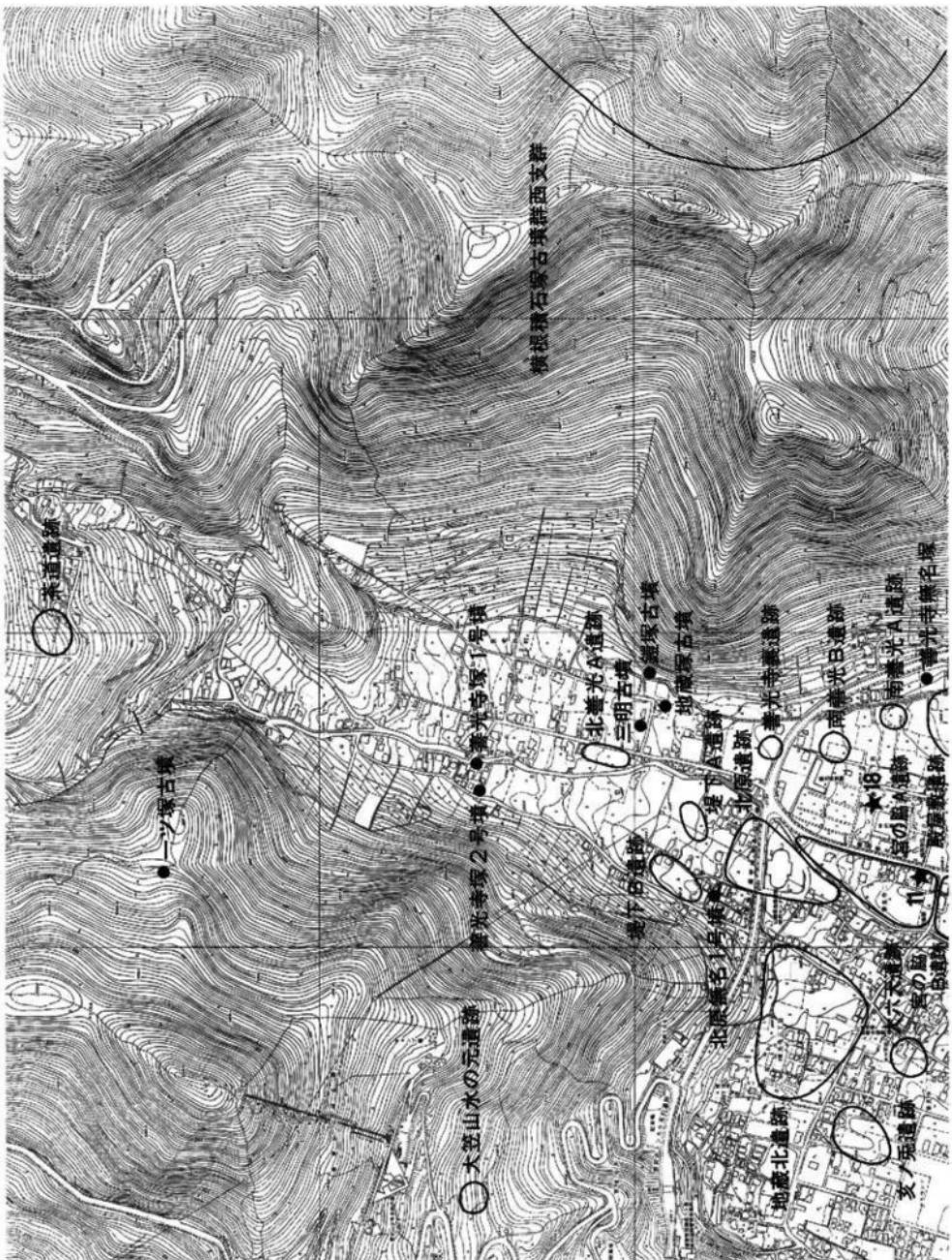


図9 周辺の遺跡分布図 (★は本報告書掲載の調査地点)

1 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市川田町495-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 約250m²
調査面積 26.0m²
調査期間 平成6年5月23日～6月15日
調査担当 信藤祐仁



遺跡の概要

桜井畠遺跡は、旧笛吹川によって形成された沖積地の微高地上に立地している。調査地点西に隣接する甲府勤労者総合福祉センター建設に先立って、山梨県埋蔵文化財センターが行った発掘調査では、古墳時代前期の一辺30m以上の大型方形周溝墓や古墳時代・奈良時代・平安時代の竪穴住居跡のほか、村落内寺院と想定される掘立柱建物跡が検出されている。また、北東側約150mには、甲斐国守護武田信昌・信繩・信虎が使用した川田館跡が存在し、西暦1500年前後には付近一帯にも館に関連する町場が展開していたことが想定されている。

調査の概要

工事予定地に東西方向13×2mの試掘トレーニチを設定し、地表から人力によって掘り下げ埋蔵文化財を確認した。表土剥ぎが終了した時点で、黄褐色の地山となる土層に掘り込みが観察された。擾乱及び遺構を掘り下げ、同時に東端を深掘りして基本上層の堆積状況を調査した。

遺構

東端を除いて中央部から西側に遺構が存在し、溝1本、土坑5基が確認された。検出された溝、土坑ともに調査区外まで広がっているので、全容は不明である。

1号溝路はトレーニチ長軸に直交するもので、幅190cm、深さ105cm、断面はU字状を呈する。遺物のほとんどは上部に集中し、底面付近には1個体のみであった。

1号土坑は円形で、径190cm以上、深さ75cm。2号土坑と4号土坑を切っている。2号土坑は略楕円形で、径200cm以上、深さ55cm、南北が長軸となる。3号土坑は円形で、径70cm以上、深さ20m。4号土坑は楕円形で、長径約200cm、深さ60m。5号土坑は円形で、長径約200cm以上、深さ50cm。5基の土坑は3号を除いて西側に重複しており、土坑として把握できた以外の空白地も、土坑など何らかの遺構の一部である可能性が高い。

出土遺物

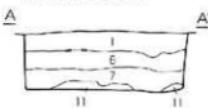
弥生時代から中世までの遺物が確認されたが、古墳時代前期の土器を中心とする。1～9は1号溝からの出土で、1～4は高環脚部、5は手捏ね土器、6～8は壺か甕の口縁部である。9は、胴部下間に焼成前の穿孔がある特殊な器形である。9のみが溝底部付近であるほかは、ほとんど溝が埋まりきった覆土からの出土である。その他、古墳時代後期・平安時代及び中世の土器、須恵器、灰釉陶器等が出土している。

まとめ

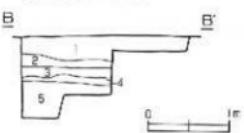
本地点では古墳時代前期の溝と土坑が検出され、1号溝路は方形周溝墓の一部である可能性があり、同時期の遺跡の空間構成を考えるうえで示唆的である。また、中世の遺物は、15世紀中葉から16世紀初頭にあった川田館の城下集落に関係する遺物であると推定される。

(信藤祐仁)

西壁セクション図



東壁セクション図



1号溝跡

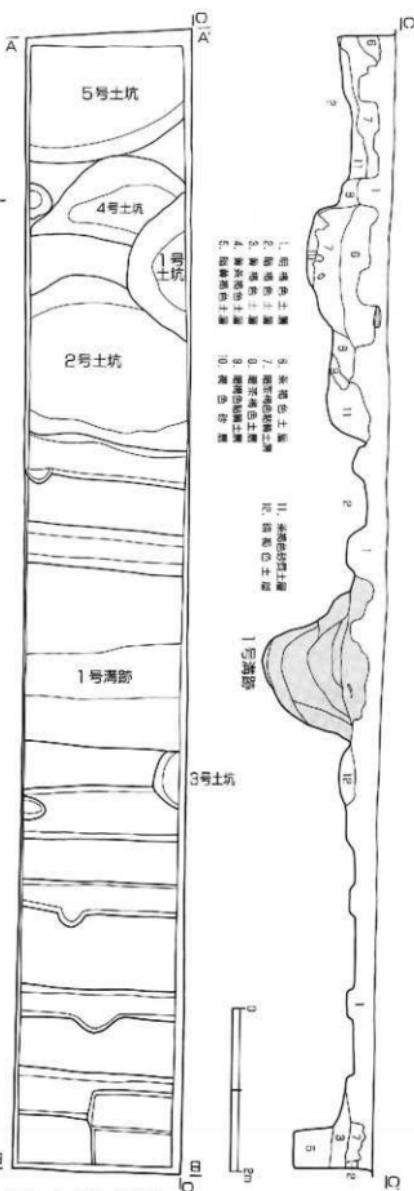
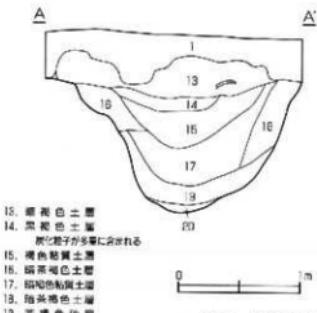
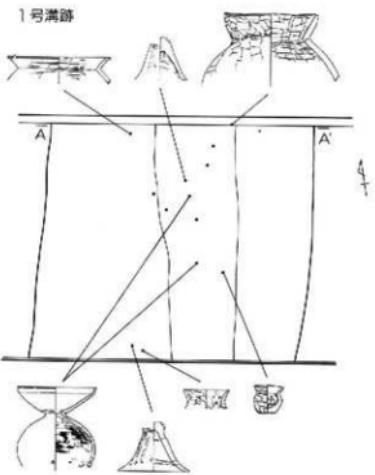


図1 調査区全体図・セクション図 1号溝跡

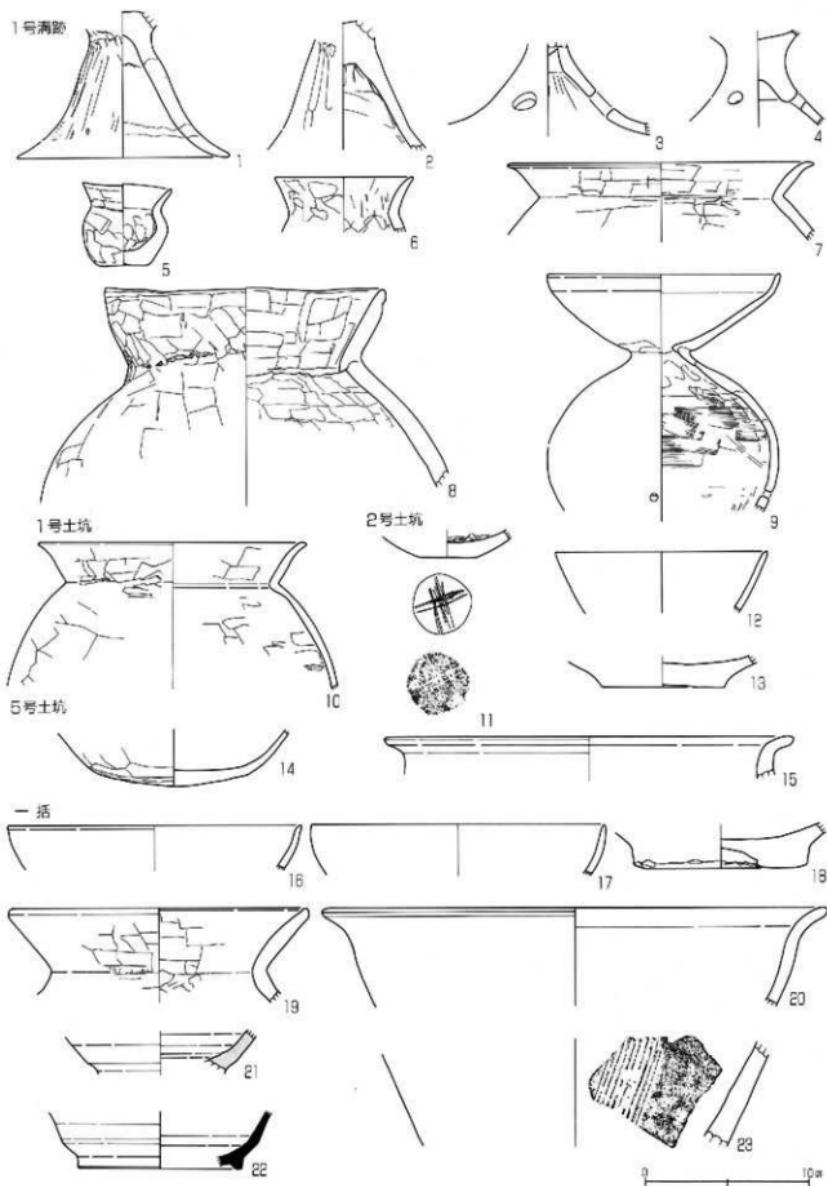


図2 出土遺物

表1 桜井畠遺跡出土遺物観察表

()復元値。単位(cm)

番号	種別	部	法量(cm)	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	高环	- - - - (13.0)	脚部	内面ナガ 外面ハラミガキ、ハケ	長石・赤色・褐色粒子	良	5YR 程 6/6	輪縁底、1号溝跡
2	土器	高环	- - - - -	脚部	内面ハケ 外面ヘラミガキ	長石・赤色粒子	良	5YR 程 6/6	1号溝跡
3	土器	高环	- - - - -	脚部	掌託にて不鮮明	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 程 6/6	1号溝跡
4	土器	高环	- - - - -	脚部	不明	長石・石英	良	7.5YR 程 7/6	1号溝跡
5	土器	手形丸上器	5.4 - 5.6 - 2.8	ほぼ完形	内面指痕板 外面ナガ	長石	良	7.5YR 程 7/6	1号溝跡
6	土器	小型壺か	(8.3) - - -	口縁部～ 全体	内面ハケ、ナデ 外面ナガ	赤色粒子	良	5YR 程 6/6	1号溝跡
7	土器	壺か壺	(18.0) - - -	口縁部～ 脚部	内面ハケ、ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR に近い程 6/4	1号溝跡
8	土器	壺	17.0 - - -	口縁部～ 脚部	ナデ	長石・石英・赤色・褐色粒子	良	5YR 程 6/6	1号溝跡
9	土器	不明	(14.0) - - -	口縁部～ 全体	内面指痕板、ハケ 外面ナガ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 程 6/8	焼成前穿孔 1号溝跡
10	土器	壺	(16.0) - - -	口縁部～ 脚部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・金雲母	良	10YR 淡黄褐 5/2	1号土坑
11	土器	壺	- - - - (3.5)	全体～ 底部	内面ハケ 外面ナガ	赤色粒子	良	5YR 程 6/6	底部に繊細 2号土坑
12	土器	环	(12.8) - - -	口縁部～ 全体	摩耗にて不鮮明	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 程 6/6	2号土坑
13	土器	壺か	- - - - (7.5)	底部	不明	長石・赤色粒子	良	7.5YR に近い程 6/4	2号土坑
14	土器	环	- - - - -	全体～ 底部	内面摩耗にて不鮮明 外面ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	7.5YR に近い程 6/4	5号土坑
15	土器	壺	(24.0) - - -	口縁部～ 全体	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 程 6/8	5号土坑
16	土器	杯	(18.0) - - -	口縁部～ 全体	ナデ	石英・赤色粒子	良	10YR 淡黄褐 8/4	
17	土器	壺	- - - - -	全体	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 淡黄程 8/3	
18	土器	壺	- - - - -	底部	不明	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 程 7/6	
19	土器	壺	(18.0) - - -	口縁部～ 全体	内面ナデ 外面ハケ、ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 程 6/6	
20	土器	壺	30.4 - - -	口縁部～ 全体	摩耗にて不鮮明	長石・赤色粒子	良	5YR 程 6/6	
21	灰陶陶器	壺	- - - - -	脚部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英	良	10YR 灰白 8/1	
22	灰陶陶器	环	- - - - 9.8	全体～ 底部	ロクロナデ	長石	良	N 灰 5/	
23	土器	擂鉢	- - - - -	全体	不明	長石・赤色粒子	良	10YR に近い黄程 7/4	



写真1 調査区全景

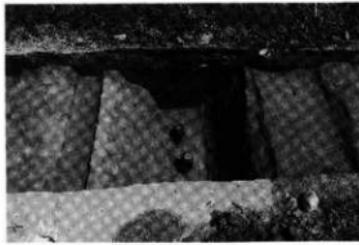
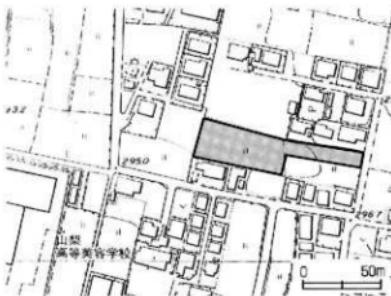


写真2 1号溝跡遺物出土状況

2 緑が丘二丁目遺跡（第1次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目2431-1
調査原因 宅地造成
対象面積 約700m²
調査面積 6.0m²
調査期間 平成6年6月23日
調査担当 信藤祐仁



遺跡の概要

緑が丘二丁目遺跡は、相川扇状地の西側を南流する相川の右岸、湯村山及び法泉寺山から東に突き出た丘陵の南に位置する。この丘陵によって相川は南に流路を変更しており、遺跡付近一帯が水害の影響を受けない比較的安定した土地となっている。

遺跡は、現在緑が丘スポーツ公園とその北側の住宅地にあたり、約20年前には現在の住宅地のほとんどは水田であった。古くは山梨県営グラウンド遺跡ともよばれ、昭和27年にグラウンド造成工事が行われた際に遺物が発見されている。テニスコート付近では、住居跡と推定される遺構に伴って土器が出土したと報告されている。また、市立北中学校には、本遺跡出土の縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器、石棒、石皿などが保管されている。

調査の概要

調査地点は、標高約295m、元は水田であり、遺跡のはば北西端に位置している。試掘調査は、東西方方向に細長い土地に対して、1×2mの試掘坑を西・中・東と3箇所設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。

まとめ

遺物は土器小片1点のみで、遺構は検出されなかった。土層は、第1層 暗褐色土層 水田耕作土、第2層 暗灰褐色砂質土層、第3層 暗灰褐色粘質土層、第4層 黒褐色粘土層、第5層 黑褐色礫混土層である。すべての試掘坑の土層中に、低湿地を示す鉄分の付着した高師小僧が見られ、遺物もほとんどないことから、当地域は遺跡の外縁部に当たるものと想定される。

(信藤祐仁)



写真1 調査区近景

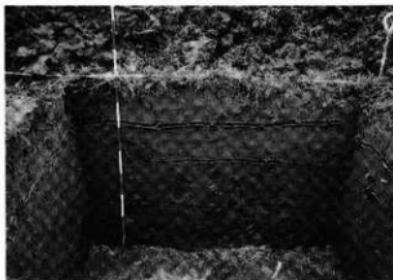


写真2 土層堆積状況

3 緑が丘二丁目遺跡（第2次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目791-2
調査原因 集合住宅建設
対象面積 495.87m²
調査面積 25.2m²
調査期間 平成6年6月24日～6月30日
調査担当 信藤祐仁

調査の概要

調査地点は、遺跡の東北部、標高約297m、南に緩やかに傾斜する相川の右岸の台地上に位置している。

調査対象地の中央部に、東西方向12.7×2mの試掘トレンチを設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。調査区全体を約30～40cm下げたところで、完形のかわらけや石の集中が一部で確認されたため面的な精査を行った。石の集中部分は特別な規則性も観察されず、造構の落ち込みも特に確認されなかった。トレンチの北側半分を全体的に更に約30cm掘り下げ、造構と遺物の有無と土層の状況を確認した。

造 構

明確な造構は確認されなかった。トレンチ西側には南北方向に拳大の石が集中する石列状のものがあったが、暗渠や配石造構ではなかった。

調査区全体にわたって、地表下40cmの付近に大き目の石や平安時代の遺物が比較的集中しており、石列状の部分も含めて同時代の生活面を形成していたと思われる。

出 土 遺 物

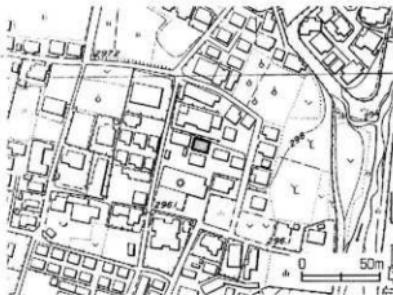
縄文時代～中世にいたる土器及び須恵器等が約300点出土した。遺物の大半は、縄文土器で前期から後期のものであるが、中期中葉から後葉がその中心である。ほとんどの土器が5cm未満の小さい破片であり、割れ口は磨耗しているものが多く文様があるものは少ない。土器以外には、黒曜石、鉄石英、粘板岩など石器の原料となる石材がある。

1～3は縄文土器で、1は沈線による渦巻き文で後期初頭、2は横位に沈線が3本施された中期前葉、3は半截竹管による連続刺突文が横位に並ぶ前期後葉のものである。4は甲斐型土器の皿で、底部外面は手持ちのヘラ削り、内面はロクロによるナデがみられる。5は甕の口縁部で内外面ともにナデによる調整がある。6、7はかわらけであり、ともに底部に明瞭に回転糸切り痕を残す。7には口縁部に煤の付着と黒変した部分があり、灯明皿である。8は頁岩製の石鎌である。

ま と め

調査区全体にわたって、地表下40cmの付近に大きめの石や平安時代の遺物が比較的集中しており、石列状の部分も含めて同時代の生活面を形成していたと思われる。

(信藤祐仁)



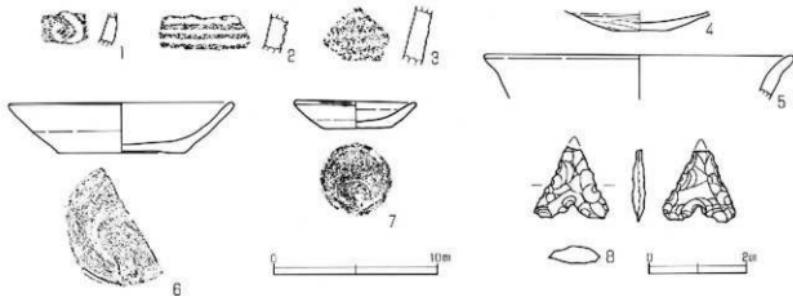


図1 出土遺物

表1 緑が丘二丁目遺跡（第2次）出土遺物観察表

()復元値。単位(cm)

番号	種別 產地	器種	法 量(cm) 口徑・高・底 径	部位	測定など	胎 土	焼成	()復元値。単位(cm)	
1	土 器	深鉢	— • — • —	側部		長石・石英・金雲母	良	5YR 赤褐色 4/6	
2	土 器	深鉢	— • — • —	側部		長石・石英	良	7.5YR において赤褐色 7/4	
3	土 器	深鉢	— • — • —	側部		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR において赤褐色 5/4	
4	土 器	皿	— • — • 3.3	全体～ 底部	内面ナデ 外側～タケヅリ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR において赤褐色 5/4	
5	土 器	甕	(18.5) • — • —	口縁部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 棕 7/6	
6	土 器	かわらけ	(13.5) • 3.1 • (7.7)	口縁部～ 底部	ロクロナデ 底部削鉛角切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 棕 7/6	
7	土 器	かわらけ	7.2 • 1.6 • 4.3	完形	ロクロナデ 底部削鉛角切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR において赤褐色 7/4	
8	石 裝品	石鍬	長さ 1.45 • 毎 1.5 • 厚さ 0.28	—	—	—	—	—	重量0.4g 黒岩



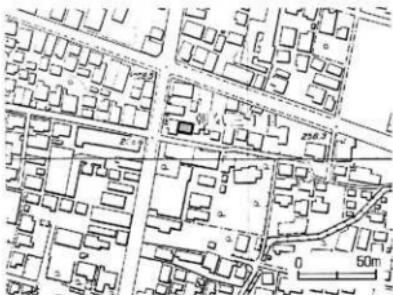
写真1 調査区全景



写真2 調査風景

4 朝氣遺跡（第9次）

調査位置 甲府市朝氣三丁目18
調査原因 個人住宅建設
対象面積 約200m²
調査面積 12.0m²
調査期間 平成6年7月5日～7月8日
調査担当 信藤祐仁



調査の概要

朝氣遺跡は北部に居住域、南部に小区画水田等の生産域が確認されている。調査地点は、朝氣遺跡の西南部に位置し、生産域に含まれると想定される。

工事予定地に、東西方向6×2mの試掘トレンチを設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。トレンチ西端には2×2mの深掘り部分を設け、地表下1.8mまで掘り下げ土層の堆積状況を確認した。

出土遺物

平安時代と思われる磨耗した土師器片が6点出土したが、小片のため図示することができなかった。

まとめ

西端を除いて調査区のほぼ全面に、甲府空襲時の瓦礫を整理したと思われる焼土を含んだ搅乱層が20~40cm存在する。深いところで4層中まで達しており、底面は平坦で2段になっていることから、一度掘りくぼめて整地したことがわかる。

西端の基本土層堆積状況は、次のとおりである。第1層 暗褐色土層 10~15cm 旧建物の搅乱層。第2層 褐色土層 10~20cm、近代水田の耕作土。第3層 白褐色砂層 5~10cm 上面は酸化鉄により黄褐色に変色。第4層 暗褐色砂質土層 15~20cm。第5層 暗褐色土層 約10cm。第6層 褐色砂質土層 約20cm。第7層 暗褐色砂質土層約15cm。第8層 暗灰褐色土層 約20cm。第9層 暗褐色砂質土層 約20cm。第10層 暗褐色砂質土層15~20cm。第11層 暗灰色砂層 30cm以上。第4層以下の土層中には、高師小僧が多い量に含まれており、低湿地帯であったことが想定される。

第5層と8層は土壤化が進んでおり、水田土壤だった可能性がある。 (信藤祐仁)



写真1 調査区全景

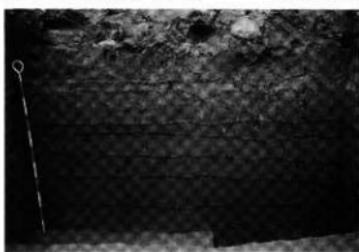


写真2 土層堆積状況

5 塚腰遺跡

調査位置 甲府市国玉町899

調査原因 市道建設

対象面積 884m²

調査面積 325m²

調査期間 平成6年8月25日～9月28日

調査担当 平塚洋一

遺跡の立地

塚越遺跡は濁川の左岸約500m、標高256mに位置する。濁川は甲府市内でも最も低い位置を流れる川で、周囲には水害伝説が存在する。しかし、本遺跡の西に鎮座する玉諸神社は甲斐國三宮とされ、草創が平安時代まで確実にさかのほることからも、本遺跡周辺は比較的安定した地盤であることが想定できる。

調査の概要

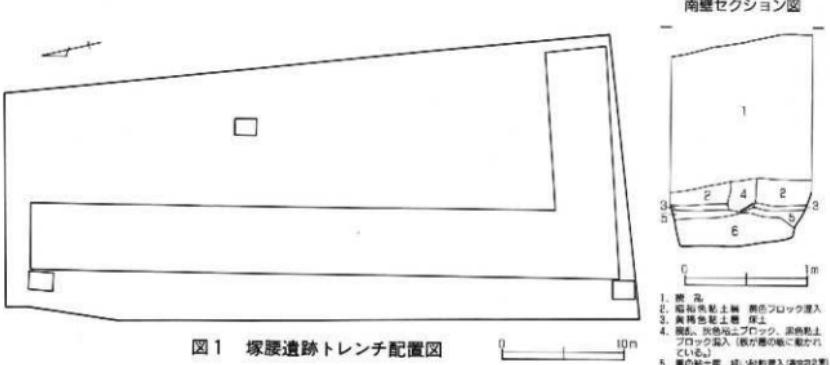
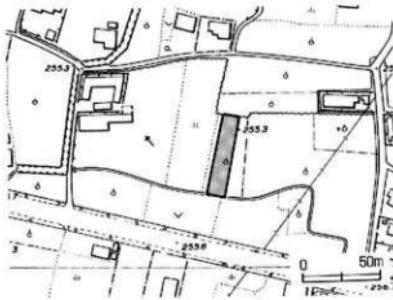
当初2m四方の試掘グリッドを3箇所設定し調査を行ったところ、そのうちの1箇所から古墳時代前期の土器がまとまって出土したため、5m幅のトレンチを南北に50m、東西に15m設定し拡張調査を行った。

調査の結果、地表から約1.5mの黒色粘土層から古墳時代前期の土器がややまとまって出土した。その直上までは水田の耕作による擾乱を受けていた。また、遺構は確認できなかった。

まとめ

濁川左岸における発掘調査の事例はまだ少ないものの、今回の調査により出土したS字型は肩部に横方向のハケ目を持つことから、古墳時代前期でも比較的早い段階の所産といえる。調査地点の東方約300mには藤塚古墳が所在し、その築造と本遺跡との関連も考えられる。

(平塚洋一)



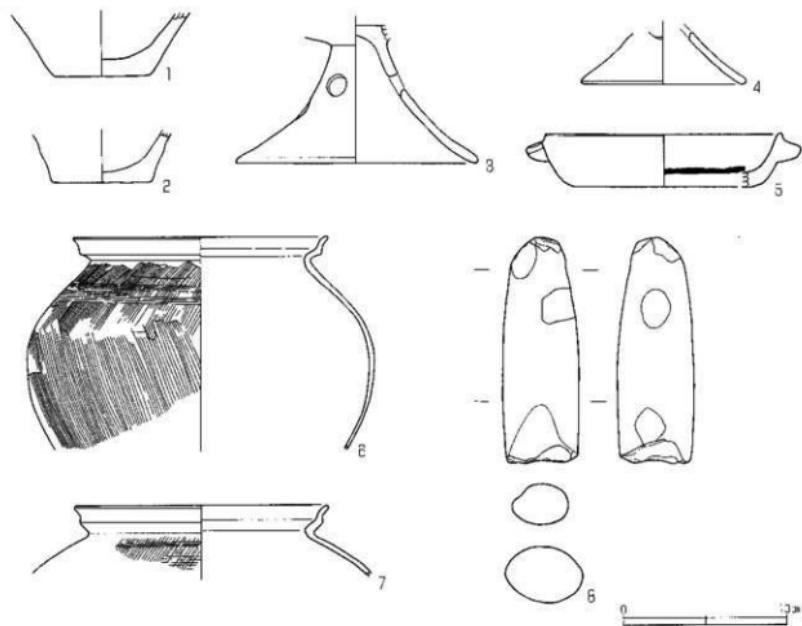


図2 出土遺物

表1 塚原遺跡出土遺物観察表

番号	種別 施	器種	法量 (cm) 口 径・高・底径	部位	調整など	胎 土	焼成	色 調	() 標元値、単位 (cm)	
									内	外
1	土	器	変 — · — · (5.8)	底部	ナデ	長石・石英	良	7.5YR において 5/4 外 10YR において 6/2		
2	土	器	変 — · — · (6.0)	底部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR において 6/4		
3	土	器	高环 — · — · 14.7	脚部	ナデ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 程 6/6	5箇所穿孔	
4	土	器	高环 — · — · (10.0)	脚部		赤色粒子	良	2.5YR 程 6/6		
5	土	器	鍋 (14.5) · (3.25) · (11.0)	口縁部～ 底部	ロクロナデ	長石・石英・金雲母	良	10YR において 黄褐色 4/3		
6	土	器	白付變 (15.6) · — · —	口縁部～ 脚部	内面ナデ 外側ハケ	長石・石英	良	5YR 程 6/6		
7	土	器	白付變 (15.4) · — · —	口縁部～ 脚部	内面ナデ 外側ハケ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 程 6/6		
8	石	製品	石斧 長さ 13.6 · 頂 4.6 · 厚さ 3.4	—	—	—	—	—	—	—

6 本郷C遺跡

調査位置 甲府市善光寺一丁目1909-1
調査原因 集合住宅建設
対象面積 627m²
調査面積 12m²
調査期間 平成6年9月6日～9日
調査担当 児玉好美



調査の概要

大笠山と八人山の間に開析された高倉川扇状地の扇端部に位置し、標高約257mを測る。扇状地北部の北原古墳群をはじめ、扇状地中央部を南流する高倉川周辺には縄文時代～近世に至る遺跡が数多く存在している。平成15年度には北側に隣接する本郷B遺跡の調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代中期、平安時代、中世、近代に至るまでの溝・土坑・ビット等の遺構が確認されている。

調査は工事予定地の中央部に2×2m、深さ1～1.5mの試掘坑を3箇所設定して行った。

遺構

遺構は確認されなかった。

遺物

各試掘坑から古墳時代、平安時代の土師器片及び近世の陶磁器等が出土したが小片であり、図示できたものは3点のみである。1は灰釉陶器の壺と思われる。2の陶器皿は高台のみ無釉。17～18世紀に位置づけられる。3は火鉢の口縁部で、在地のものと思われる。

まとめ

遺構は確認されなかったが、JR中央線を挟んで北側に隣接する本郷B遺跡からは溝跡が確認されており、今後の調査成果によって本郷遺跡周辺の様相がさらに明らかになるものと思われる。

(鈴木由香)

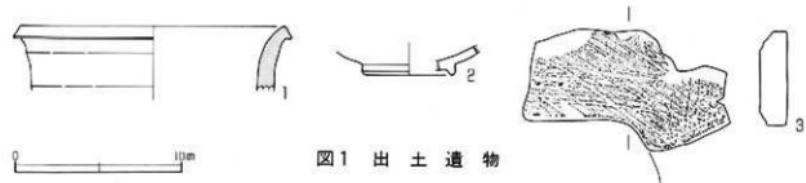


図1 出土遺物

表1 本郷C遺跡出土遺物観察表

番号	種別	基種	注量(cm)	部位	調査など	胎土	焼成	色調	()復元値、単位(m)	
1	陶器	壺	(16.0) - - -	口縁部	施釉	灰	良	-		
2	陶器	皿	- - - (5.0)	体部～底部	施釉	灰	良	-		
3	土器	火鉢	- - - - -	口縁部～脚部	ナデ	青母・金雲母	良	10YR において黄橙 7/4		

7 緑が丘一丁目遺跡（第3次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目135-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 247.92m²
調査面積 16m²
調査期間 平成6年9月28日～10月12日
調査担当 児玉好美



調査の概要

調査地点は、昭和60年度に甲府市教育委員会が実施した遺跡分布調査によって確認された。緑が丘一丁目遺跡は平成4、5年度にも調査が行われ、黒曜石や繩文時代中期の土器が出土している。現在、周辺は住宅地となっているが、北側に隣接する緑が丘二丁目遺跡内には和田無名墳が存在していた。また、北西約800mに湯村山古墳群、西側約600mには万寿森古墳が存在する。

調査は幅2m、長さ8mのトレンチを設定し、地表から約1m掘り下げて土層及び遺構の確認を行った。

遺構

土坑8基、溝2条が検出された。

土坑 1号土坑は長径72cm、短径67cm、深さ28cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。古墳時代の環口縁部が出土した。2号土坑は直径約45cm、深さ31cmを測り、平面形態は円形を呈する。3号土坑は長径67cm、深さ27cmを測る。北側の一部は調査区外になるが、平面形態はほぼ円形を呈する。4号土坑は直径約42cm、深さ12cmを測り、平面形態は円形を呈する。5号土坑は計測可能部分が50cm、深さ48cmを測る。2～5号土坑は、いずれも出土遺物はない。6号・7号土坑は重複し、長径65cm、短径25cm、深さ40cmを測る。6号土坑からは古墳時代の甕口縁部、環口縁部（図2-1）、7号土坑からは古墳時代の高环（図2-3）が出土した。8号土坑は長径27cm、短径16cm、深さ25cmを測り、平面は楕円形を呈する。古墳時代の台付甕脚部（図2-2）が出土した。

溝跡 1号溝跡は主軸をN-83°-Eに持ち、幅18cm、深さ8cmを測る。断面形態はU字形を呈する。6号土坑と重複し、調査区外へ延長する。2号溝跡は主軸をN-65°-Wに持ち、幅20cm、深さ17cmを測る。断面形態はU字形を呈し、6号・7号土坑と重複する。西側への延長方向は確認できなかった。1号・2号溝跡とも出土遺物はなかった。1号溝跡の北側に重複する掘り込みは性格等不明である。

遺物

出土遺物の多くは古墳時代前期から後期の土器であるが、小片が多く図示できたものは3点である。1は古墳時代の环で、内面・外面ともにナデ調整される。2は古墳時代の台付甕脚部である。内面は横方向にハケ調整、外面は赤色塗彩が施されている。3は古墳時代の高环である。口縁部は歪み若干摩耗しているが、外面にはハケ調整が見られる。また、内面・外面ともに赤色塗彩が施されている。

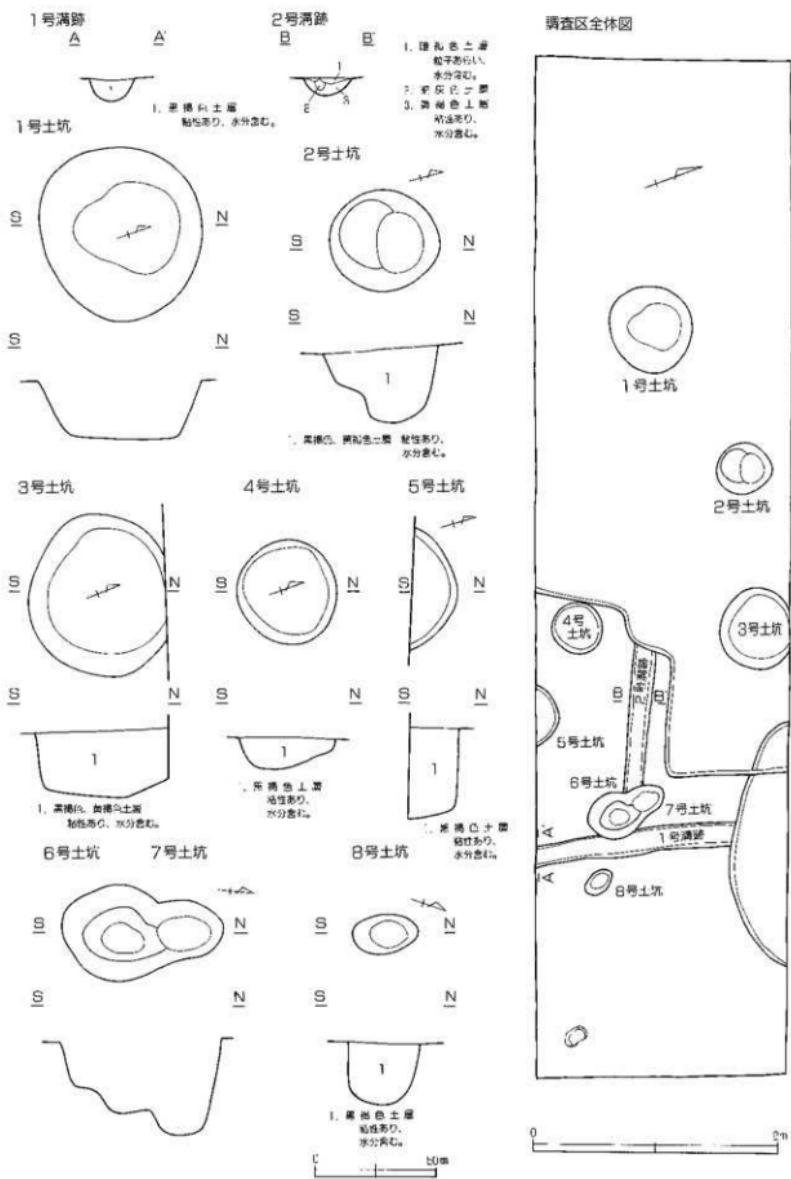


図1 1号～2号溝跡、1号～8号土坑、調査区全体図

まとめ

遺構は確認されたものの規則性が見られず、2号溝跡は延長が確認できなかった。また、造構内からの出土遺物も少なく、遺跡の詳細を捉えることは困難である。しかし、これまでの分布調査と発掘調査の成果や近隣における古墳群の存在によって、古墳～平安時代に至る遺跡であることが確認されている。

(鈴木由香)

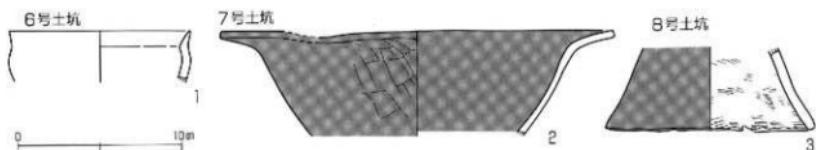


表1 緑が丘一丁目遺跡(第3次)出土遺物観察表

()復元値、単位(m)

番号	種別 系 統	器種	法 量 (m) 面 積 高・低 度	部位	調整など	粉 土	焼成	色 調	備考
1	上 器	环	(01.0) · - - -	口縁部～ 体部	ナテ	赤色粒子	良	5YR 程 7/6	-
2	土 器	高耳か 高耳	(24.0) · - - -	口縁部～ 体部	外削ハケ 内外面赤色塗彩	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 5/6 表面 10R 赤 5/8	口縁部に盃み
3	土 器	合付壺	- - - - - (12.0)	脚部	内削ハケ 外削赤色塗彩	長石・石英・金雲母	良	5YR 程 6/6	-



写真1 全 景

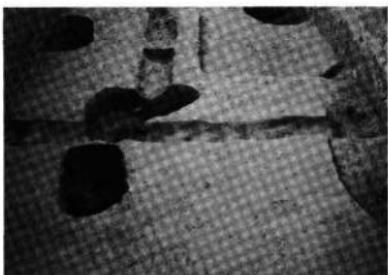


写真2 1号溝跡

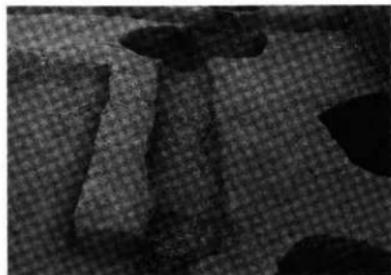


写真3 2号溝跡

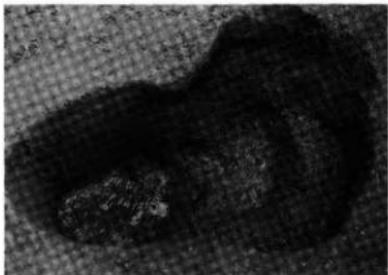


写真4 6号・7号土坑

8 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2237番外
調査原因 公園建設
対象面積 約10,000m²
調査面積 80m²
調査期間 平成6年9月13日～10月14日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

(1) 調査経過 甲府市が計画を進めている千塚公園建設予定地は、一帯が金塚西遺跡の範囲に含まれていたため、平成5年12月14日付けで、埋蔵文化財発掘調査について依頼を受けた。協議の結果、既に公有地化が終了していた部分についての試掘・確認調査を実施することとした。

(2) 地理歴史的環境 金塚西遺跡の北には里山が迫り、西から片山(665m)、羽黒山(490m)、湯村山(446m)へと続く。本遺跡は、荒川によって開析された扇状地上に位置する。

扇央部に位置する米草遺跡（甲府市山宮町）では、平成12年（2000）に発掘調査が実施され、縄文時代前期の土坑・柱穴（ピット）等が確認されている。

背後の山間部及びこの扇状地には古墳が多く所在し、積石塚古墳や土石混合墳と呼ばれる特徴的な古墳も点在する。扇状地に存在する古墳は甲斐市（旧敷島町）にまで分布の範囲が広がるが、そのうちの甲府市内分は「千塚山宮古墳群」と呼ばれている。ちなみに「千塚」という地名は、塚の多い地域に由来していると『甲斐国志』は記している。県史跡加牟那塚古墳・証文塚・天神塚等、古墳時代後期の古墳が数多く分布していたが、そのうちの多くの多くが現在は削平され消滅している。また本遺跡から750mほど北西に位置する榎田遺跡は、古墳時代後期の遺跡として知られ、これらの古墳造営に関係する可能性がある。

調査成果

(1) 調査方法 県内でも最大級の石室を持つ加牟那塚古墳も隣接することから、調査地には消滅した古墳及び古墳を築造・維持した該期の集落の存在が予想された。調査は2m四方の試掘坑（テスティピット、以下「T.P.」と略す。）を20箇所設定し（図1）、人力により砂礫層まで掘り下げた。隨時平面及び上層について記録しながら進行させ、層序の乱れに気を配った。

(2) 層序 基本的には、概ね地表面から約1.5m下層で砂礫層の地山に達する。その間明褐色砂を主体とした層が、色調の違いから3～5層に分層することが可能で、下層ほど褐色土の混入が多い傾向がある。層序的な乱れは認められないが、この砂層の下部から古墳時代の遺物が若干検出する。

調査地中央部北半は疊混じりの盛土が施され、その厚さは60cm程に及ぶ。また調査区東端部のT.P.19及びT.P.20北壁からは、約60cm下層から白色粗粒砂の入った落ち込みが確認されている。

(3) 遺構

T.P.19及びT.P.20で確認された落ち込みは、溝跡の可能性もあるが、遺物は検出されず、時期及び性格を言及するには及ばない。他の試掘坑から、遺構と思われるものは、層序的な乱れも含めて確認することはできなかった。

(4) 遺物 (図2)

縄文時代から古墳時代までの遺物が出土しているが、図示できたものは23点である。

6は縄文土器である。胴部の破片と思われる。T.P. 9から出土した。

古墳時代の遺物はT.P. 1から2点、T.P. 2から1点、T.P. 4から1点、T.P. 7から1点、T.P. 9から2点、T.P. 16から3点、T.P. 17から2点、T.P. 19から2点、T.P. 20から1点が出土し、試掘坑外から5点が採集された。器形としては壺・高壺・甕・台付甕・長頸壺が認められるが、いずれも破片資料である。

T.P. 16から出土した2点(8、9、10)及び19からのもの(14)は古墳時代後期の壺蓋で、T.P. 17からは長頸壺が出土した。またT.P. 20からは龍泉窯系の青磁が出土している。器形は碗であろうが、底部のみが残存している。

まとめ

今回の調査によって、明確に集落等の存在を示す成果はなかった。しかし調査地西北部分に比べて東部及び南部は層序的に比較的安定しており、性格的に不確定ながら落ち込みが確認できた試掘坑もあり遺構の存在をうかがわせる。今後の調査に期待したい。

(伊藤正幸)

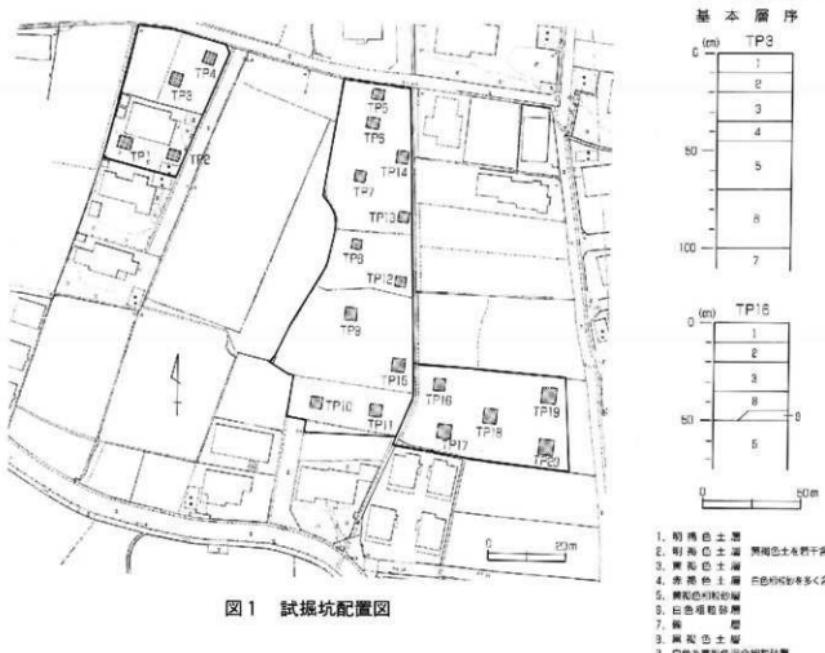


図1 試掘坑配置図

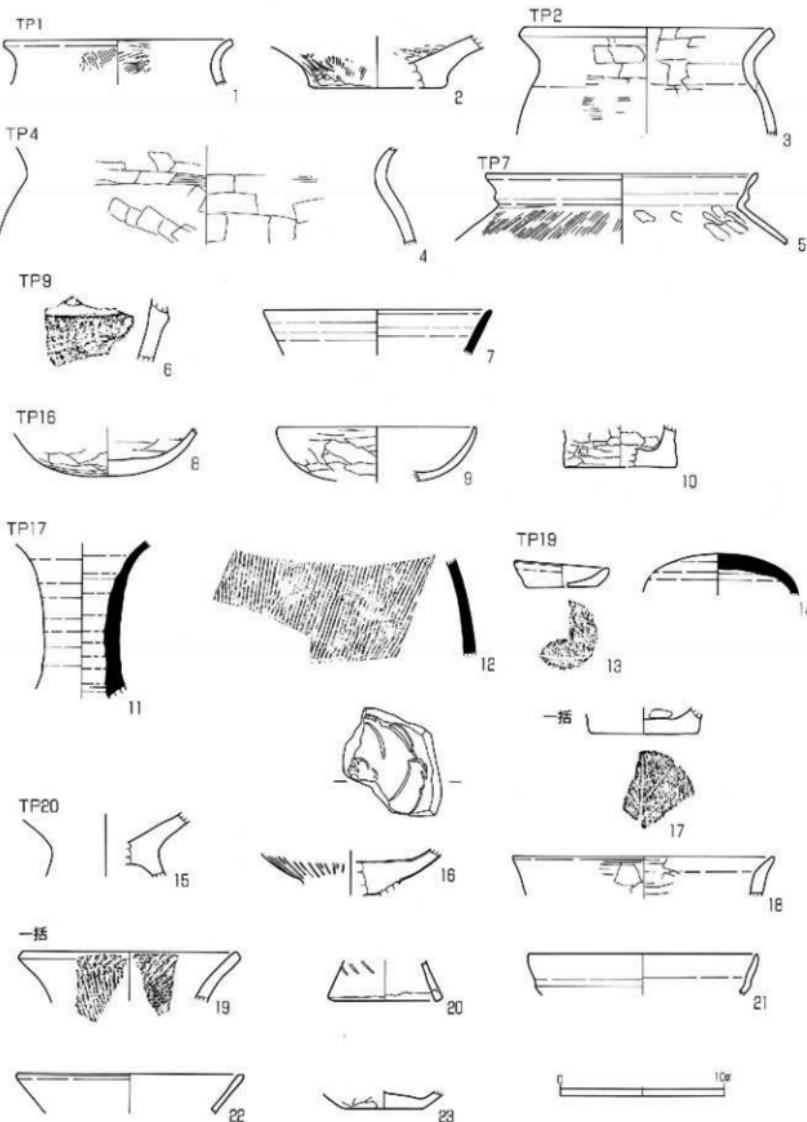


図2 出土遺物

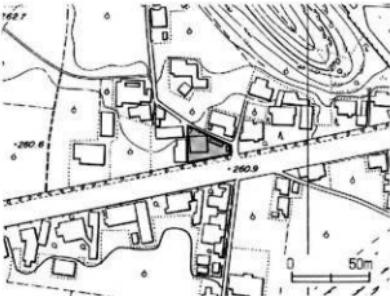
表1 金塚西遺跡出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種別	器種	法量(cm) 口 径・基 高・底 径	部位	構造など	胎 土	焼成	色 調	備考
1	土 器	甕	(13.8) · - - -	口縁部	ハケ	長石・赤色粒子	良	SYR 標 6/6	
2	土 器	甕	- - - - - (7.5)	側面-底部	ハケ	長石・石英・金芸母・赤色粒子	良	7.5YR において黒 7/4	
3	土 器	甕	(14.9) · - - -	口縁部-側面	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	SYR 明赤褐色 5/6	輪積痕あり
4	土 器	甕か	- - - - -	側面-底部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 標 7/6	
5	土 器	古付甕	(16.4) · - - -	口縁部-側面	内面暗褐色 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 標 7/6	
6	土 器	深鉢か	- - - - -	側面	織文	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR において黒 6/3	RL平端裏文
7	須恵器	环	(13.8) · - - -	口縫部-体部	ロクロナナ	長石・黑色粒子	良	N 黑 6/	
8	土 器	环	- - - - -	体部-底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	SYR 標 6/6	
9	土 器	环	(12.0) · - - -	口縫部-ナデ	ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 暗褐色 5/6	
10	土 器	不明	- - - - - (6.8)	底部	ナナ	長石・石英・赤色粒子	良	10YR 明黄褐色 6/6	
11	須恵器	長颈甕	- - - - -	頸部	ロクロナナ	長石・黑色粒子	良	N 黑 7/	
12	須恵器	甕	- - - - -	側面	外面叩き	長石・石英	良	10YR 黑褐色 3/1	
13	土 器	かわらけ	5.6 · 1.4 · 4.8	口縫部-底部	ナナ 底部素切り	長石・石英・黑色粒子	良	10YR において黒径 7/4	
14	須恵器	环置	- - - - -	体部-底部	ロクロナナ 外側ヘラケズリ	長石	良	SY 黑 6/1	
15	土 器	古付甕	- - - - -	側面	摩耗にて不鮮明	長石・石英・赤・黒粒子	良	SYR 標 6/6	
16	青 磁	碗 達井紋碗	- - - - -	外部-底部	擦剥 點片円蛇目神剥ぎ	敏術	良	-	
17	土 器	甕か	- - - - - (6.6)	底部	内面暗褐色 底部木炭灰	長石・石英・赤色粒子	良	SYR 標 6/6	
18	土 器	环	(16.0) · - - -	口縫部-体部	ナナ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 標 7/6	
19	土 器	甕か	(13.0) · - - -	口縫部-底部	内面調文 外面柔軟文	長石・石英	良	SYR 明赤褐色 5/6	
20	土 器	古付甕	- - - - - (6.2)	側面	ナナ 外側ハケ	長石・石英・金芸母	良	2.5YR 明赤褐色 5/6	
21	土 器	环	(14.0) · - - -	口縫部-体部	摩耗にて不鮮明	長石・赤色粒子	良	10YR 淡黃褐色 8/3	
22	土 器	环	13.6 · - - -	口縫部-底部	ナナ	長石	良	2.5Y 黑褐色 7/2	
23	土 器	环	- - - - - 4.8	体部-底部	外側ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	2.5Y 黑褐色 7/2	

9 大坪遺跡（第5次）

調査位置 甲府市横根町608
調査原因 集合住宅建設
対象面積 約460m²
調査面積 16m²
調査期間 平成6年9月30日～10月12日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

過去大坪遺跡として調査を行ったのは、主に十郎川の左岸地域であった。十郎川左岸では未焼成の土器群や土器焼成遺構なども検出され、土師器生産の性格がかなりクローズアップされてきた。大坪遺跡として括られた範囲のうち、十郎川右岸は調査が実施されず不明な点が多かった。

今回十郎川右岸で初となる大坪遺跡の調査は、2m四方の試掘坑を2箇所設定し調査を行った。

遺構と遺物

地表から約20cm現況の表土が堆積し、それより下層に旧表土と思われる暗褐色～茶褐色土が約5cm堆積していた。東側に設定した試掘坑からは遺物も全く出土しなかった。しかし、西側に設定した試掘坑からは旧表土の下より溝状遺構が検出できた。溝状遺構の範囲を確認するため、溝の延長上南西方向に2×1mの試掘調査坑をさらに設定し、調査を行った。

検出された溝状遺構は、幅40～50cm、深さ40cmと規模はさほど大きなものではないが、多くの土器が出土した。平安時代（9世紀代）所産の土師器壺（甲斐型土器）が最も多いが、古墳時代前期の土器の破片や片口鉢なども出土している。

出土した遺物は、甲斐型の壺が最も多く体部外縁の下半に手持ちヘラ削りが施され、口縁部がやや外反するものが多い。内面が黒色処理されるものもある。16は内面黒色処理された甲斐型の壺であるが、内側の表面は剥離が著しく、何らかの理由で二次的に熱を受けたものと想定できる。

まとめ

出土遺物の傾向に十郎川右岸で調査された大坪遺跡と同じく、壺・皿類が多く壺・甕類といった煮炊具が少ないという傾向がある。これは十郎川の現在の流路と古代における流路の違いが考えられる。「大坪遺跡」（2004甲府市教育委員会）で考察したとおり、古代における十郎川の流路は現在のものより更に東を流れていたものと考えられ、大坪遺跡としての古代集落の広がりは現在の横根跨線橋のあたりを中心に、今回の調査地点まで展開していたものと考えられる。また、壺・皿類が多く壺・甕類が少ない点から、壺・皿類の生産地に近いためより多くの消費が可能だったことが考えられる。

大坪遺跡が所在する甲府地区は、現在も国道20号線・140号線・411号線が接近し交通の要衝となっている。古代にはヤマトタケルの東征伝説の帰路に想定され、近代には甲州街道が通るなど、古代から現代まで交通の要衝といえる地域である。そのため、古墳時代の比較的早い時期から安定的な集落が営まれていた様子が窺える。

（平塚洋一）

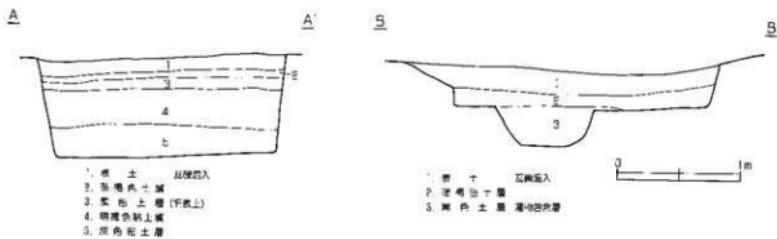
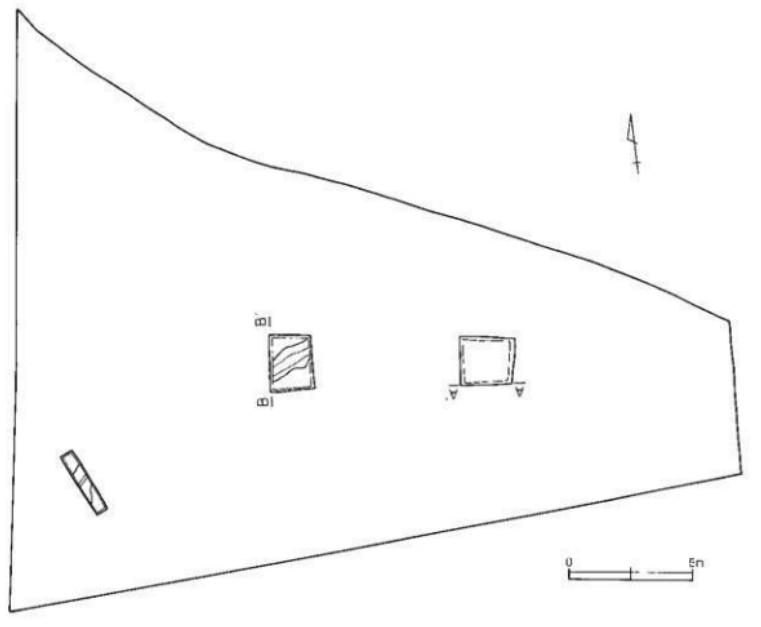


図1 試掘坑配置図、セクション

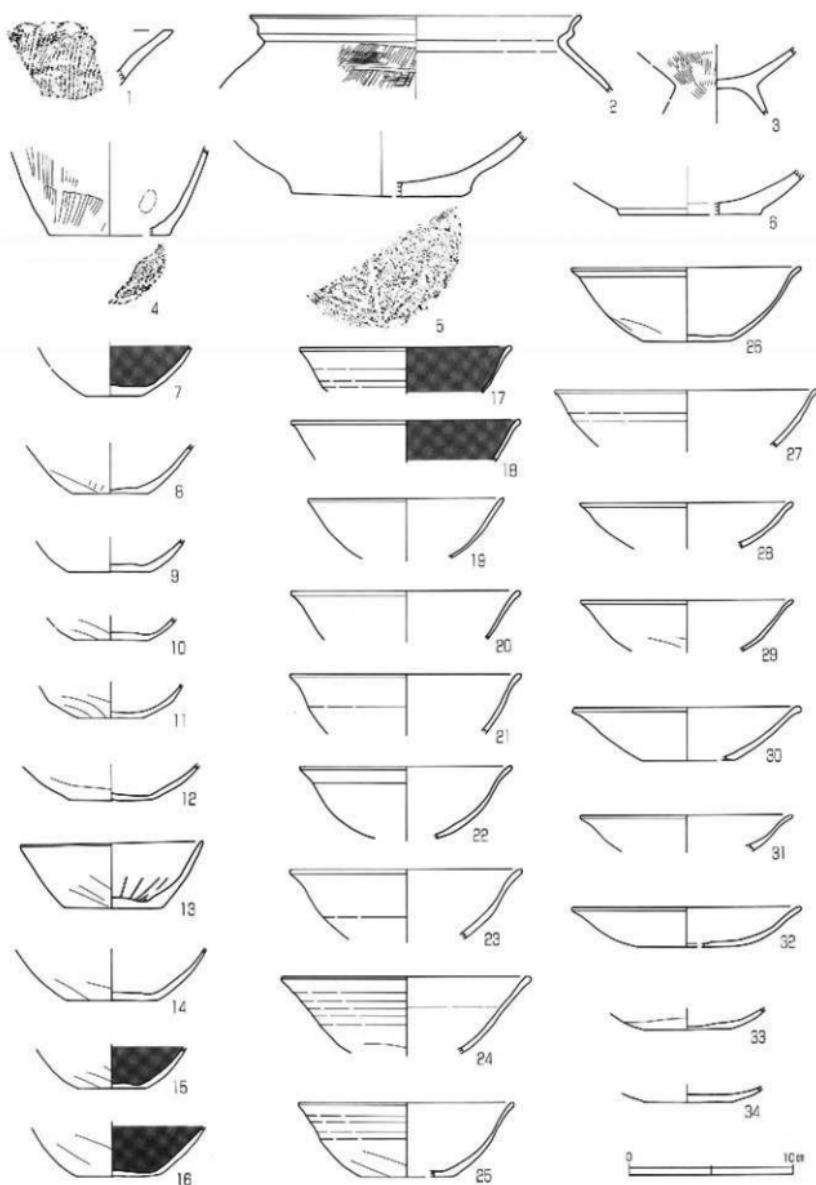


図2 出土遺物(1)

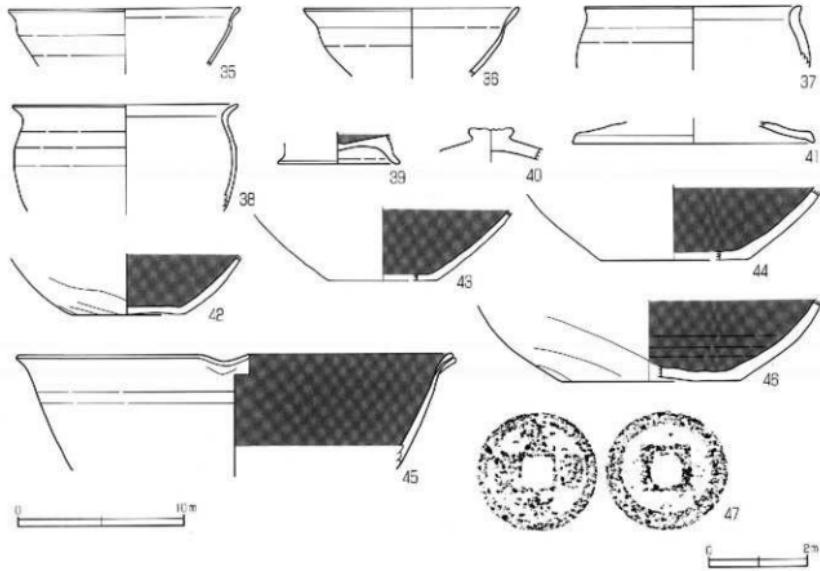


表1 大坪遺跡（第5次）出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

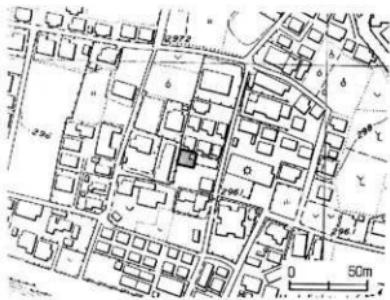
番号	種別 産地	器種	法 量(cm)			部位	調整など	胎 土	焼成	色 調	備考
			口径	器高	底径						
1	土器	甕か	—	—	—	口縁部	内面ナデ 外面ハケ	長石、石英、雲母	良	内10YR 灰黄褐色 6/2 外10YR 黑褐色 3/1	
2	土器	古付甕	(20.0)	—	—	口縁部～ 脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石、石英、金雲母	良	内10YR 黑褐色 4/1 外5SYR 棕 7/6	
3	土器	古付甕	—	—	—	脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石、石英、雲母	良	10YR において黄褐色 6/4	
4	土器	甕か	—	—	(7.4)	底部	内面樹脂痕 外面ハケ	長石、石英、雲母、金雲母	良	内5SYR 棕褐色 5/6 外7.5YR 棕 4/3	底部に木葉痕
5	土器	甕か	—	—	(10.8)	底部	ナデ	長石	良	内7.5YR 棕褐色 7/4 外5SYR 棕 7/6	底部に木葉痕
6	土器	环	—	—	8.7	底部	ナデ	長石、石英	良	内7.5YR 棕褐色 6/4 外5SYR 棕 6/6	
7	土器	环	—	—	3.4	体部～ 底部	ナデ	赤色粒子	良	内10YR 灰白 7/1 外7.5YR 棕 7/6	内面黒色
8	土器	环	—	—	(4.6)	体部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄褐色 8/4	
9	土器	环	—	—	(5.0)	底部	ナデ	長石、赤色粒子	良	10YR 灰黄褐色 6/2	
10	土器	环	—	—	(4.5)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	7.5YR 灰白 8/2	
11	土器	环	—	—	(4.0)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内7.5YR 灰白 8/2 外7.5YR 棕 6/6	
12	土器	环	—	—	5.2	底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	10YR 灰白 8/2	
13	土器	环	11.0	4.0	5.9	口縁部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	食塩母	良	内7.5YR 棕 6/6 外7.5YR 墓 5/6	
14	土器	环	—	—	(5.6)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	内7.5YR 墓 6/6 外7.5YR 未定 7/4	

表2 大坪遺跡（第5次）出土遺物觀察表

番号	種別	器種	法 則 高 さ (cm)		部位	構 造 な ど	胎 土	焼成	色 調	()保元號 単位(cm)		
			口 径	基 高						底 径		
15	土器	环	-	-	(4.2)	底部 内面ナガリ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)10YR 黑褐色 8/2	内面黑色		
16	土器	环	-	-	5.2	体部~ 底部 内面ナガリ 外面ケズリ	密	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)17.5YR 棕褐色 7/6	内面黑色		
17	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	密	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)17.5YR 洗漠棕 8/3	内面黑色	
18	土器	环	(4.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	内)7.5YR 黑褐色 3/1 外)17.5YR 棕褐色 7/4	内面黑色	
19	土器	环	(12.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	密	良	10YR 黑白 8/2		
20	土器	环	(14.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	内)7.5YR 黑褐色 6/4 外)10YR 黑褐色 5/2		
21	土器	环	(14.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	5YR 棕 6/6		
22	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	長石、赤色粒子	良	7.5YR 棕 7/4		
23	土器	环	(14.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	長石、石英	良	10YR 黑白 8/2		
24	土器	环	(15.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	長石	良	10YR 黑白 8/2		
25	土器	环	(13.0) ~ (4.5) ~ (5.6)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	長石	良	内)5YR 黑褐色 5/5 外)17.5YR 黑褐色 7/4		
26	土器	环	(14.0) ~ (4.55) ~ 5.3	-	-	口縁部~ 底部	内面ナガリ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)12.5YR 棕 8/1 外)17.5YR 棕 6/6		
27	土器	环	(14.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	10YR 黑白 8/1		
28	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	5YR 棕 7/6		
29	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 底部	内面ナガリ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)15YR 棕 7/5 外)17.5YR 洗漠棕 8/3		
30	土器	环	(13.6) ~ (3.25) ~ (5.7)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	石英	良	10YR 黑白 8/2		
31	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	密	良	7.5YR 棕 7/4		
32	土器	环	(14.0) ~ (2.4) ~ (6.0)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	赤色粒子	良	7.5YR 棕 8/4		
33	土器	环	-	-	5.1	底部	内面ナガリ 外面ケズリ	密	良	7.5YR 棕 8/4		
34	土器	环	-	-	5.1	底部	ナゲ	赤色粒子	良	5YR 棕 6/6		
35	土器	环	(14.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	密	良	10YR 洗漠棕 8/3		
36	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	5YR 棕 6/6		
37	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 側部	ナゲ	赤色粒子	良	7.5YR 棕 6/6		
38	土器	环	(13.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	7.5YR 黑白 8/1		
39	土器	不明	-	-	7.4	脚部 内面黑色	赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)7.5YR 棕 7/4			
40	土器	环基	-	-	2.6	宝珠	ナゲ	赤色粒子	良	内)7.5YR 棕 8/3 外)7.5YR 棕 5/4		
41	土器	环基	(14.5)	-	-	口縁部~ 底部	ナゲ	赤色粒子	良	7.5YR 棕 8/4		
42	土器	环	-	-	(6.5)	体部~ 底部	内面ナガリ 外面ケズリ	長石、石英	良	内)10YR 黑褐色 3/2 外)10YR 黑白 8/2	内面黑色	
43	土器	环	-	-	(6.5)	体部~ 底部	ナゲ	赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)5YR 棕 7/6	内面黑色	
44	土器	环	-	-	(9.0)	体部~ 底部	ナゲ	長石、石英、赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)17.5YR 洗漠棕 8/3	内面黑色	
45	土器	环	(26.0)	-	-	口縁部~ 体部	ナゲ	赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)17.5YR 黑褐色 7/4	内面黑色	
46	土器	环	-	-	(10.8)	体部~ 底部	内面ナガリ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)10YR 黑褐色 3/1 外)5YR 棕 7/6		
47	鉢	束縛	直徑	穿孔	厚さ	2.5	0.62	0.14	-	-	-	

10 緑が丘二丁目遺跡（第3次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目893-1、-5、-12
調査原因 個人住宅建設
対象面積 180.25m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成6年10月18日～10月24日
調査担当 平塚洋一



遺跡の立地

緑が丘二丁目遺跡は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の南麓に所在する。緑が丘スポーツ公園造成の際大規模な造成が行われており、遺跡の全体像を把握するのは難しいと思われる。「甲府市史」資料編1によると、造成の際に出土したと思われるものに、縄文時代前期後葉から後期初頭の土器、及び弥生時代後期末の土器がある。今回の調査地点は標高294m付近に位置する。

調査の概要

2m四方の試掘坑を東西に2箇所設定し調査を行った。地表から約40cmまでは表土が堆積し、それより下層には黒褐色粘土が堆積していた。東側に設定した試掘坑では地表から60cmの深さの黒褐色粘土層から、古墳時代前期の土器片数点と人骨が検出された。

検出された人骨の姿勢は、両足を折り曲げた屈葬で、いわゆる北頭西面の姿勢で検出された人骨の周囲には明確な掘り込みは確認できなかったが、中世の土坑墓と想定される。また、出土人骨に伴うものではないが、古墳時代前期の土器も数点出土している。

西側に設定した試掘坑からも、地表から60cm下層付近から土器片が数点出土したため、数回にわたり精査を行ったが、遺構は確認できなかった。そのため、試掘坑の北側半分をさらに地表から100cm付近まで掘り下げ、地層の変化の状況について調査を行った。しかし、土器片も出土しなくなり湧水し、調査が困難となつたため、試掘調査を終了した。

まとめ

緑が丘二丁目遺跡のすぐ北には金剛福聚山法泉寺が所在する。法泉寺は『甲斐国社記寺記』によると元徳・元弘年間（1329～1334）に武田信武が開基となり創建され、信玄の頃府中五山の一つとして庇護を受けていた。法泉寺の最盛期に寺域がどこまで広がっていたのか詳細は不明であるが、今回出土した人骨は、法泉寺に関係する墓地の一つである可能性も考えられる。
(平塚洋一)

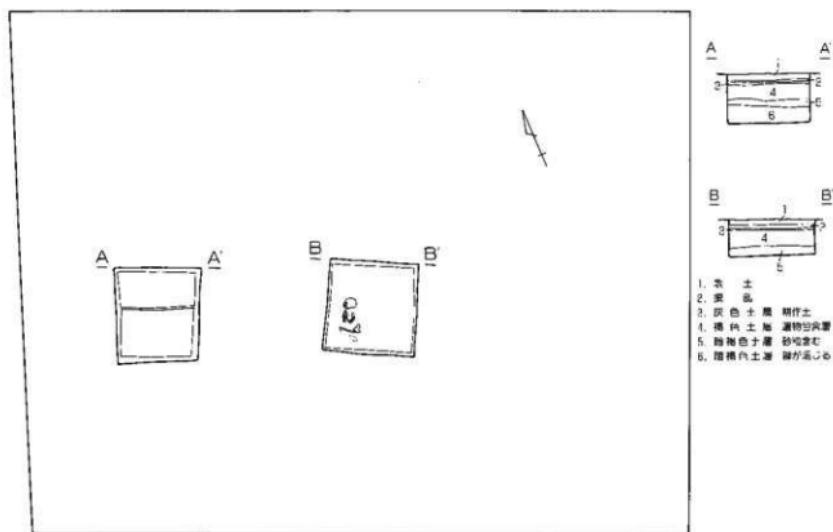


図1 試掘坑配置図

0 4m

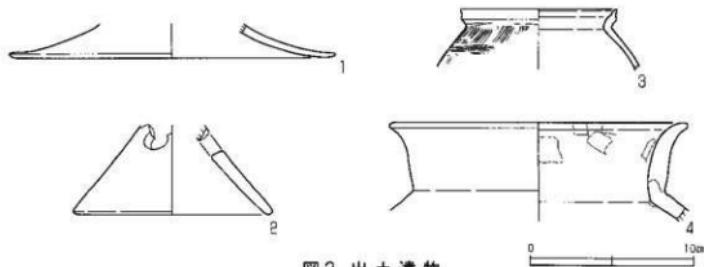


図2 出土遺物

0 10cm

表1 緑が丘二丁目遺跡(第3次)出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種類	器種	法 面・芯 高・底 径	部位	調査など	胎 土	焼成	色 調	備 考
1	土器	高环	- - - (19.7)	脚部	ナデ	貝石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 標 6/6	
2	土器	高环	- - - (11.7)	脚部	摩耗にて不鮮明	貝石・赤色粒子	良	7.5YR 標 6/6	
3	土器	円柱腹	(9.5) - - -	口縁部～ 脚部	内面ナデ 外面ハゲ	貝石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR 淡黄褐色 8/4	
4	土器	腹	(17.8) - - -	口縁部～ 脚部	ナデ	貝石・石英・赤色粒子	良	5YR 標 6/6	

11 宮の脇A遺跡

調査位置 甲府市善光寺二丁目2739-1
調査原因 物置・車庫建設
対象面積 590.89m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成6年10月19日
調査担当者 児玉好美



調査の概要

大笠山と八人山の間に開析された高倉川扇状地の扇端部に位置し、標高約266mを測る。扇状地のほぼ中央部を南流する高倉川と大円川に挟まれ、周辺には縄文時代～中世に至る遺跡が数多く存在する。また、扇状地北部の北原古墳群をはじめ、周辺には善光寺無名塚、ポンボコ塚といった数多くの古墳が存在する。

宮の脇遺跡は昭和61年度に調査が行われており、近世以降の土器や陶磁器の破片を伴う集石造構が確認されている。しかし、高倉川の氾濫や耕作による搅乱を受けた可能性も考えられ、遺跡の詳細は不明である（『甲府市内遺跡Ⅰ』甲府市教育委員会 2004）。

調査は敷地中央部に2×2mの試掘坑を設定し、重機により地表から1mまで掘り下げ埋蔵文化財を確認した。

遺構

造構は検出されなかった。基本層序は次の通りである。

- I層 茶褐色土層
II層 黒褐色土層 粒子が細かく粘性あり。
III層 褐色土層 粒子が細かく粘性強い。水分含む。

遺物

遺物の出土はなかった。

（鈴木由香）



写真1 調査風景

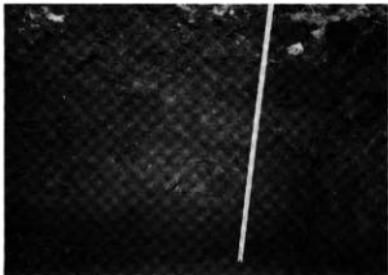


写真2 土層堆積状況

12 朝氣遺跡（第10次）

調査位置 甲府市朝氣三丁目71-1、2、3、4
調査原因 宅地造成
対象面積 734.63m²
調査面積 12m²
調査期間 平成6年11月1日～11月7日
調査担当 平塚洋一

遺跡の立地

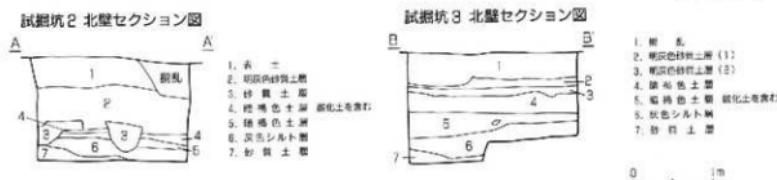
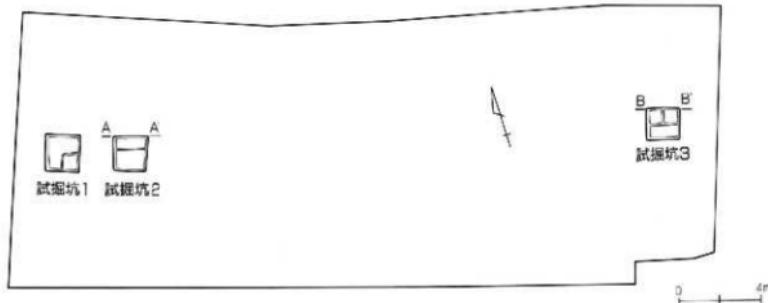
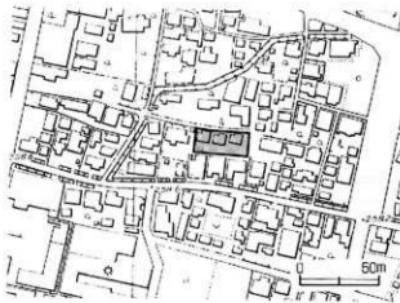
調査地点は濁川右岸約1.3km、標高258mに位置する。朝氣遺跡は縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡として知られ、当地域が『倭名類聚抄』に記載される巨摩郡青沼郷の中心的集落だったことが推定されている。

調査の概要

調査地点は朝氣遺跡として括られた範囲の中でも南西隅にあたる。2m四方の試掘坑を3箇所設定し調査を行った。西側及び中央の試掘坑は地表から約150cm、東側の試掘坑は地表から約120cm掘削した砂層で湧水し始める。出土遺物は認められなかった。

まとめ

大規模な集落遺跡である朝氣遺跡であるが、今回の調査地点までは集落が展開しなかつたことが想定できる。
(平塚洋一)



13 前田遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目285-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 800.64m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成6年11月7日～10日
調査担当者 児玉好美



調査の概要

甲府市西部に位置し、標高約280mを測る。東側約900mには荒川が南流する。周辺には居村村上遺跡、豆田遺跡が点在するが、地元住民の話によると明治時代に調査区北側の堤が決壊して以来湿地帯となっていた。また、昭和初期には東側の堤が決壊し、一帯が流されている。平成5、6年度に実施した周辺の豆田遺跡の調査においても砂礫が地表から1.5m以上堆積している状況が確認され、荒川の氾濫原であったことが推定される（『甲府市内遺跡I』甲府市教育委員会 2004）。

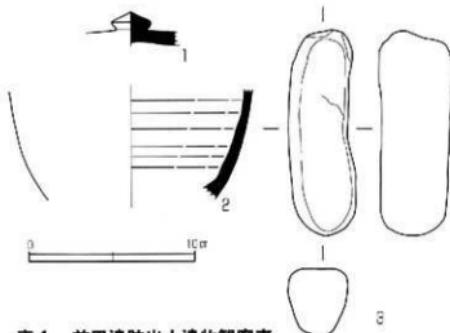
調査は建物予定地に2×2mの試掘坑を2箇所設定し、地表から2m掘り下げた。

遺構

遺構は確認されなかった。

遺物

出土遺物の多くは摩耗した土師器小片で、図示できたものは3点のみである。1は須恵器蓋のつまみ部分、2は須恵器甕の胸部である。3は砾石と思われる。



まとめ

周辺は荒川の氾濫原であり、遺構確認には至らなかった。
(鈴木由香)

表1 前田遺跡出土遺物観察表

番号	種別	部	種	法 量(cm) 口径・基 高・底 径	部位	調査など	粒 土	焼 成	色 調	()復元値、単位(m)	
										幅	厚
1	須 恵 器	蓋	蓋	—	つまみ	ロクロ	密	良	2.5YR 黄灰	6/1	
2	須 恵 器	甕	甕	—	胸 部	ロクロ	密	良	N 深白	4/	
3	石 質 品	砾石	砾石	長さ 12.5 幅 3.8 厚さ 4.1	—	—	—	—	—	—	

14 緑が丘二丁目遺跡（第4次）

調査位置 甲府市和田町708の一部、709、
710-1、712-1

調査原因 宅地造成

対象面積 1,080m²

調査面積 20m²

調査期間 平成6年11月8日～11月15日

調査担当 平塚洋一

遺跡の立地

今回の調査地点は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の麓に所在し、標高300mに位置する。緑が丘二丁目遺跡として括られた範囲のなかでも北側に位置し、今回の調査は遺跡の北側への広がりを確認する機会でもあった。



調査の概要

2m四方の試掘坑を、4区画に分譲される予定地に各1箇所ずつ設定し調査を行った。南西隅に設定した試掘坑4から古墳時代後期の土器が出土したため、この坑のみ南北に2m拡張し調査を行った。

調査の結果東側に設定した試掘坑は、2つとも地表から1m掘り下げ検出した自然堆土（青灰色砂質土）に達し、遺構は全く検出できなかった。また出土遺物も土師器小片が數点出土しただけであった。

北西に設定した試掘坑3は、20cmの盛土が施され、更に約100cm掘削したところで自然堆積層に達した。遺構・遺物とともに検出できなかった。

南東に設定した試掘坑4は、地表から50cm下の地層から土器片が出土し始め、65cm下の地層からほぼ完形の土師器壺が出土した。南側に2m幅で拡張し調査を行った。結果、地表から85cm下層から土師器壺等の古墳時代の土器が出土した。しかし、明確な遺構は検出できなかった。

出土遺物

出土した土器は、古墳時代後期末葉を中心とした一群が中心となる。壺類は口縁部に稜を持つ、須恵器壺蓋を模倣して逆転した形態のものが出土している。

まとめ

今回の試掘調査により本遺跡の北への広がりが、和田町のこの地点まで展開することが確認できた。周辺の調査では縄文時代中期後半の土器や弥生時代末葉の土器の土器も出土しているため、かなり早い時期から集落が営まれたことが想定される遺跡ではあるが、試掘確認調査が「虫食い状」に行われているだけで、大規模に面的な発掘調査が未だ実施されていないことが残念である。今後の発掘調査により緑が丘二丁目遺跡の全容が解明されることが望まれる。

（平塚洋一）

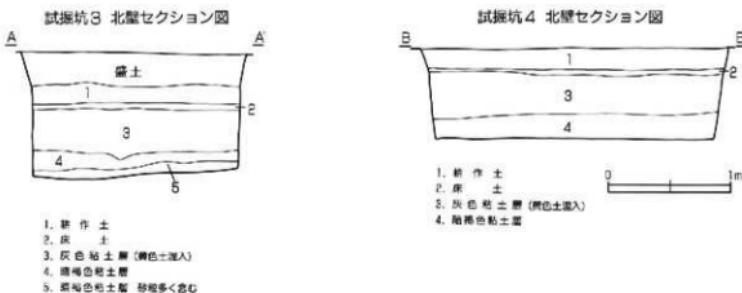
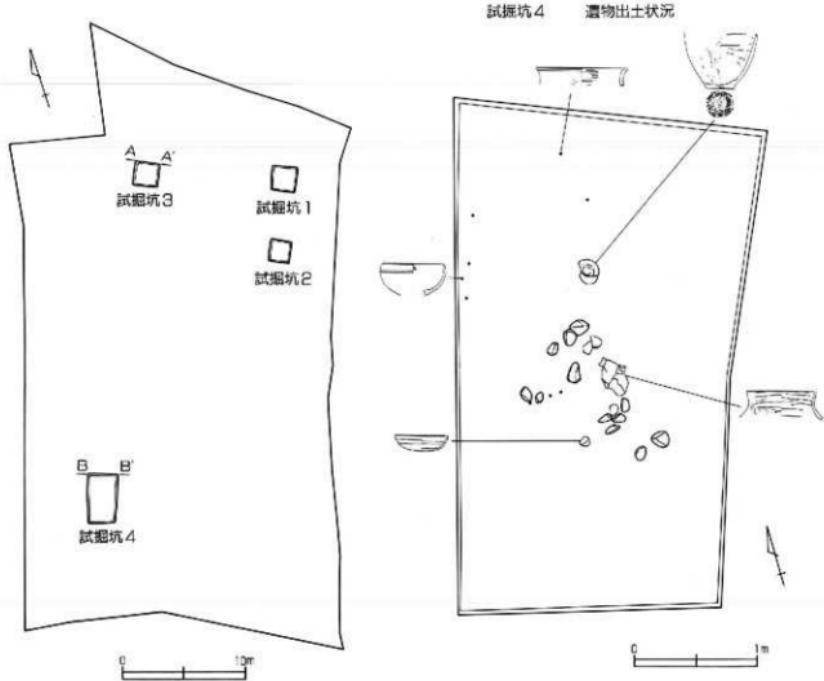


図1 試掘坑配置図、セクション図

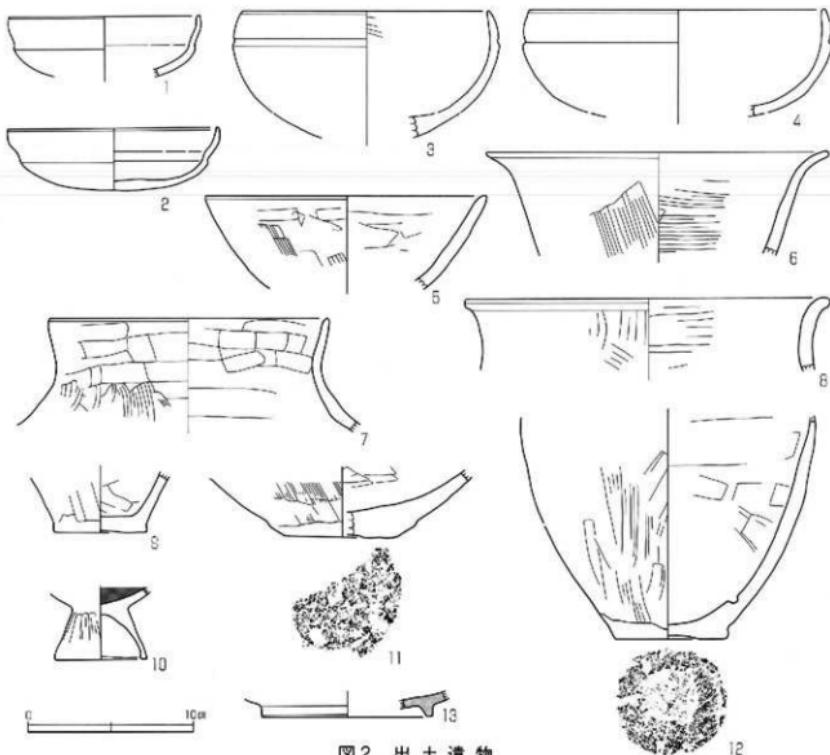


図2 出土遺物

表1 緑が丘二丁目遺跡(第4次)出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種別	器種	注	量(cm)	部位	調査など	胎	土	焼成	色	調	備考
1	土器	环	(11.6) · - - -		口縁部-体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR に近い褐色	7/4		
2	土器	环	12.8 · 3.8 · -		口縁部-底端部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 棕褐色	6/6		
3	土器	壺	(14.8) · - - -		口縁部-体部	ナデ	長石・石英	良	内10YR 棕褐色 4/1 外10YR に近い褐色	7/3		
4	土器	壺	(18.0) · - - -		口縁部-体部	ナデ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR に近い褐色	5/3		
5	土器	环	(17.0) · - - -		口縁部-外縁部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に近い褐色	6/4		
6	土器	壺	(20.7) · - - -		口縁部-底端部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に近い褐色	6/4		
7	土器	壺	(16.8) · - - -		口縁部-外縁部	ナデ	長石・石英・金雲母	良	5YR 棕褐色	6/4		
8	土器	甕か	(22.0) · - - -		口縁部-底端部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に近い褐色	4/4		
9	土器	不明	- - - - (5.6)		全体-底部	ナデか	長石・石英・金雲母	良	5YR 棕褐色	6/6		
10	土器	台付甕	- - - - (5.6)		脚部	ナデ	長石・石英・金雲母	良	内10YR 黒褐色 3/1 外5YR 單色褐色	5/6	内面赤色	
11	土器	甕か	- - - - (6.8)		底部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	内10YR 黑褐色 3/1 外5YR 棕褐色	6/6		
12	土器	甕	- - - - (6.8)		脚部-底部	ナデ	長石・石英	良	2.5YR 棕褐色	6/6		
13	骨角陶器	皿	- - - - (10.4)		底部	-	密	良	-	-		

15 北田遺跡

調査位置 甲府市川田町字龜田114-3・9

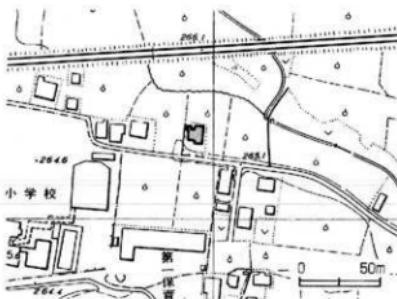
調査原因 個人住宅建設

対象面積 260.62m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成6年11月11日～14日

調査担当者 児玉好美



調査の概要

調査地点は甲府市東部に位置し、標高約265mを測る。周辺は縄文時代～中世に至る遺跡が集中し、南側約400mには古墳時代前期の方形周溝墓が確認された桜井畠遺跡、西側約1kmには古墳時代～平安時代の集落が確認された大坪遺跡が存在する。また、白鳳期～平安時代にかけて窯業生産地域であったことで知られ、川田瓦窯跡や上土器瓦窯跡が存在する。

調査は建物予定地に2×2mの試掘坑を2箇所設定し、約1m掘り下げた。

遺構

遺構は検出されなかった。基本層序は次の通りである。

I層 茶褐色土層 小礫を含む。

II層 灰褐色土層 水分含む。

III層 灰褐色土層 鉄分・水分含む。

IV層 暗褐色土層 水分を含み、粘性・しまりがある。

V層 暗褐色土層 茶褐色粒子を含み、しまりがある。

VI層 黒褐色土層 粘性が強く、しまりがある。

遺物

出土遺物はなかった。

まとめ

調査区周辺には数多くの遺跡が存在しており、これまでの分布調査等によって北田遺跡と登録された範囲内に位置しているが、遺構は確認されなかった。地元住民の話によると、調査区は瓦の原料となる土を売る為に削っており、遺物包含層と遺構部分が削られている可能性も考えられる。

(鈴木由香)

16 緑が丘二丁目遺跡（第5次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目897-1他

調査原因 宅地造成

対象面積 209.68m²

調査面積 12m²

調査期間 平成6年11月16日～11月25日

調査担当 平塚洋一



遺跡の立地

今回の調査地点は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の麓に所在し、標高296m付近に位置する。道路を挟んだ西側の区画における試掘調査（本報告書の緑が丘二丁目遺跡第3次調査）では、古墳時代前期の土器と中世のものと思われる土坑墓が検出されている。

遺跡の概要

今回の調査は、緑が丘スポーツ公園北側の住宅地の一画で行ったものである。近隣の住民の話によると、試掘調査を実施する以前には自動車の板金工場があったようである。調査区に2m四方の試掘坑を3箇所設定し調査を行った。

調査の結果、地表から50cmまでは工場を解体する際に受けた搅乱層が共通して確認できた。それより下層は、東に設定した試掘坑では地表から100cmまで粘土層、それより下層に拳大から人頭大ほどの礫に砂利が混じる土層が確認できた。また、調査区の北端の部分に長辺が約30cmの石を使用した石列らしきものが確認できた。

中央、西側の両試掘調査坑からは搅乱層より下層は灰色から暗褐色の粘土層が堆積していた。

出土遺物

縄文土器、須恵器、偶蹄目（馬か？）の頸骨が出土した。須恵器と獸骨は地表から約100cmとほぼ同じレベルで出土している。縄文土器は地表から約140cmの地層から出土した。

まとめ

今回の試掘調査で出土した須恵器と獸骨は、ほぼ同じレベルで検出され供伴遺物と判断できる。これらは過去の調査事例から、雨乞い等の水に関する祭祀に用いられたのではないか、と考えられる。

これまでの緑が丘二丁目遺跡の調査結果により、古墳時代の土器が数多く出土したことから、古墳時代の集落跡が展開していたことが想定されていた。『甲府市史』に記述のある縄文土器についても、今回の調査で曾利式土器が出土したことにより裏付けられ、緑が丘二丁目遺跡に縄文時代の集落跡が展開したことも想定される。

（平塚洋一）

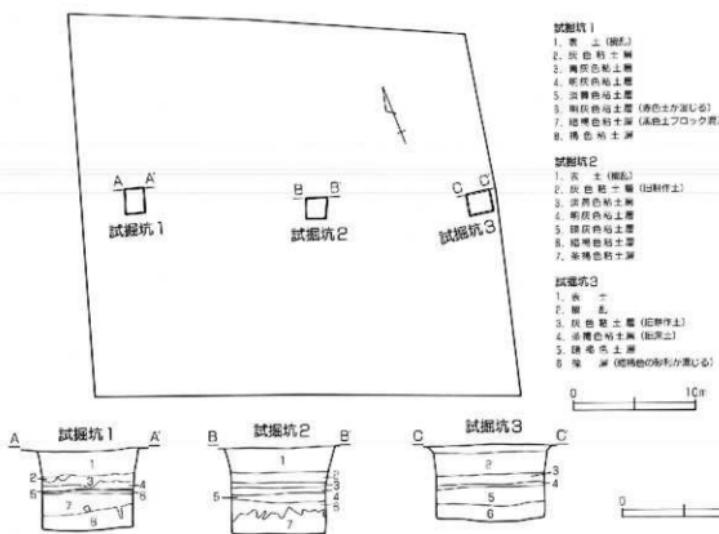


図1 試掘坑配置図、セクション図

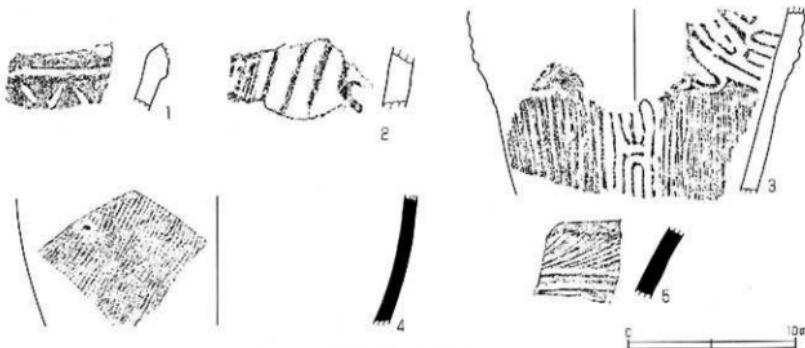


図2 出土遺物

表1 緑が丘二丁目遺跡（第5次）出土遺物観察表

名号 種 別 地	器 種	法 面	基 盤 口 径・基 高・底 径	部位	調 整 な ど	胎 土	焼 成	色 調	() 備 考	
									()	()
(cm)	直 径・基 高・底 径	()								
1 土 器	深鉢	—	—	—	底部か 「ハ」の字文	長石・石英	良	2.5YR 赤褐色 4/8	縄文中期後半	
2 土 器	甕か	—	—	—	斜面+条施文	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 明赤褐色 5/6	縄文中期後半	
3 土 器	深鉢	(19.5) —	—	—	口縁第一 斜面	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	縄文中期後半	
4 瓶 壺 器	甕か	—	—	—	胴部 内削りア ウト削り	長石	良	N 灰 6/		
5 瓶 壺 器	甕か	—	—	—	底部 施文か	長石	良	3PB 明青灰 7/1		

17 緑が丘二丁目遺跡（第6次）

調査位置 甲府市和田町字水口728-1
調査原因 集合住宅建設
対象面積 975m²
調査面積 16m²
調査期間 平成6年11月21日～12月8日
調査担当 児玉好美



調査の概要

調査地点は、昭和60年度に甲府市教育委員会が実施した遺跡分布調査によって範囲が拡大した緑が丘二丁目遺跡に位置する。緑が丘二丁目遺跡は、本地点を含め平成6年度だけで7回に及ぶ調査が行われ、縄文～平安時代に至る遺物が出土している。現在、周辺は住宅地であるが、遺跡内に和田無名墳がかつて存在していた。また、西側約600mには湯村山古墳群、南西約800mには万寿森古墳が存在する。

調査は2×2mの試掘坑を4箇所設定し、約1m掘り下げた。

遺構

遺構は検出されなかった。

遺物

古墳時代～平安時代の土師器、須恵器、陶器を主とし、モモの種、オニグルミ、ヒメグルミ、クリ等の植物遺体が出土した。また、縄文時代早期と思われる土器片も見られた。1～3は環である。1は底部から口縁部にかけての立ち上がりがきつく、厚みが薄い。2・3は器の厚みは薄いものの底部が厚く、ヘラケズリ調整されている。4は口縁部が外傾し、体部は半球形となる古墳時代後期の环と思われる。5の环は底部からの立ち上がり部分にふくらみを持ち、底部はヘラケズリ調整している。6の环は器面上にロクロ目を残し、底部が厚くヘラケズリ調整されている。7の环はやや厚みがあり、器面上にはロクロ目を残す。底部はヘラケズリ調整されている。8は高环の脚部である。部分的に強く火を受けたと思われる箇所が見られる。赤色粒子を多く含み、胎土がやや粗い。9は环状を呈する手捏ね土器である。長石を多く含み胎土が粗い。10・11は甕の口縁部で、内面・外面にハケ調整が施されている。12は綠釉陶器の皿と思われるが、小片のため詳細な時期や産地を特定するのは困難である。13は灰釉陶器の碗である。体部下半から高台部が無釉である。高台は高めで、底部から豊付がやや内側に湾曲する。14は須恵器の蓋である。15は明の染付皿と思われ、豊付は無釉である。

まとめ

遺物の出土のみで、遺構検出には至らなかった。緑が丘二丁目遺跡については数回に及ぶ試掘調査が行われているものの、本地点の出土遺物と同時期の遺構確認には至っていない。しかし、緑が丘二丁目遺跡（第3次）の調査においては中世の土坑墓が発見され、南側に隣接する緑が丘一丁目遺跡（第3次）では、古墳時代後期の土器を伴う土坑等の遺構が確認されている。今回の調査においても祭祀的要素が強いとされる手捏ね土器が出土しており、今後の調査によって本地域における遺構の検出は期待されるところである。

（鈴木由香）

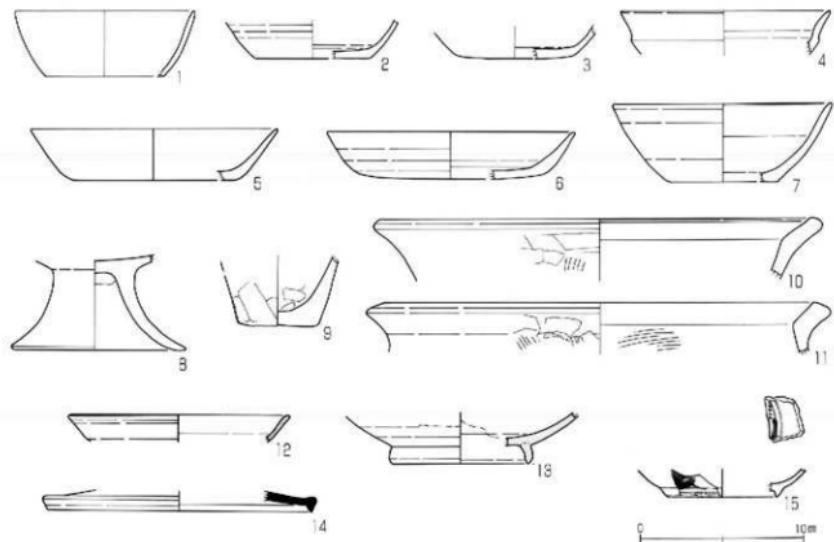


図1 出土遺物

表1 緑が丘二丁目遺跡(第6次)出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種別 地	器種	法 量(cm) 口徑・基高・底 径	部位	調 査 など	和 土	焼成	色 調	備 考
1	土 器	环	(10.9) · 4.0 · (7.3)	口縁部～ 底部	ロクロナデ	赤色粒子	良	7.5YR において橙 7/4	
2	土 器	环	— · — · 6.9	体部～ 底部	外側へラケズリか	赤色粒子	良	7.5YR において橙 7/4	
3	土 器	环	— · — · (7.0)	体部～ 底部	底部へラケズリ	赤色粒子	良	10YR 浅黄褐色 8/3	
4	土 器	环	(12.7) · — · —	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	10YR において黄橙 7/3	
5	土 器	环	(14.8) · 3.1 · (9.8)	口縁部～ 底部	ロクロナデ 底部へラケズリか	灰石	良	10YR 灰白 8/1	
6	土 器	环	(15.0) · 2.9 · (11.3)	口縁部～ 底部	ロクロナデ	灰石	良	10YR 浅黄褐色 8/3	
7	土 器	环	(13.2) · 4.8 · (6.6)	口縁部～ 体部	ロクロナデ	赤色粒子	良	7.5YR において褐 6/3	
8	土 器	高环	— · — · 10.0	脚部	ナデ	灰石・赤色粒子	良	7.5YR において橙 7/4	
9	土 器	不明	— · — · 4.8	底部	ナデ	灰石・石英・赤色粒子	良	7.5YR において橙 7/4	
10	土 器	要	(26.0) · — · —	口縁部	内面ナデ 外側ハケ	灰石・石英	良	2.5YR において赤褐色 4/4	
11	土 器	要	(26.0) · — · —	口縁部	ハケ	灰石・石英・赤色粒子	良	7.5YR において橙 6/4	
12	绿釉陶器	豆か	(13.0) · — · —	口縁部～ 体部	—	密	良	—	
13	灰釉陶器	碗	— · — · (8.0)	体部～ 底部	—	密	良	N 灰白 8/	
14	須 惠 器	环置	(16.0) · — · —	口縁部～ 体部	ロクロナデ	密	良	N 灰 6/	
15	椎 器	豆か	(6.6) · — · —	体部～ 底部	塗付 装付無無	鐵青	良	—	中国繩器

18 加藤光泰の墓

調査位置 甲府市善光寺三丁目2678番
調査原因 墓域整備
対象面積 40m²
調査面積 10m²
調査期間 平成6年11月21日～12月9日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

甲府市善光寺にある加藤光泰の墓に対し、平成6年、善光寺は墓域の整備を計画した。墓域の周囲にある樹木の根が入ったため、石段の歪みや石垣のはらみ等危険な状態が確認されたことによる。この計画は、解体・掘削を含む大規模なもので、現状を大きく変更するものであった。

加藤光泰は美濃斎藤氏に仕えていたが、斎藤氏の滅亡後は豊臣秀吉に仕え、天正19年(1591)甲斐の領主となった。甲斐入国と同時に、徳川家康の家臣の平岩親吉が繩張りした甲府城の築城に着手したが、その後文禄の役(1592年)に秀吉の代官七人衆の一員として渡済し陣中で死亡、甲斐善光寺に埋葬されたと言われる。

これらの状況を踏まえ、甲府市教育委員会では善光寺と協議・調整をし、埋蔵文化財の確認調査を実施することとした。

調査成果

(1) 調査方法 調査に着手したのは11月21日である。墓石直下に2m四方の調査グリッドを設定し、人力で掘り下げ調査を行った。墓域の下部構造を確認するため、部分的に拡張し調査を進めた。調査は12月8日に終了し、翌日埋め戻しを終了させた。

(2) 層序 全体的に人頭大から拳大の礫が混在し、盛土されたことが確認できた。地表下0.7m程の位置に櫛の根(大きさ約10cm)が入り込む。人頭大の礫が顕著に認められるのは地表下0.8mから1.2m程の地層であり、北から東の面については地表下0.4m程の位置に拳大の礫が確認できた。土色としては全体的に褐色若しくは明茶褐色を呈し、部分的に黒色の炭化物が散布する。炭化物が散布する面は人頭大の礫の上面にはほぼ一致する。

(3) 造構 拡張トレーナーを含む調査区から、造構は検出されなかった。当初想定していた埋葬に伴う掘り込みや、追葬等を示す痕跡は認められなかった。

(4) 出土遺物 石造物、陶磁器、土器及び古銭を検出した。

五輪塔(地輪)は蓮台に載せられるように確認されたが中心は若干ずれていた。縦・横・高さとも40cmを測り、正面には「地」の文字が深々と刻まれ、その両脇には「加藤前遠州太守曹漢院殿月剛宗勝大禪定門於朝鮮国釜山浦逝去因茲彫刻一軸以仲供養者也文禄二年癸巳八月廿九日」の銘が刻まれる。この銘は「甲斐国志」に記述される五輪塔の脇に建てた石碑の銘文と一致する。上面及び底面は丸く彫り窪められている。

その地輪を据えるように置かれていた蓮台は直径56cmを測り、約25cmの円形の窪みを有

する。埴みの中には拳大前後の礫が充填されていた。外面には単弁16葉の蓮弁が刻まれ、丸底を呈する。地輪、蓮台とも上部は深く幅の広い割れ口が確認でき、意図的に割られたことが想定できる。なおこの2つの遺物については、住職の希望もあり、墓域整備工事の際に再埋納した。

土器(図2) 土器は11点出土した。いずれも小振りの土師質土器(かわらけ)で、底部に糸切り痕が認められるロクロ成形によるものである。近世以降の所産と考えられる。

陶磁器(図2) 陶器9点、磁器6点が出土した。いずれも小破片ではあるが、それぞれ図示した。

陶器 器形としては、壺・碗・皿・鉢が確認できたが、いずれも破片であった。図14の陶器は鉄釉が施されている。また18~20は擂鉢である。

磁器 碗及び猪口であろう。21を除いては口唇部及び底部の小破片である。21は高台部分から胴部下半までが残存している。いずれも近代以降のものであろう。

古錢(図2) 1枚のみ出土した。元豐通宝と思われる。

ま と め

遺構の項目で記述したとおり、埋葬地としての根拠に欠ける。また、今回出土した五輪塔(地輪)が、『甲斐国志』に記述される五輪塔の脇に建てられた石碑として想定されるものの根拠は弱い。いずれにしても碑文から考えると、現存する墓石は後世に建てられた供養塔である可能性が高い。

(伊藤正幸)

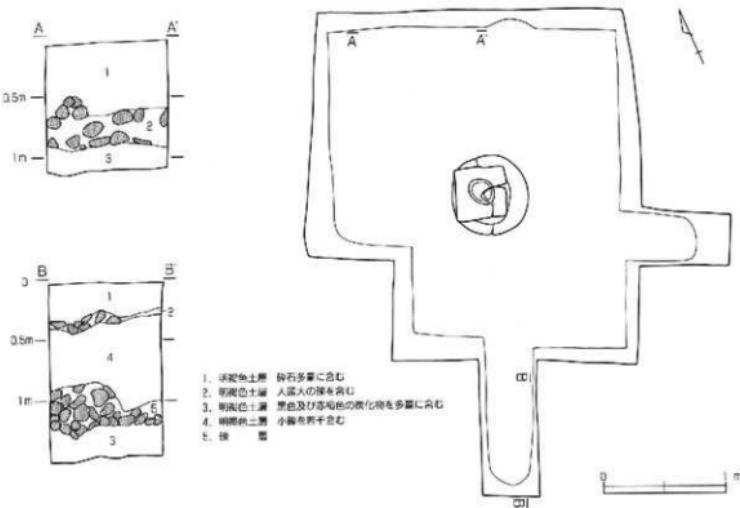


図1 調査区全体図、セクション図



図2 出土遺物

表1 加藤光泰の墓出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種類 地 質	器種	法 量(cm) 口 径・高さ・底 径	部位	調 研 な ど	胎 土	焼成	色 調	備考
1	土 器	かわらけ	(5.1) · (1.2) · 3.3	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	内:10YR 淡黄橙 8/4 外:10YR 黑褐 3/1	
2	土 器	かわらけ	5.7 · 1.2 · 3.6	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	7.5YR 棕 6/6	
3	土 器	かわらけ	(6.0) · (1.3) · (4.3)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	SYR 明赤褐 5/6	
4	土 器	かわらけ	(5.5) · (1.1) · (4.2)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	SYR 明赤褐 5/6	
5	土 器	かわらけ	5.3 · 1.3 · 4.4	完形	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	10YR 淡黄橙 8/4	
6	土 器	かわらけ	(6.0) · (1.0) · (4.6)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 棕 5/6	
7	土 器	かわらけ	(6.4) · (1.1) · (5.0)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	SYR 明赤褐 5/6	
8	土 器	かわらけ	7.2 · 1.4 · 5.9	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 棕 5/6	口縫部に油漬け有
9	土 器	かわらけ	(8.0) · (2.3) · (5.0)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	SYR 明赤褐 5/6	
10	土 器	かわらけ	8.6 · 2.3 · 6.5	口縫部完形	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 棕 6/6	口縫部に油漬け有
11	土 器	かわらけ	(10.7) · (2.0) · (7.0)	口縁部~ 底部	ロクロナガ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	7.5YR 棕 6/6	
12	陶 器	花瓶か	(5.0) · - · -	口縁部~ 体部	施釉	密	良	-	
13	陶 器	皿か	4.9 · - · -	底部	内面無釉	密	良	-	
14	陶 器	皿	(11.0) · - · -	口縁部~ 体部	施釉(熱釉)	密	良	-	
15	陶 器	瓶	(8.0) · - · -	口縁部~ 体部	施釉 外面に花の浮印	密	良	-	
16	陶 器	瓶	(11.0) · (4.4) · (7.4)	口縁部~ 底部	施釉	密	良	-	
17	陶 器	碗か外	(12.0) · - · -	口縁部~ 体部	施釉	密	良	-	
18	陶 器	罐	(31.4) · - · -	口縁部~ 体部	施釉	密	良	-	
19	陶 器	罐	(32.0) · - · -	口縁部~ 体部	施釉	密	良	-	
20	陶 器	罐	- · - · -	体部	ロクロ	長石・石英	良	-	
21	磁 器	碗	- · - · (4.2)	底部	塗付 塗付に沙目	緻密	良	-	
22	磁 器	碗	(8.8) · - · -	口縁部~ 体部	塗付	緻密	良	-	
23	磁 器	碗	(10.0) · - · -	口縁部~ 体部	塗付	緻密	良	-	
24	磁 器	猪口	- · - · (4.6)	底部	塗付	緻密	良	-	
25	磁 器	碗	(12.0) · - · -	口縁部	塗付	緻密	良	-	
26	磁 器	碗	(10.9) · - · -	口縁部	塗付	緻密	良	-	
27	鉢 貨	瓦礫(?)	直径 · 宝径 · 厚さ 2.38 · 0.69 · 0.15	-	-	-	-	-	



写真1 調査前風景

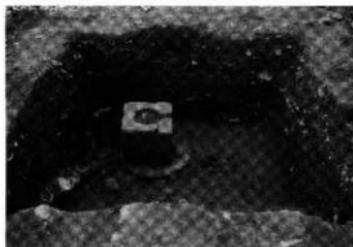


写真2 地輪出土状況

19 緑が丘二丁目遺跡（第7次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目2393-1他

調査原因 宅地造成

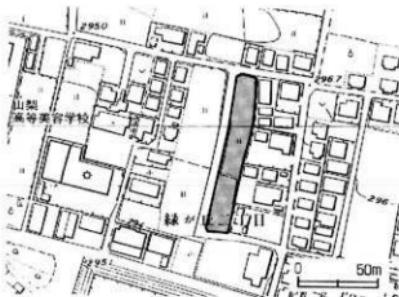
対象面積 1548.15m²

調査面積 180m²

調査期間 平成6年12月6日～

平成7年1月10日

調査担当 平塚洋一



遺跡の立地

今回の調査地点は、緑が丘二丁目遺跡として括られた範囲のなかでもほぼ中央に位置し、今回の調査区に隣接した西の区画には和田無名墳の存在が想定されている。標高は294～296mを測る。

調査の概要

今回の調査の対象地は、約8×8mの畠地と10×100mの畠地であり、南北に長い区画の宅地造成であるため、幅2mの試掘調査トレンチを区画の中央に設定し調査を行った。

狭い区画の調査については、地表から約100cmまで掘削し調査を行ったが、土師器細片が出土するものの人工的な遺構は確認できなかった。また、この地層で湧水し始めた。

広い区画の調査については、約70cmの深さで掘削し、精査を行った。調査の結果、調査区の南側を中心に長径5～20cm程度の川原石がまとまって検出できた。また、検出できた自然堆積層が暗褐色の粘土層であるのに対し、調査区の南端から約3～7mにわたり黒色土が確認できた。黒色土を掘り下げるに、トレンチ西側から炭化物の集中と焼土が確認でき、その周囲から古墳時代前期の土器がやまとまって出土した。

和田無名墳の存在することも予測された調査区の北側では、周囲と土層に変化がみられず、その存在は確認できなかった。

出土遺物

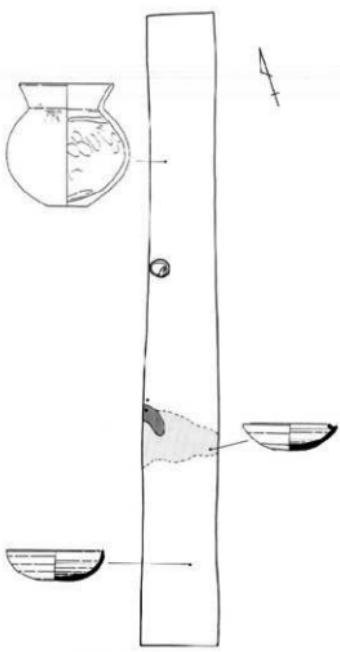
出土した土器は、弥生時代後期末葉から古墳時代前期前葉を中心とした一群が中心となる。図2-3、5、6、7、19は赤色顔料が塗布されている。図2-3～7は広口壺で、その口縁端部には棒状浮文やクシ状工具やハケ状工具での刺突文が施される。これらの祖形は東海地方菊川流域の菊川式土器に求められ、土器様式が山梨に受容されてからさらに退化した形態であろう。年代的には4世紀後葉から5世紀前葉頃が考えられる。

古墳時代後期に属する出土遺物に、図2-19、図3-26～28がある。

まとめ

今回の調査目的に調査対象地における集落跡の存在と、和田無名墳の存在を確認することができたが、そのどちらについても明確に確認することができず、残念な結果となった。今後周囲における開発に対しては十分な注意を払い、緑が丘二丁目遺跡の性格・規模等を把握する必要があるだろう。

(平塚洋一)



焼土周辺拡大図

0 2m



炭化物



焼 土

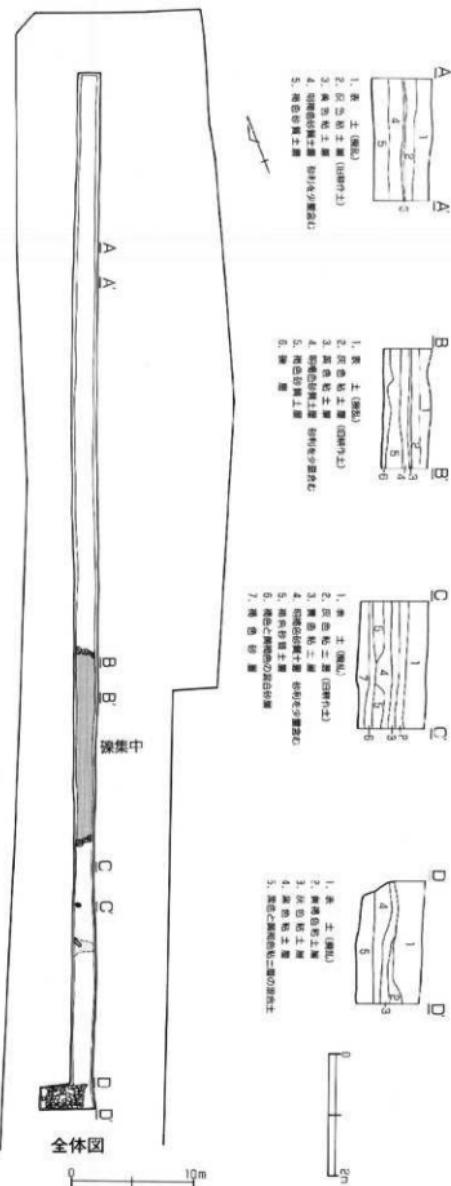


図1 調査区全体図、セクション図

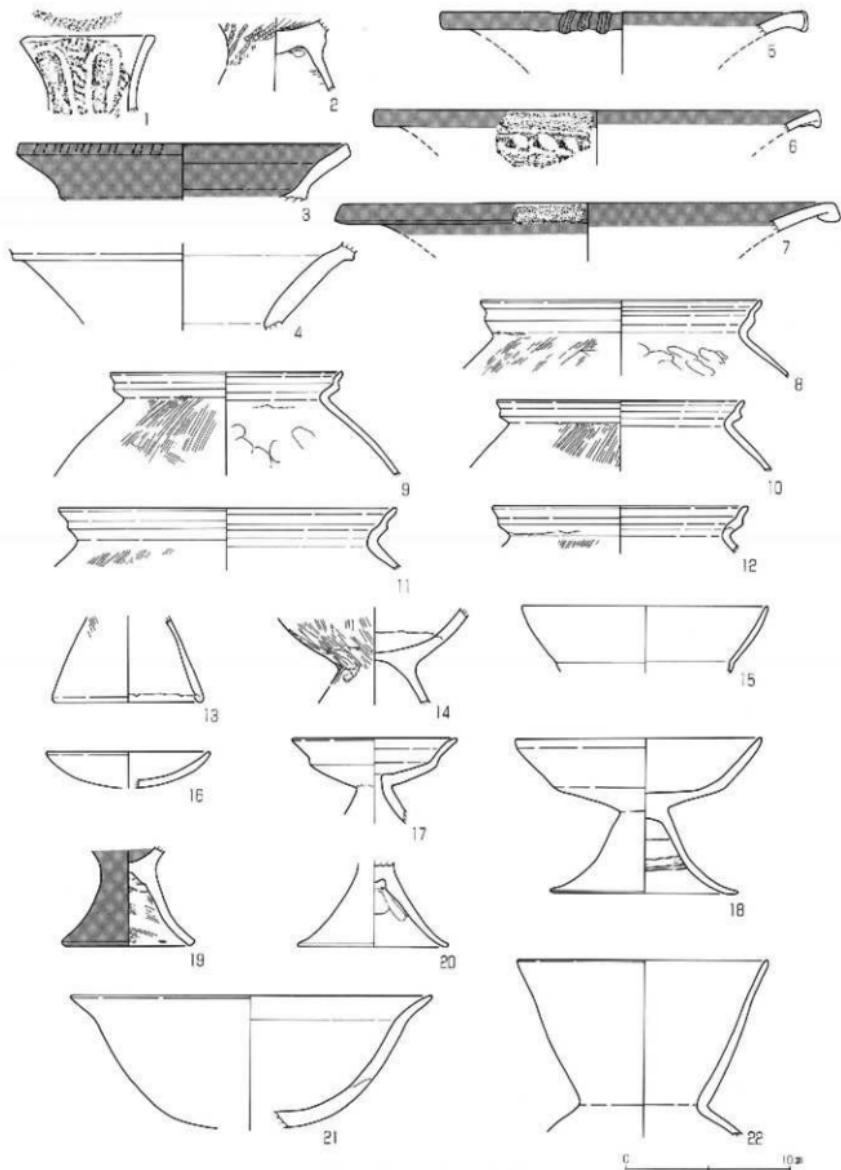


図2 出土遺物(1)

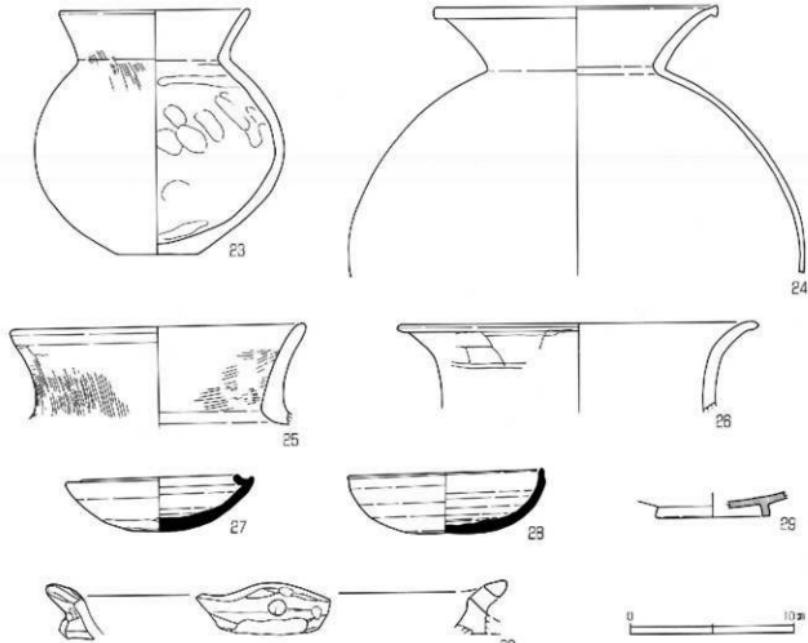


図3 出土遺物(2)

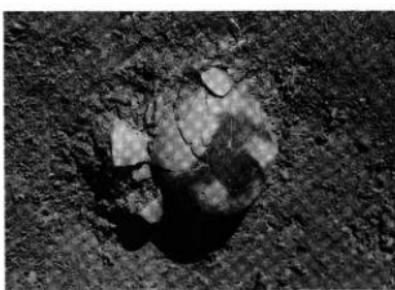
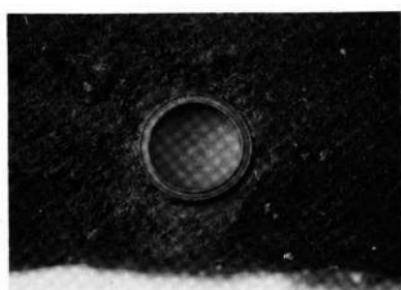
表1 緑が丘二丁目遺跡(第7次)出土遺物観察表

番号	種別 地	器種	法 量(cm) 口徑・深 度・底 径	部位	調査など	胎 土	焼成	色 調	備 考	
1	土	壺	7.7 - - -	口縁部 -	網文	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に近い褐 5/4		
2	土	壺	- - - -	脚部	内面ハケ・ヘラミ ガラス	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 淡黄褐 8/4		
3	土	壺	(19.7) - - -	口縁部	網文 内外面赤色黒苔	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 棕 7/8		
4	土	壺	壺か	- - - -	腹部	ナデか	良	10YR 淡黄褐 8/3		
5	土	壺	(22.0) - - -	口縁部	網文・口縁部 内外面赤色黒苔	長石・石英	良	7.5YR に近い棕 7/4		
6	土	壺	(27.0) - - -	口縁部	網文状文・口縁部 内外面赤色黒苔	長石・石英	良	10YR 棕 4/6 10YR に近い黄褐 6/3		
7	土	壺	(30.0) - - -	口縁部	網文・口縁部内 外面赤色黒苔か	長石・石英	良	10YR 灰白 8/2		
8	土	壺	台付壺	16.8 - - -	口縁部 - 内面 外側ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR に近い棕 7/4		
9	土	壺	内付壺	(13.0) - - -	口縁部 - 内面 外側ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR に近い黄褐 7/4		
10	土	壺	台付壺	(14.8) - - -	口縁部 - 内面 外側ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR に近い黄褐 7/4		
11	土	壺	台付壺	(20.2) - - -	口縁部 - 内面 外側ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 棕 6/8		
12	土	壺	内付壺	(15.1) - - -	口縁部 - 腹部	長石・石英・金雲母	良	5YR 棕 6/6		
13	土	壺	台付壺	- - - (9.0)	脚部	内面ナデ 外側ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に近い棕 7/4	
14	土	壺	台付壺	- - - -	脚部	内面ナデ 外側ハケ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 棕 6/6	輪積痕あり

表2 緑が丘二丁目遺跡（第7次）出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種別 產	器種	法 量 (cm) 口 径・器 高・底 径	部位	調 整 な ど	胎 土	地 壽	色 調	備 考
15	土 器	丸底鉢	(14.8) • - -	口縁部- 体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
16	土 器	环	(9.9) • - -	口縁部- 体部	ナデ	長石・石英	良	10YR 浅黄橙 8/3	
17	土 器	器身	9.9 • - -	口縁部- 脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
18	土 器	高杯	14.9 • 9.5 • 11.1	口縁部- 底部	ナデ 内面ハケ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
19	土 器	高杯	- • - • 7.5	脚部	ナデ 内面ハケ 内外赤色塗彩	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
20	土 器	高杯	- • - • 8.8	脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に赤い橙 7/4	
21	土 器	鉢か	(21.8) • - -	口縁部- 体部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	10YR に赤い黄橙 7/4	
22	土 器	堆	(15.0) • - -	口縁部- 体部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
23	土 器	壺	11.2 • 15.0 • 4.8	口縁部- 底部	ナデ 内面指痕 外沿ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に赤い橙 7/4	
24	土 器	壺	(17.0) • - -	口縁部- 脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
25	土 器	壺か壺	(17.4) • - -	口縁部- 脚部	ハケ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	
26	土 器	壺	(21.0) • - -	口縁部- 脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR に赤い橙 7/3	
27	須恵器	环	11.1 • 3.3 • -	完形	ロクロナデ 底部へラケズリ	長石	良	N灰 5/	
28	須恵器	环	11.6 • 3.7 • 4.4	口縁部- 底部	ロクロナデ 底部へラケズリ	緻密	良	N灰白 7/	
29	特殊陶器	底少	- • - • (6.8)	体部- 底部	-	密	良	-	
30	土 器	罐か	(28.0) • - -	把手	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	



20 朝氣遺跡（第11次）

調査位置 甲府市朝氣三丁目81

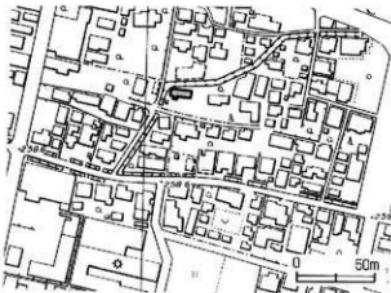
調査原因 個人住宅建設

対象面積 901m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成6年12月12日～16日

調査担当 児玉好美



調査の概要

甲府市南東部に位置し、標高約259mを測る。これまで数回に及ぶ調査が行われ、弥生～平安時代に至る集落遺跡が確認された。平成3年度に南東約200m地点を調査した際は平安時代の水田跡が検出され、朝氣遺跡は居住域と生産域が存在する遺跡であることが明らかとなつた。

調査は建物予定地に2×2mの試掘坑を設定し、地表から1.7m掘り下げた。

遺構

木製杭が3本確認された。垂直に切られた痕跡があり、近世以降のものと思われる。

出土遺物

1は平安時代の環である。口縁部は玉緑化し、外面下半にヘラケズリ調整される。底部は中央部に糸切り痕を若干残し、ヘラケズリ調整される。2の環は底部に回転糸切り痕を残す。3、4は甕の口縁部である。3は折り返し口縁で外面にハケ調整、4は内面と外面にハケ調整される。

まとめ

周辺の調査結果から遺構の確認が予想されたが、杭以外に遺構は確認されなかつた。

(鈴木由香)

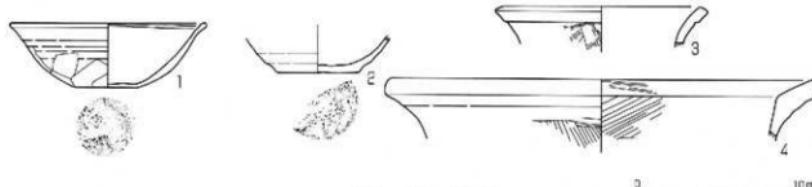


図1 出土遺物

表1 朝氣遺跡（第11次）出土遺物観察表

番号	種類	基盤	法量(cm)	部位	調整など	胎土	焼成	色調	()復元値、単位(cm)	
1	土器	環	11.8 × 3.9 × 3.8	口縁部～底部	外面ヘラケズリ 底部糸切り	赤色粒子	良	7.5YR 淡黄橙 8/4		
2	土器	環	- × - × (5.0)	底部	ナメ 底部回転糸切り	赤色粒子	良	SYR 程 6/6		
3	土器	甕	(12.0) × - × -	口縁部	内面ナメ 外縁ハケ	青	良	内SYR 程 6/6 外SYR に占比質性 7/3		
4	土器	甕	(25.8) × - × -	口縁部	ハケ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 橙 4/6		

21 大坪遺跡（第6次）

調査位置 甲府市横根町字左右手305
調査原因 個人住宅建設
対象面積 432.24m²
調査面積 2.76m²
調査期間 平成6年12月19日～21日
調査担当 児玉好美

調査の概要

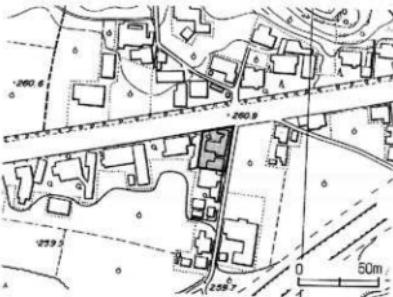
調査地点は甲府市東部に位置し、標高約261mを測る。1982年、東側約300m地点に流れる十郎川の改修工事地点から、「甲斐国山梨郡表門」と刻書された甲斐型土器が発見され、大坪遺跡周辺が『和名抄』に記載される表門郷であることが判明した。また、近年における調査の成果から、甲斐型土器を生産した遺跡と考えられている。

調査は1.2×2.3mの試掘坑を設定し、地表から1m掘り下げた。

まとめ

造構は確認されなかった。遺物も平安時代の土師器小片が数点出土したのみである。

(鈴木由香)



22 油田遺跡

調査位置 甲府市蓬沢一丁目123-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 223.51m²
調査面積 90m²
調査期間 平成7年2月8日
調査担当 児玉好美

調査の概要

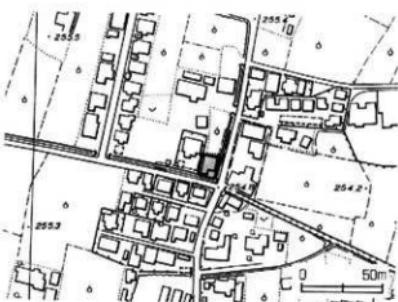
甲府市南東部に位置し、標高約255mを測る。東側約100mに濁川が南流し、周辺には古墳～平安時代、近世の遺跡が数多く存在する地域である。

旧建築物の基礎を取り除く作業の際、重機により1～1.5m程度掘り下げ、土層と廃土を調査した。

まとめ

造構は確認されず、旧建築物の基礎設置のため地表から約1mは搅乱を受けていた。遺物も確認されなかった。

(鈴木由香)



23 大坪遺跡（第7次）

調査位置 甲府市桜井町600、605、609

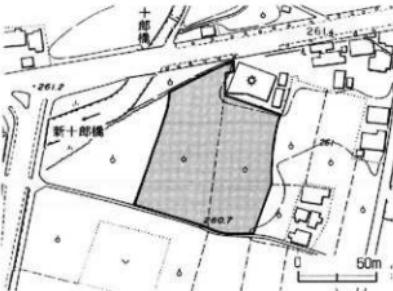
調査原因 埋蔵文化財確認

対象面積 6600m²

調査面積 300m²

調査期間 平成7年3月13日～3月27日

調査担当 平塚洋一



遺跡の立地

十郎川によって形成された扇状地の、十郎川が南東から南西に向きをかえる標高約260m地点に立地する。大坪遺跡は昭和50年（1975）、国道140号線改良工事に際し発掘調査され、未焼成の土器が出土した。今回の調査地点の隣接地が本調査されている。上記の調査結果から、本遺跡が平安時代に土器を生産した遺跡であることが想定されている。

調査の概要

幅2m、長さ約50mの試掘調査トレンチを東西に3箇所設定し、調査を行った。重機で表土を掘削し、その後人力で精査した。調査の結果、調査区の西側を中心に遺構・遺物が確認できた。この調査の目的は、埋蔵文化財の有無を確認するものであり、調査の結果によっては開発そのものが取りやめになる可能性が高かったため、調査によって確認された遺構については、完掘せずそのまま埋設保存することとした。

遺構・遺物

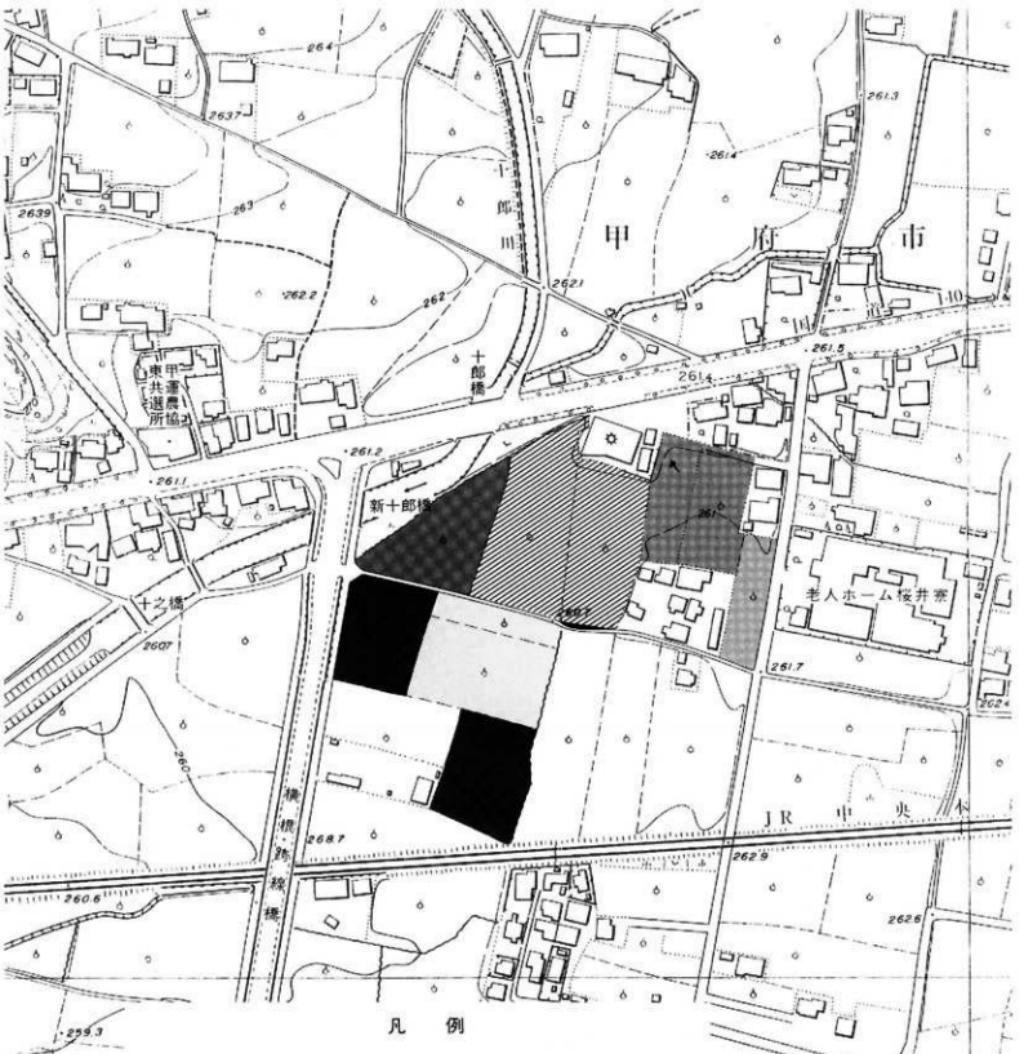
前述の通り、遺構は確認するだけに留め掘り下げなかっただため、詳細は不明である。しかし、遺構検出の傾向として西側に偏って多く検出され、東側は遺構検出も疎になり徐々に湧水し始め自然流路になる様相がうかがえた。

出土遺物は土師器壺・皿が最も多く、次いで壺蓋が多い。壺・甕等の貯蔵具・煮炊具の出土は少ない。桜井畑瓦窯跡も距離的に近いためか、瓦も出土している。出土した壺は体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されるもの、底部にロクロ成形後の糸切り痕が残される。内面に明瞭な暗文が確認できる個体は少ない。成形技法から9世紀後半の所産のものが多い。出土した瓦のなかに軒丸瓦片もある。色調は赤褐色を呈し、内区のみ約1/6程度の破片資料で複弁八葉蓮華文であることが確認できる。破損し外区まで存在しないため全体像は不明だが、寺本庵寺と国分寺の両方から出土している軒丸瓦と同範と思われる。

まとめ

大坪遺跡が所在する甲府地区は、古墳～平安時代にかけての遺跡が密集する地域である。本遺跡北に所在する東畠遺跡や道々茅木遺跡からは古墳～平安時代の集落跡とともに、山梨県最古である金銅製の仏像や金銅製海老鉢が出土している。また、本遺跡の東には白鳳期に操業し寺本庵寺に瓦を供給した川田瓦窯跡、甲斐國分寺に瓦を供給した上土器瓦窯跡が所在するなど、古代において一帯が生産地域を形成し、なおかつ役所的な機構が存在したこととも想定される地域である。今後の調査によりこの地域が担った役割等が解明されることが望まれる。

（平塚洋一）



凡 例

- | | | | |
|--|------------|--|----------|
| | 平成4年 試掘調査 | | 平6年 本調査 |
| | 今回の調査地点 | | 平12年 本調査 |
| | 平成15年 試掘調査 | | 平16年 本調査 |
| | 平成16年 試掘調査 | | |



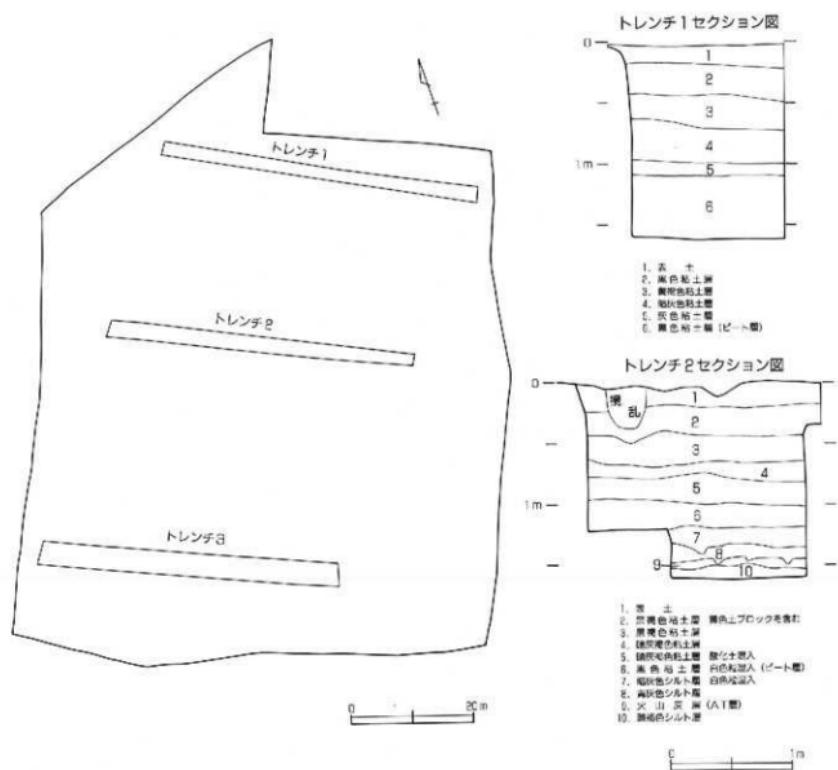


図2 トレンチ配置図、セクション図

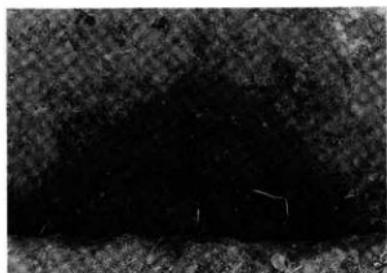


写真1 堪穴住居跡確認状況



写真2 トレンチ3 遺物出土状況

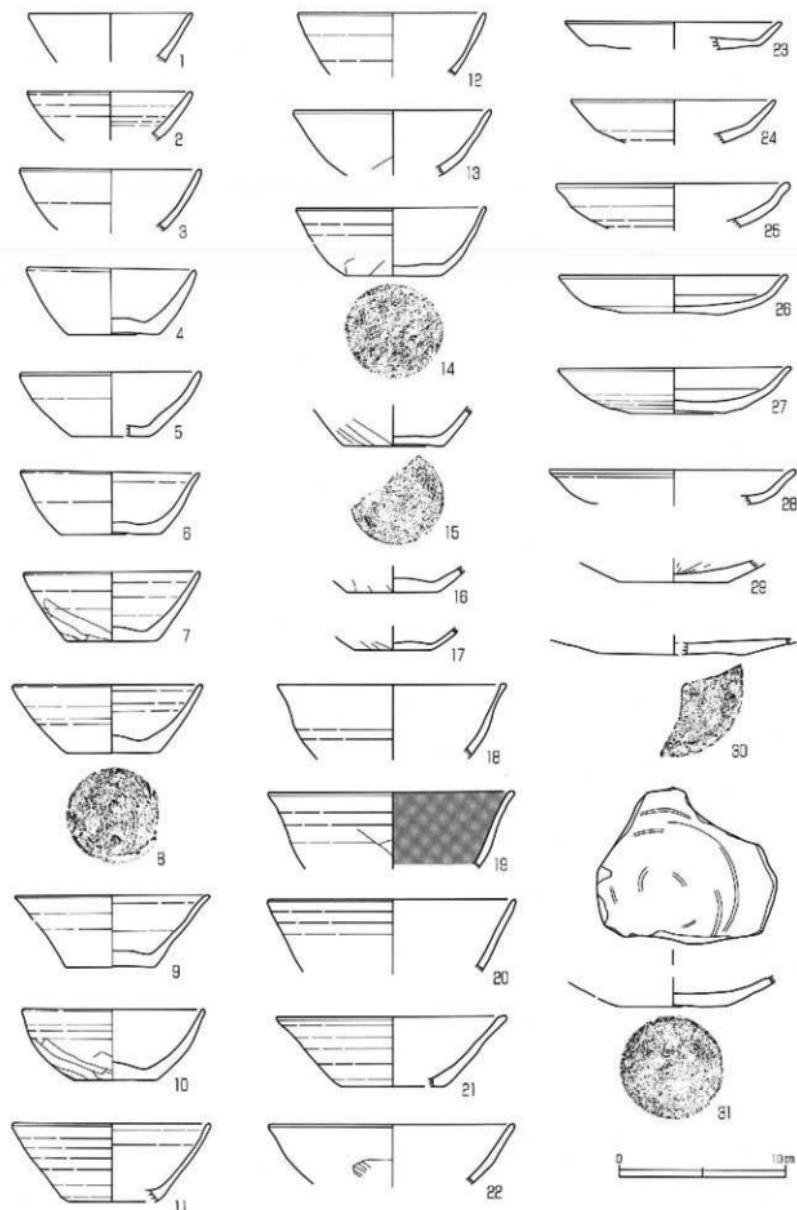


図3 出土遺物(1)

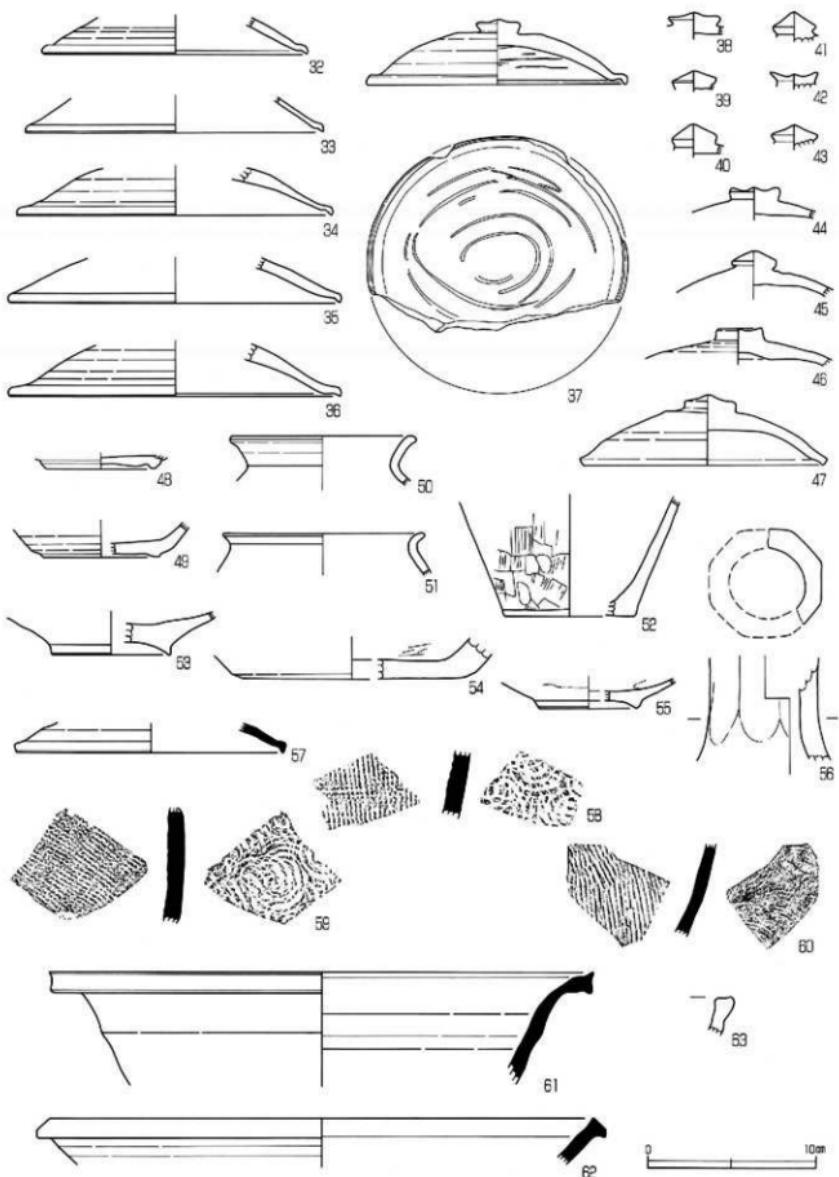


図4 出土遺物(2)

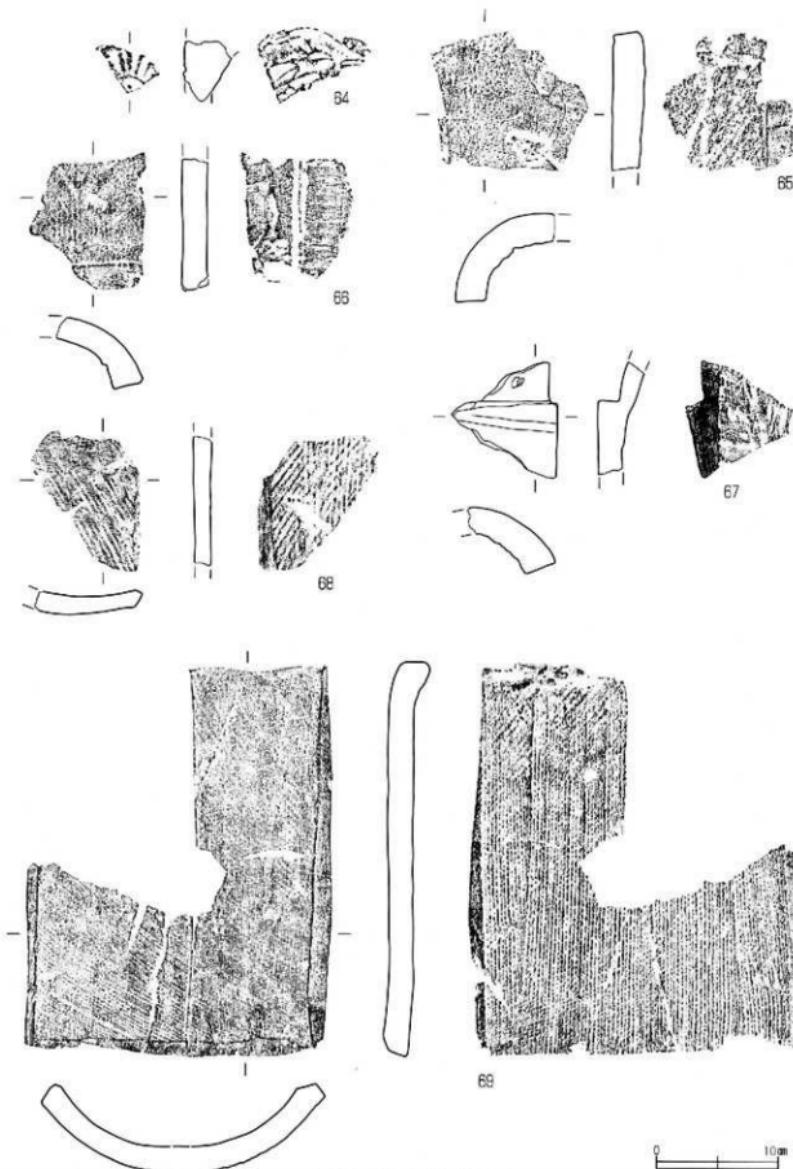


図5 出土遺物(3)

表1 大坪遺跡(第7次)出土遺物観察表

()復元値、単位(cm)

番号	種類	法 量(cm)	部位	測定など	胎 土	焼成	色 調	備考
1	上器 環	(9.8) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	長石・赤色粒子	良	5YR 6/6	
2	土器 環	(10.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	長石・赤色粒子	良	5YR 6/6	
3	上器 環	(11.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 7/6	
4	土器 環	19.0 - 4.0 - 5.5	口縁部- 底部	ナデ 底部へラケズリ	長石・赤色粒子	良	5YR 6/6	
5	土器 環	(10.8) - (3.95) - (4.8)	口縁部- 底部	ナデ	青	良	7.5YR 7/6	
6	土器 環	10.7 - 3.8 - 5.0	口縁部- 底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 6/6	
7	土器 環	(10.6) - 4.2 - (5.3)	口縁部- 底部	内面ナデ 外面へラケズリ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 7/4	
8	土器 環	(11.5) - 4.1 - 5.7	口縁部- 底部	ナデ 底部凹 切り後へラケズリか	青	良	5YR 6/6	
9	土器 環	11.6 - 4.4 - 5.5	口縁部- 底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 6/6	
10	土器 環	11.0 - 4.3 - 5.0	口縁部- 底部	内面ナデ 外面へラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 6/6	
11	土器 環	(12.0) - (4.8) - (5.1)	口縁部- 底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	内) 7.5YR 8/4 外) 5YR 7/6	
12	土器 環	(11.4) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 深黄褐 8/3 外) 7.5YR 深黄褐 8/6	
13	土器 環	(12.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 6/6	
14	土器 環	(11.4) - (5.25) - 5.8	口縁部- 底部	内面ナデ 外面へラケズリ	赤色粒子	良	5YR 6/6	
15	土器 環	- - - - 6.0	底部	内面ナデ 外面へラケズリ	石英	良	7.5YR 深黄褐 8/3	
16	土器 環	- - - - 5.6	底部	内面ナデ 底部へラケズリ	赤色粒子	良	内) 5YR 6/6 外) 5YR 深黄褐 5/6	
17	土器 環	- - - - 4.8	底部	内面ナデ 外面へラケズリ	雲母・金雲母・赤色粒子	良	内) 5YR 明赤褐 5/6 外) 10YR 7/2	
18	土器 環	(14.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 6/6	
19	土器 環	(15.0) - - - -	口縁部- 底部	内面ナデ 外面へラケズリ	赤色粒子	良	内) 10YR 黑褐 3/1 外) 10YR 灰白 8/2	内面黑色
20	土器 環	(15.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 6/6	
21	土器 環	(14.0) - (4.3) - (6.2)	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	10YR 7/2	
22	土器 環	(15.0) - - - -	口縁部- 底部	内面ナデ 外面へラケズリ	赤色粒子	良	7.5YR 6/4	
23	土器 環	(13.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 6/6	
24	土器 瓶	(12.4) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 7/3 外) 7.5YR 7/4	
25	土器 瓶	(14.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 4/1 外) 7.5YR 6/6	
26	土器 瓶	13.6 - 2.3 - 5.8	口縁部- 底部	ナデ	石英・赤色粒子	良	5YR 6/6	
27	土器 瓶	13.8 - 2.8 - 5.5	口縁部- 底部	ナデ 底部へラケズリ	長石・赤色粒子	良	5YR 6/6	
28	土器 瓶	(15.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 明赤褐 7/4 外) 7.5YR 黑褐 6/5	
29	土器 瓶	- - - - (6.6)	底部	内曲射状暗 底部へラケズリ	金雲母・赤色粒子	良	内) 10YR 7/4 外) 7.5YR 6/6	
30	土器 瓶	- - - - (8.6)	底部	ナデ 底部へラケズリ	赤色粒子	良	10YR 7/2	
31	土器 瓶	- - - - 6.4	底部	ナデ 内曲射状暗 底部へラケズリ	長石	良	内) 10YR 7/4 外) 7.5YR 7/4	
32	土器 瓶	(16.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	10YR 7/4	
33	土器 瓶	(18.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 6/4	
34	土器 瓶	(19.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 深黄褐 8/3 外) 7.5YR 深黄褐 8/4	
35	土器 瓶	(20.0) - - - -	口縁部- 底部	ナデ	赤色粒子	良	内) 7.5YR 深黄褐 8/4 外) 7.5YR 7/6	

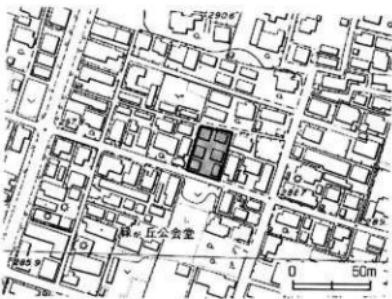
表2 大坪遺跡(第7次)出土遺物観察表

()内は元総、単位(cm)

番号	種別	器種	法 量(cm) 口 径・ 高・底 径	部材	調 整 など	胎 土	焼 成	色 調	備 考
36	土 器	環壺	(20.0) - - - -	口縫部～ 全体	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 程 7/6	
37	土 器	環壺	15.7 - 4.0 - 2.6	つまみ つまみ～ 口縫部	ナデ 内面渦巻状模文	長石・赤色粒子	良	SYR 程 6/6	
38	土 器	環壺	- - - - -	つまみ	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR において程 7/4	
39	土 器	環壺	- - - - -	つまみ	ナデ	赤色粒子	良	10YR 淡黄程 8/3	
40	土 器	環壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	10YR 淡灰程 5/1	
41	土 器	环壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	10YR 明黄程 7/6	
42	土 器	环壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	10YR 明黄程 7/6	
43	土 器	环壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	7.5YR 淡黄程 8/3	
44	土 器	环壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	10YR において黄程 7/2	
45	土 器	环壺	- - - - -	つまみ	ナデ	密	良	内)10YR 灰白 8/2 外)7.5YR 淡黄程 8/4	
46	土 器	环壺	- - - - -	つまみ～ 全体	内面ナデ 外面へラケツリ	長石・赤色粒子	良	SYR 程 6/6	
47	土 器	环壺	14.4 - 4.3 -	つまみ～ 口縫部	内面ナデ 外面へラケツリ	長石・石英・赤色粒子	良	SYR 程 6/6	
48	土 器	高台付环	- - - - 6.6	底部	ロクロナデ 崩り出し高台	金雲母・赤色粒子	良	内)10YR 淡黄程 8/3 外)7.5YR 程 7/6	
49	土 器	高台付环	- - - (7.0)	体部～ 底部	ロクロナデ 崩り出し高台	長石・赤色粒子	良	SYR 程 7/6	
50	土 器	小形壺	(11.0) - - - -	口縫部～ 全体	内面ナデ	赤色粒子	良	7.5YR において程 7/4	
51	土 器	小形壺	(12.0) - - - -	口縫部～ 全体	内面ナデ	赤色粒子	良	10YR 灰白 8/1	
52	上 器	甕	- - - - (8.0)	底部	内面ナデ 外面ハケ・指頭痕	長石・石英・雲母・金雲母	良	内)SYR 明黄程 3/6 外)7.5YR 黄程 3/2	
53	上 器	脚高台付 环	- - - - (7.0)	底部	内面ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 灰白 8/6 外)7.5YR 程 6/6	
54	上 器	甕	- - - - (13.7)	底部	内面ナデ 外面～選部へラケツリ	密	良	内)7.5YR 明灰程 7/1 外)10YR 淡黄程 4/3	
55	灰釉陶器	甕	- - - - (6.0)	底部	灰釉	雲母	良	-	
56	土 器	高环	- - - - -	脚部	内面ナデ 外面カケツリ	密	良	10YR 灰白 8/2	
57	須恵器	蓋	(16.0) - - - -	口縫部	内面ナデ	密	良	N 灰 6/	
58	須恵器	甕	- - - - -	腹部	内面青海波文 外面叩き	密	良	N 灰 6/	
59	須恵器	甕	- - - - -	腹部	内面青海波文 外面叩き	密	良	N 灰 6/	
60	須恵器	甕	- - - - -	不明	外面叩き	密	良	SY 灰白 7/1	転用窓
61	須恵器	甕	(33.0) - - - -	口縫部～ 全体	-	密	良	N 灰 5/	
62	須恵器	甕	(33.0) - - - -	口縫部	-	密	良	N 灰白 7/	
63	陶 器	片口鉢	- - - - -	口縫部	泡釉	密	良	-	
64	瓦	肝瓦	- - - - -	-	-	長石・赤色粒子	良	SYR 程 6/6	
65	瓦	丸瓦	厚さ 2.5 - - - -	-	表面ナデ 裏面布目か	長石	良	2.5Y 黄灰 4/1	
66	瓦	丸瓦	厚さ 2.1 - - - -	-	表面織目 裏面布目	長石	良	2.5Y 淡灰 7/2	
67	瓦	丸瓦	厚さ 2.3 - - - -	-	表面ケツリ・ナデ 裏面布目	長石	良	SY 灰 4/1	
68	瓦	平瓦	厚さ 1.4 - - - -	-	表面布目 裏面織目	長石・赤色粒子	良	2.5Y 黄灰 6/1	
69	瓦	平瓦	厚さ 1.4 - 27.2 - 2.6	-	表面布目 裏面織目	長石	良	10YR 灰 4/1	頂みあり

24 緑が丘一丁目遺跡（第4次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目135-3、4
調査原因 集合住宅建設
対象面積 607.61m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成7年3月22日～31日
調査担当 児玉好美



調査の概要

緑が丘一丁目遺跡はこれまでの発掘調査の結果、縄文～古墳時代の土器が出土し、東側約100m地点の緑が丘一丁目遺跡（第3次）の調査では、古墳時代の土器を伴う土坑や溝が確認されている。

調査は2×2mの試掘坑を設定し、約1m掘り下げた。

遺構

遺構は確認されなかった。基本層序は次の通りである。

- I層 茶褐色土層 瓦を含む。
- II層 灰青褐色土層 鉄分・水分を含み、粘性がある。
- III層 褐色土層 黄色粒子を少量含み、しまりがある。
- IV層 灰褐色土層 白色粒子・鉄分を含み、しまりがある。
- V層 暗灰褐色土層 しまりがある。
- VI層 暗褐色土層 水分を含み、しまりがある。
- VII層 暗茶褐色土層 黄色粒子・水分を含み、しまりがある。

遺物

古墳時代前期～後期の土師器片が数点出土したが、小片のため図示できなかった。

まとめ

今回の調査において遺構は確認されなかったが、隣接地での遺構確認事例があるため、今後の周辺調査に期待したい。

(鈴木由香)

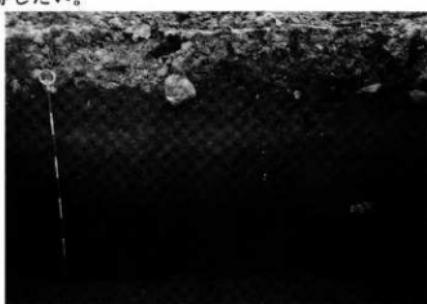
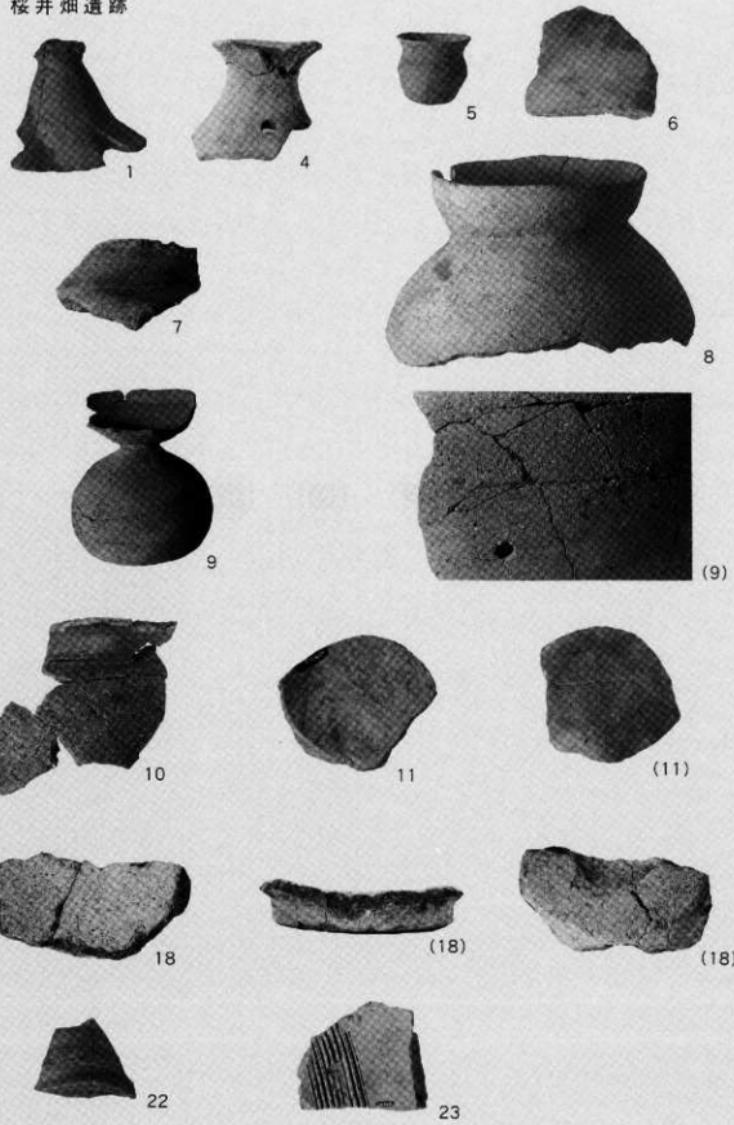


写真1 東壁土層堆積状況

写 真 図 版

桜井烟遺跡



図版1 桜井烟遺跡

緑が丘二丁目遺跡(第2次)



2

4

(4)



6



7



8

塚腰遺跡



1



2



3



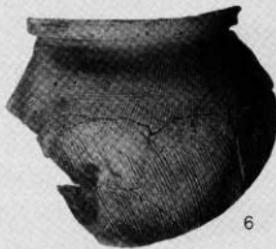
4



5



(5)



6



7



8

図版2 緑が丘二丁目遺跡(第2次)、塚腰遺跡

本郷 C 遺跡



1



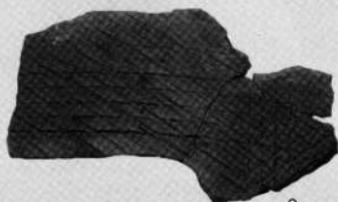
(1)



2



(2)



3



表採

緑が丘一丁目遺跡（第3次）



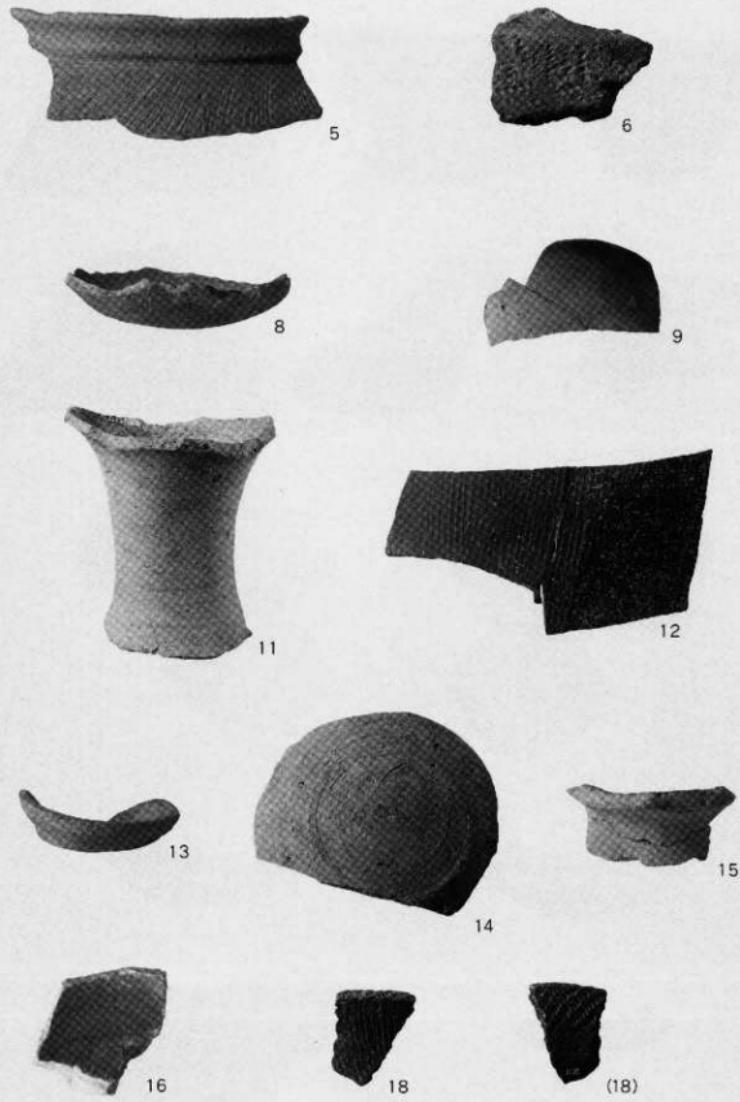
2



3

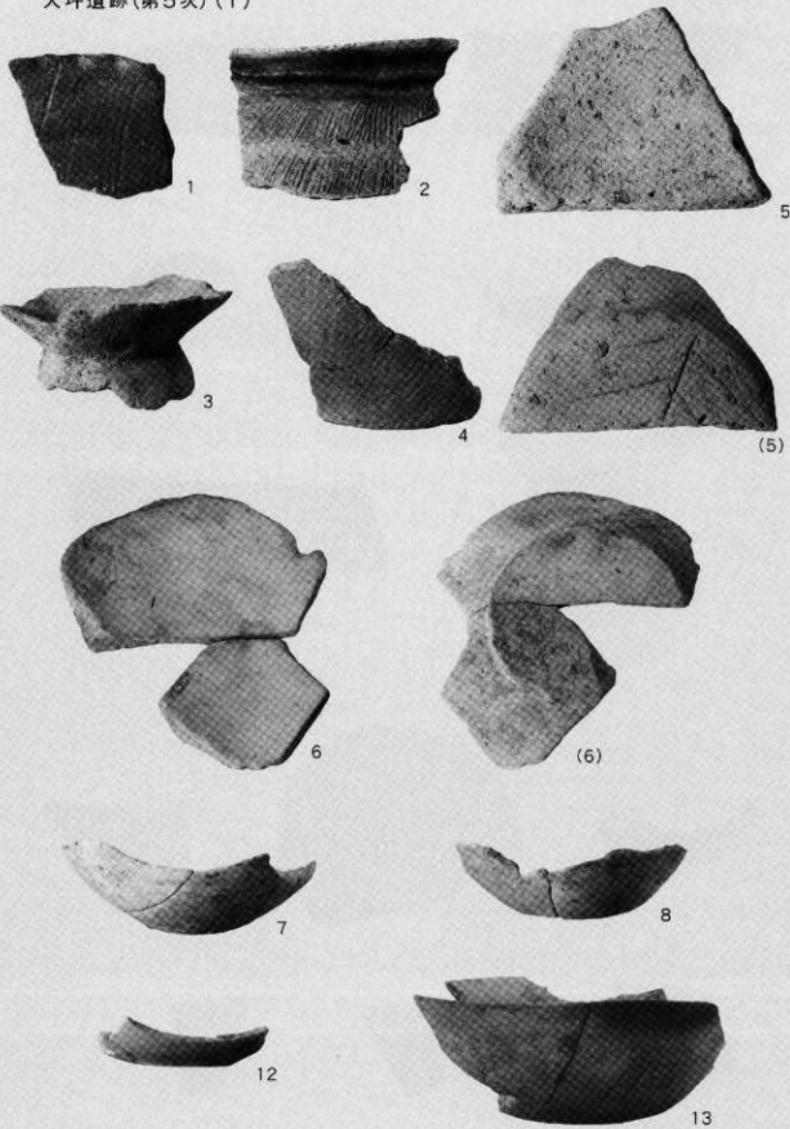
図版3 本郷C遺跡、緑が丘一丁目遺跡(第3次)

金塚西遺跡



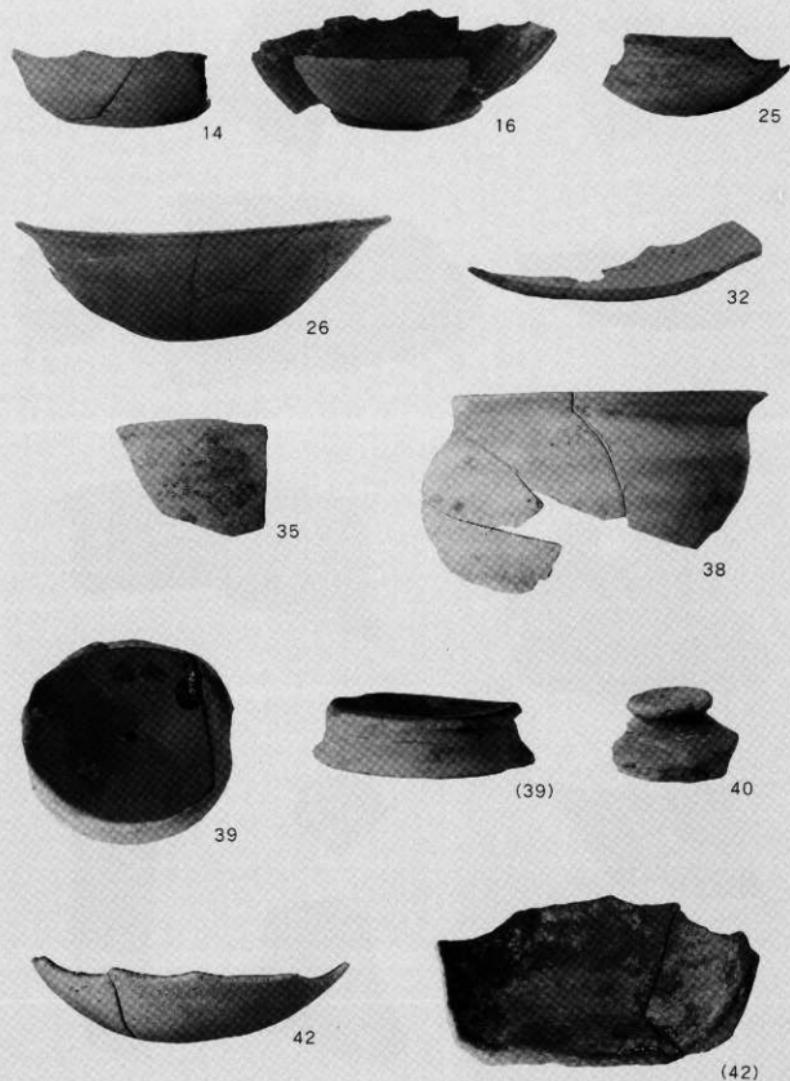
図版4 金塚西遺跡

大坪遺跡(第5次) (1)



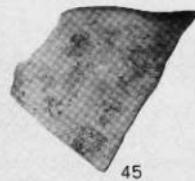
図版5 大坪遺跡(第5次) (1)

大坪遺跡(第5次)(2)

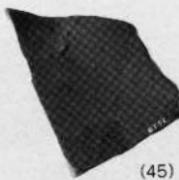


図版6 大坪遺跡(第5次)(2)

大坪遺跡(第5次)(3)



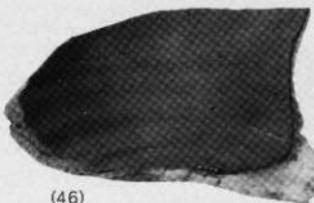
45



(45)



46



(46)



47

緑が丘二丁目遺跡(第3次)



2



4

前田遺跡



3



1



2



3

図版7 大坪遺跡(第5次)(3), 緑が丘二丁目遺跡(第3次)、前田遺跡

緑が丘二丁目遺跡（第4次）



4



7



10



12

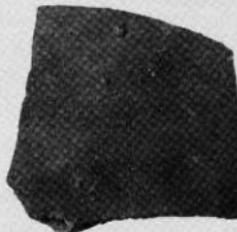
緑が丘二丁目遺跡（第5次）



2



3



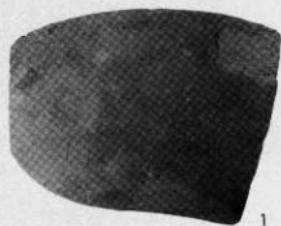
4



5

図版8 緑が丘二丁目遺跡（第4次）、緑が丘二丁目遺跡（第5次）

緑が丘二丁目遺跡（第6次）



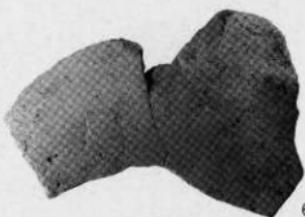
1



2



3



6



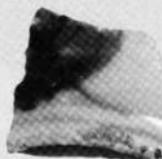
8



9



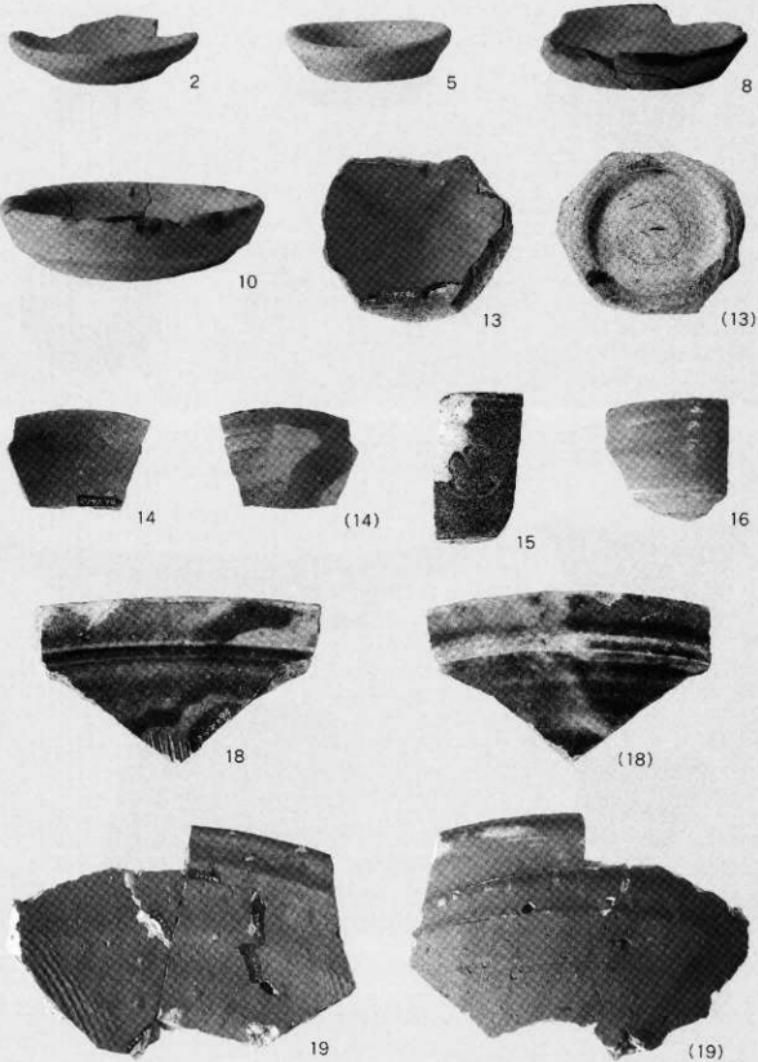
14



15

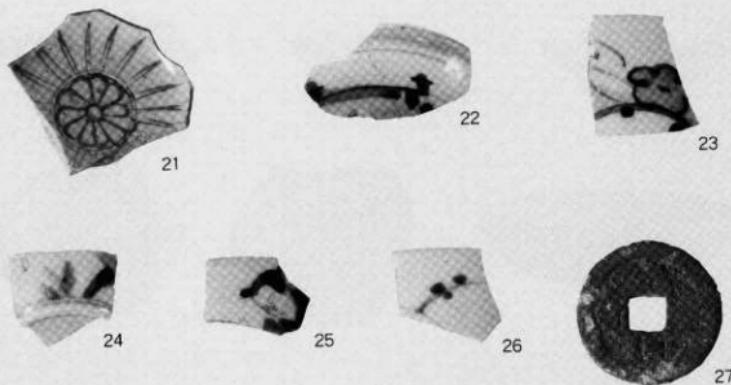
図版9 緑が丘二丁目遺跡（第6次）

加藤光泰の墓(1)

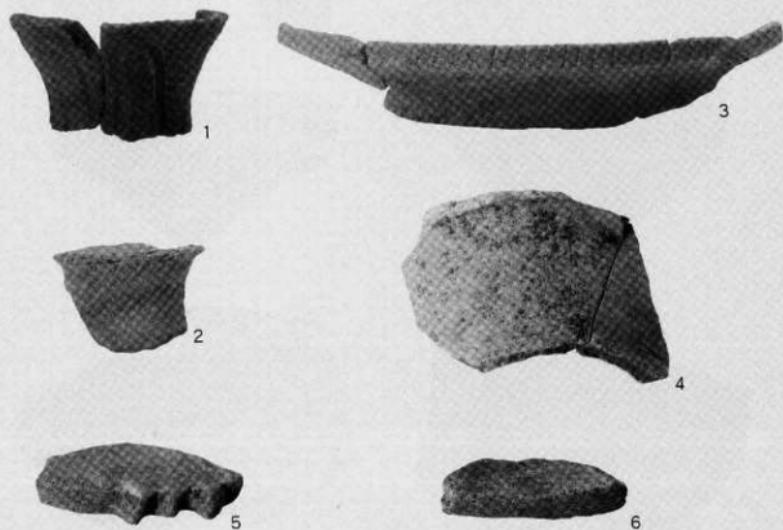


図版10 加藤光泰の墓(1)

加藤光泰の墓(2)



緑が丘二丁目遺跡(第7次)(1)

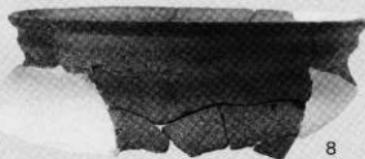


図版11 加藤光泰の墓(2)、緑が丘二丁目遺跡(第7次)(1)

緑が丘二丁目遺跡(第7次)(2)



7



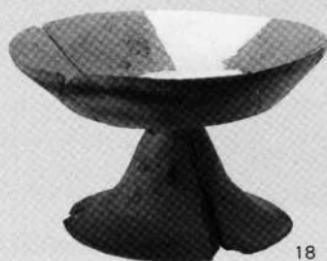
8



9



14



18



17



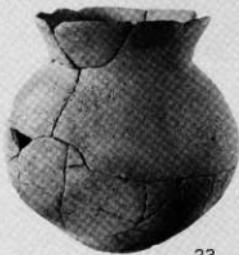
19



20



21



23



24



25

図版12 緑が丘二丁目遺跡(第7次)(2)

緑が丘二丁目遺跡（第7次）(3)



27



28



29



(29)



30



(30)

大坪遺跡（第7次）(1)



4



6



7



8



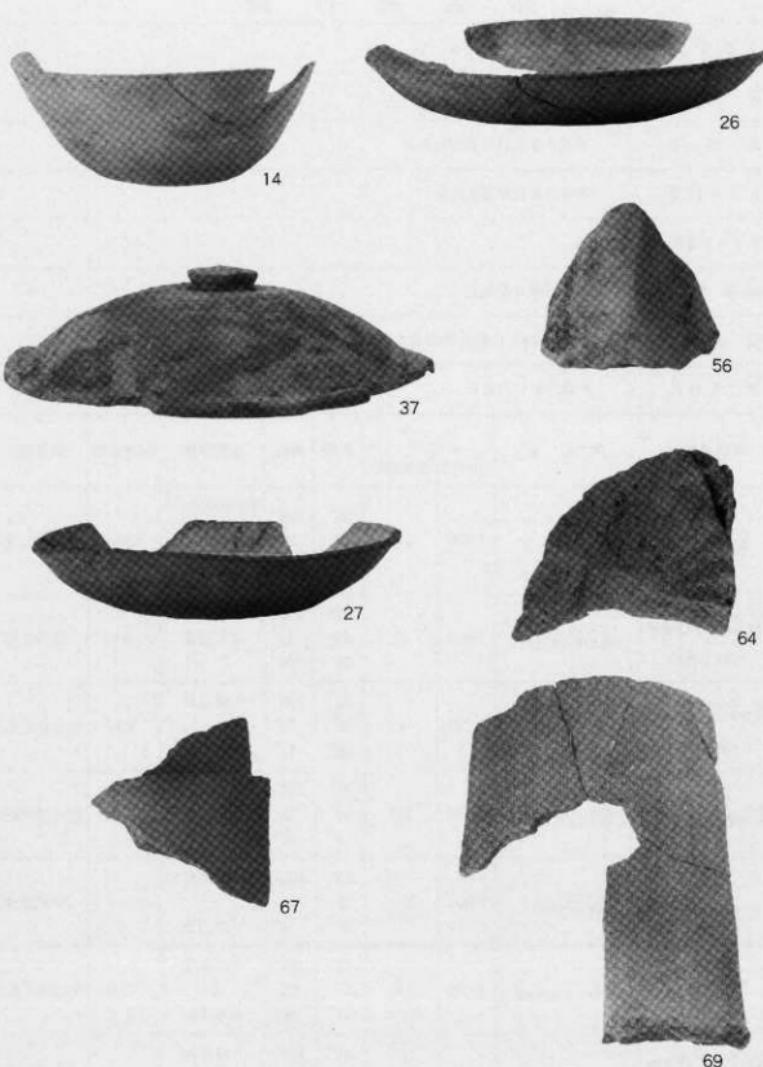
9



10

図版13 緑が丘二丁目遺跡(第7次)(3)、大坪遺跡(第7次)(1)

大坪遺跡（第7次）（2）



図版14 大坪遺跡（第7次）（2）

報告書抄録

ふりがな	こうふしないいせき 2								
書名	甲府市内遺跡 II								
副書名	平成6年度試掘調査報告書								
シリーズ名	甲府市文化財調査報告								
シリーズ番号	29								
編集機関	甲府市教育委員会								
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18-1 電話 055 (223) 7324								
発行年月日	平成17年3月31日								
番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
1	桜井畠遺跡	川田町495-2	19201	171	35°29'20"	138°36'56"	平成6年(1994) 5月23日 ~ 6月15日	26m ²	個人住宅建設
2	緑が丘二丁目遺跡 (第1次)	和田町2431-1	19201	42	35°40'59"	138°33'33"	6月23日	6m ²	宅地造成
3	緑が丘二丁目遺跡 (第2次)	他	19201	42	35°40'56"	138°33'45"	6月24日 ~ 6月30日	25m ²	集合住宅建設
4	朝氣遺跡(第9次)	朝氣三丁目18	19201	121	35°39'6"	138°34'49"	7月5日 ~ 7月8日	12m ²	個人住宅建設
5	塚原遺跡	国玉町899	19201	214	35°38'50"	138°36'1"	8月25日 ~ 9月28日	340m ²	市道建設
6	本郷C遺跡	善光寺一丁目1909-1	19201	132	35°39'34"	138°35'37"	9月6日 ~ 9月9日	12m ²	集合住宅建設
7	緑が丘一丁目遺跡 (第3次)	緑が丘二丁目135-5	19201	43	35°39'28"	138°36'56"	9月28日 ~ 10月12日	16m ²	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
8	金塚西遺跡	千塚三丁目2237他	19201	24	35° 41' 5"	138° 32' 37"	9月13日 ~ 10月14日	80m ²	公園建設
9	大坪遺跡(第5次)	横根町608	19201	149	35° 39' 30"	138° 36' 46"	9月30日 ~ 10月12日	16m ²	集合住宅建設
10	緑が丘二丁目遺跡 (第3次)	緑が丘二丁目893-1 他	19201	42	35° 40' 56"	138° 33' 43"	10月18日 ~ 10月24日	8m ²	個人住宅建設
11	宮の郷A遺跡	善光寺二丁目2739-1	19201	97	35° 39' 56"	138° 35' 31"	10月19日	4m ²	物置・ 車庫建設
12	朝氣遺跡(第10次)	朝氣三丁目71-1他	19201	121	35° 39' 7"	138° 34' 40"	11月1日 ~ 11月7日	12m ²	宅地造成
13	前田遺跡	池田二丁目285-1他	19201	70	35° 40' 16"	138° 32' 32"	11月7日 ~ 11月10日	8m ²	個人住宅建設
14	緑が丘二丁目遺跡 (第4次)	和田町709 他	19201	42	35° 41' 2"	138° 33' 44"	11月8日 ~ 11月15日	20m ²	宅地造成
15	北山遺跡	川山町114-3 他	19201	175	35° 39' 23"	138° 37' 25"	11月11日 ~ 11月14日	8m ²	個人住宅建設
16	緑が丘二丁目遺跡 (第5次)	緑が丘二丁目897-1 他	19201	42	35° 40' 56"	138° 33' 44"	11月16日 ~ 11月25日	12m ²	宅地造成
17	緑が丘二丁目遺跡 (第6次)	和田町728-1	19201	42	35° 41' 2"	138° 33' 40"	11月21日 ~ 12月8日	16m ²	集合住宅建設
18	加藤光泰の墓	善光寺三丁目2678	19201		35° 39' 59"	138° 35' 37"	11月21日 ~ 12月9日	10m ²	墓域整備
19	緑が丘二丁目遺跡 (第7次)	緑が丘二丁目2393-1 他	19201	42	35° 40' 60"	138° 33' 41"	12月6日 ~ 1月10日	180m ²	宅地造成

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
20	朝氣遺跡(第11次)	朝氣三丁目81-1	19201	121	35°39'4"	138°34'49"	12月12日～12月16日	4 m ²	個人住宅建設
21	大坪遺跡(第6次)	横根町305	19201	149	35°39'27"	138°36'44"	12月19日～12月21日	3 m ²	個人住宅建設
22	油田遺跡	蓬沢一丁目123-1他	19201	206	35°38'43"	138°35'32"	平成7年(1995)2月8日	90m ²	個人住宅建設
23	大坪遺跡(第7次)	桜井町600他	19201	149	35°39'28"	138°36'56"	3月13日～3月27日	300m ²	埋蔵文化財確認
24	縁が丘一丁目遺跡(第4次)	縁が丘二丁目135-3他	19201	43	35°39'28"	138°36'56"	3月22日～3月31日	4 m ²	集合住宅建設

甲府市文化財調査報告 29

甲府市内遺跡 II

— 平成6年度試掘調査報告書 —

平成17年3月31日

発行 甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055 (223) 7324

FAX 055 (226) 4889

印刷 梅内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号

